

# 男女共同参画に関する 意識調査

## 報告書

平成26年 2 月

岡 垣 町



# 目 次

## < I. 調査の概要・回答者の属性 >

■ 調査の概要 -----	1
1. 調査の目的 -----	1
2. 調査設計 -----	1
3. 調査結果の見方 -----	2
■ 回答者の属性 -----	3

## < II. 調査結果 >

### 1. 男女平等について

(1) 男女平等や男女共同参画をテーマとした話題の関心度 -----	5
(2) 男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験 -----	6
(3) 男女共同参画に関する用語の認知状況 -----	8
(4) 社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感 -----	10
(5) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について -----	19

### 2. 家庭、地域活動について

(1) 家事を男女で分担することについての意識 -----	21
(2) 家庭内の役割分担について -----	23
(3) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方 -----	32
(4) 男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくために必要なこと -----	38
(5) 地域づくりにかかわる活動への参加状況 -----	40
(6) 地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼された時の対応 -----	42
(7) 地域づくり活動の代表や役職への就任の依頼を断る理由 -----	44
(8) 地域活動における女性の参画を進めるために必要なこと -----	45
(9) 地域活動に多くの人に参加していくために必要な環境や条件 -----	47
(10) 防災対策に女性が参画するために必要なこと -----	49

### 3. 子どもの教育について

(1) 男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるもの -----	51
--	----

### 4. 就業状況・職業観などについて

(1) 女性が働くことに対する意識 -----	53
(2) 現在勤めている職場の育児休業や介護休業の取りやすさ -----	54
(3) 働いていない理由 -----	56
(4) 仕事から遠ざかっていた女性が再就職(業)しやすくなるために必要な援助 -----	57
(5) 女性が働き続ける上での課題 -----	59

5. セクシュアル・ハラスメントやDVについて	
(1) セクシュアル・ハラスメントの経験	61
(2) セクシュアル・ハラスメントを受けた場所	63
(3) セクシュアル・ハラスメントを受けた後の対応	64
(4) DVを身近で見聞きしたり受けたりした経験	65
(5) DVを受けた後の対応	67
(6) 女性に対する暴力をなくすための方策	68
6. 男女共同参画関連施策などについて	
(1) 岡垣町男女共同参画条例制定の認知状況	71
(2) 岡垣町が実施している事業の認知・参加(利用)状況	72
(3) 男女の意見を平等に施策へ反映させていくために一番重要なこと	79
(4) 男女共同参画をより一層推進するための方策	80
(5) 男女共同参画社会の実現に向けた意見・要望	82
<付属資料:調査票>	97

## < I . 調査の概要・回答者の属性 >



# ■ 調査の概要

---

## 1. 調査の目的

町民の男女共同参画に関する意識や要望の変化、意見などを統計的に把握し、今後の問題解決のための施策をより充実させていくための基本資料とする。

## 2. 調査設計

### (1) 調査地域

岡垣町内全域

### (2) 調査対象

満 18 歳から 79 歳までの男女

### (3) 調査方法

郵送による調査

### (4) 標本の抽出方法

住民基本台帳より無作為抽出

### (5) 配布・回収状況

【全 体】

発送数	回収数	(回収率)	有効回収数	(有効回収率)
1,300 件	661 件	50.8%	660 件	50.8%

### (6) 調査実施期間

平成 26 年 1 月 ● 日 (●) ~ 平成 26 年 1 月 ● 日 (●)

### (7) 調査主体

岡垣町

### (8) 調査委託機関

(株)西日本リサーチ・センター

### 3. 調査結果の見方

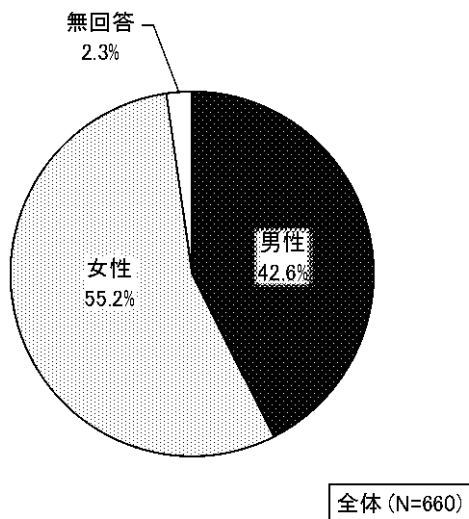
- ①単数回答の集計については、設問ごとに不明の項目を設けて、これを含めた全体の基数（標本数）を100%としている。  
なお、回答率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、数表、図表に示す回答率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ②複数回答の集計については、項目別に、基数（標本数）に対するその項目を選んだ回答者の割合としている。  
従って、数表、図表に示す各項目の回答率の合計は100%を超える場合がある。
- ③回答結果を再集計する場合においては、実数をベースとして再計算しているため、単純に構成比を合計した割合とは異なっている。
- ④数表、図表、文中に示すN、nは、回答率算出上の基数（標本数）である。  
N＝標本全数  
n＝該当数（その質問に回答しなくてよい人を除いた数）
- ⑤数表、図表に示す選択肢はスペースの関係で文言を短縮して表記している場合があるので、詳細は調査票を参照のこと。
- ⑥調査結果の比較として、「岡垣町の前回調査」、国及び福岡県の「男女共同参画調査」との分析を行っている。

〔 ・国：平成24年10月実施  
・福岡県：平成21年5月実施 〕

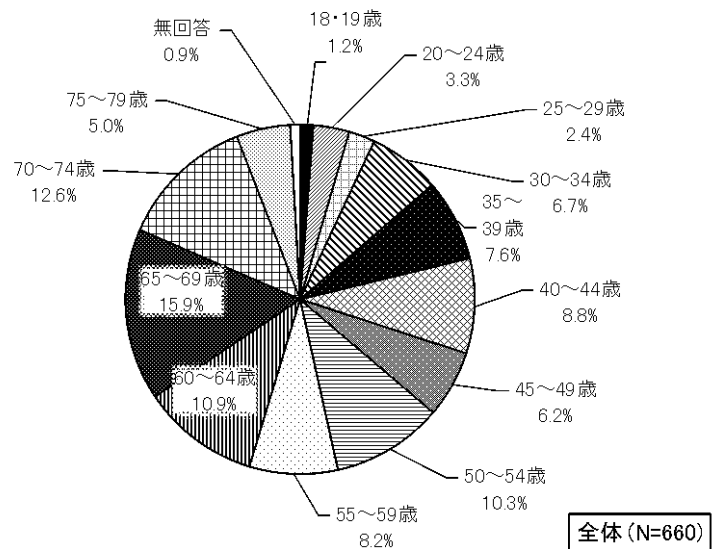


## ■回答者の属性

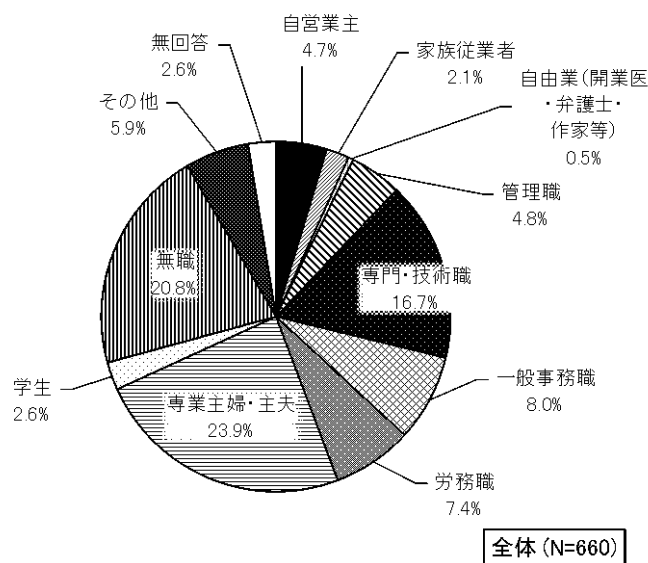
(1) 性別



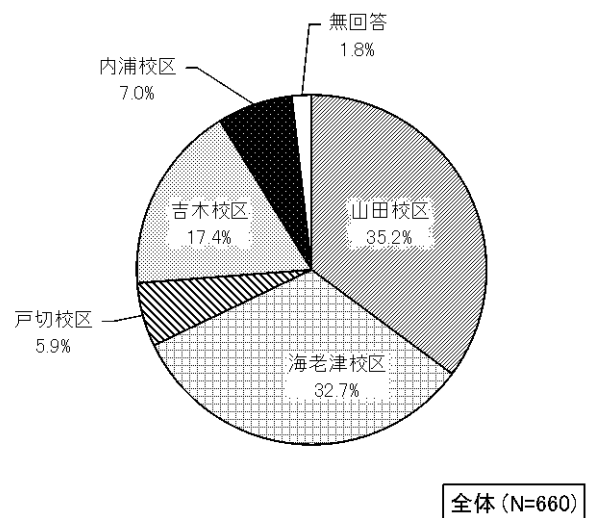
(2) 年齢



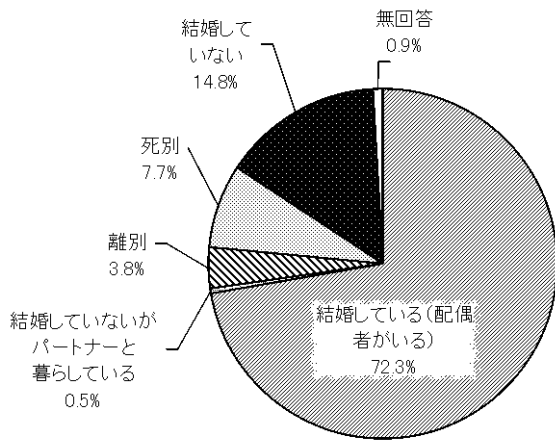
(3) 職業



(4) 小学校区

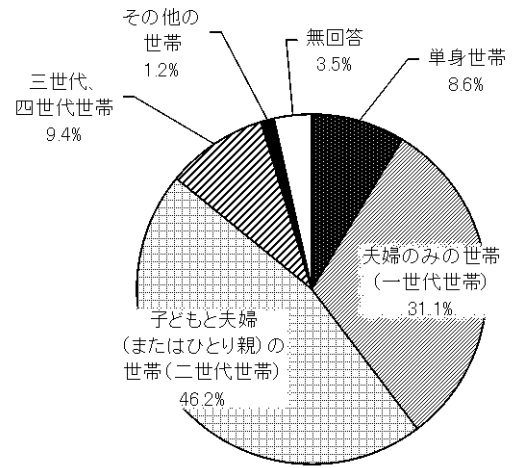


(5) 未既婚



全体 (N=660)

(6) 世帯状況



全体 (N=660)

## < II . 調查結果 >



## 1. 男女平等について



# (1) 男女平等や男女共同参画をテーマとした話題の関心度

問1. あなたは男女平等や男女共同参画をテーマにする話題にどの程度関心がありますか。1つだけ選んでください。

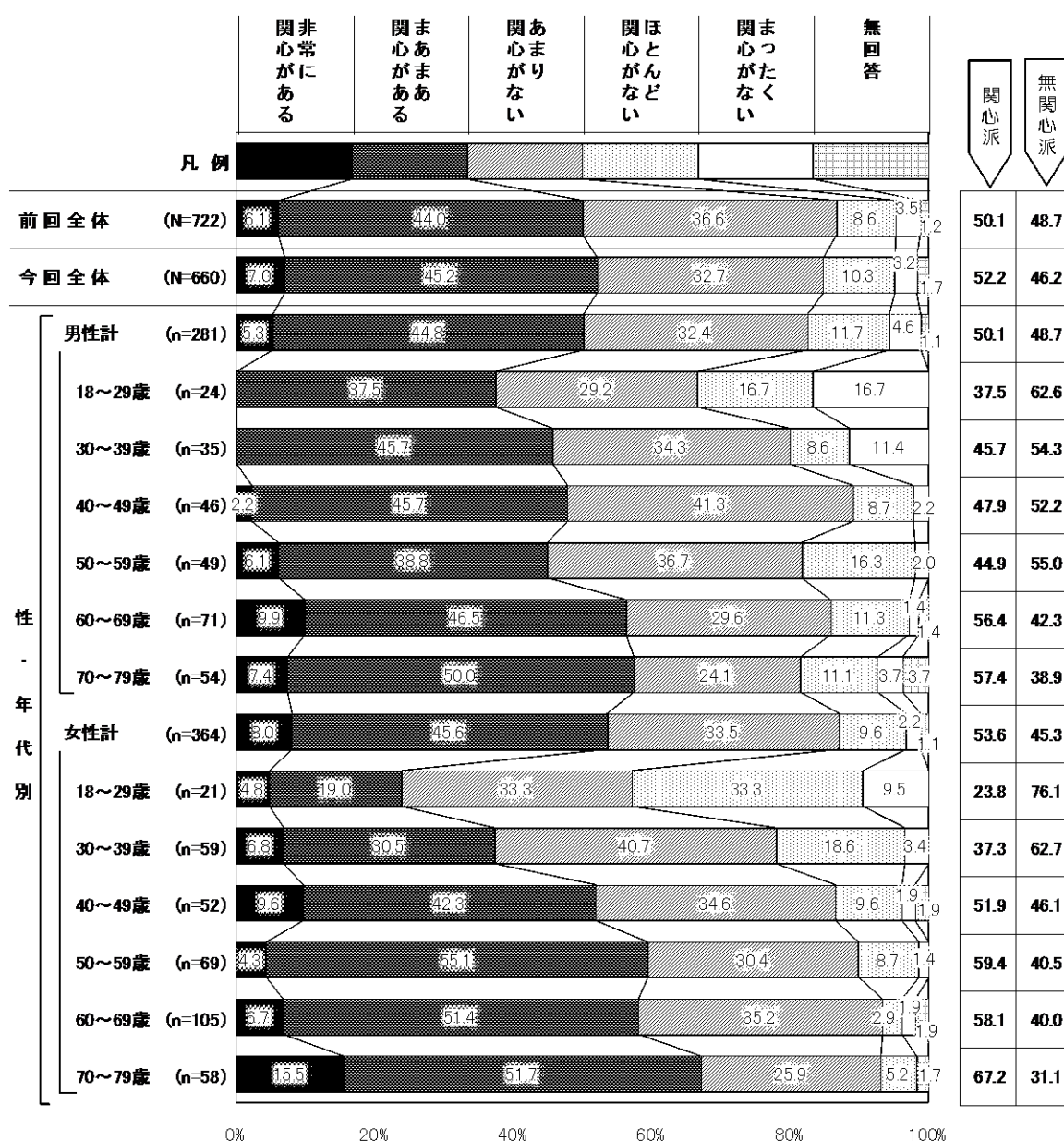
～『関心派』と『無関心派』がほぼ同率～

男女平等や男女共同参画をテーマとした話題の関心度をみると、「非常に関心がある」が7.0%、「まあまあ関心がある」が45.2%と、『関心派』（「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」の合計）が52.2%と半数を占めている。

前回の調査結果と比較すると、今回の『関心派』がやや上回るものの、ほぼ同様の結果となっている。

性・年代別でみると、男性全体で『関心派』は50.1%、女性全体で『関心派』は53.6%と、やや女性における関心度が高くなっている。

＜男女平等や男女共同参画をテーマとした話題の関心度（図表 1-1）＞



※ 【関心派】＝「非常に関心がある」、「まあまあ関心がある」の合計  
 【無関心派】＝「まったく関心がない」、「ほとんど関心がない」、「あまり関心がない」の合計

## (2) 男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験

問2. あなたはこれまでに、男女平等や男女共同参画について話し合ったり学習したりしたことがありますか。該当する項目すべてを選んでください。

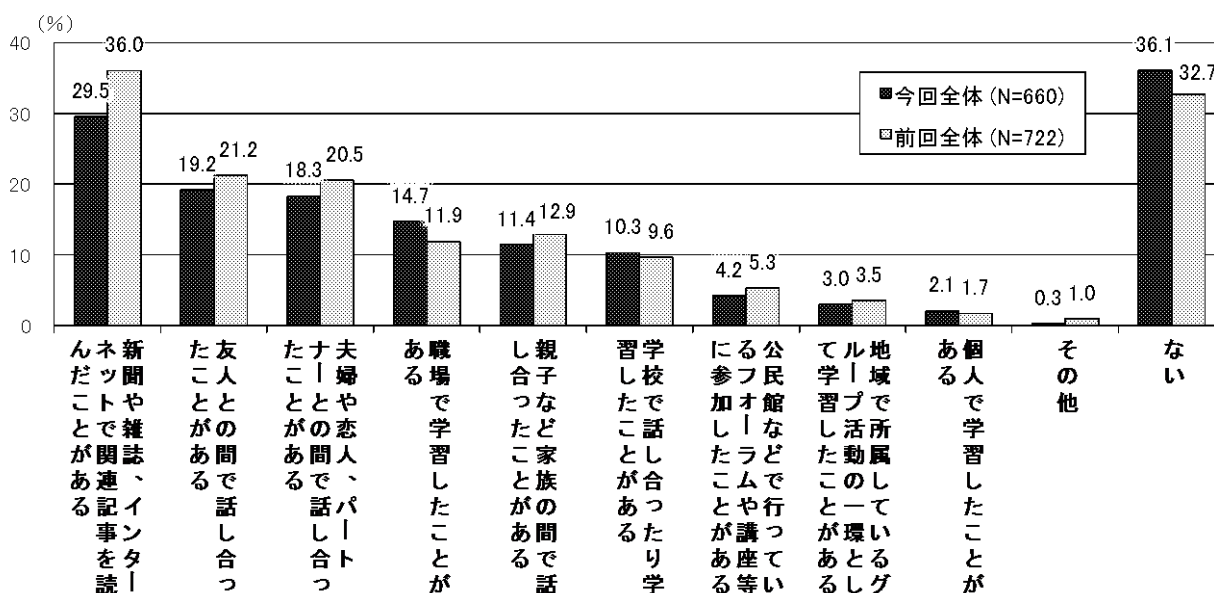
### ～「新聞や雑誌で関連記事を読んだことがある」がトップ～

男女平等や男女共同参画についての学習経験をみると、「新聞や雑誌、インターネットで関連記事を読んだことがある」が29.5%で最も高く、次いで「友人との間で話し合ったことがある」(19.2%)、「夫婦や恋人、パートナーとの間で話し合ったことがある」(18.3%)などとなっている。また、「ない」と回答した人は36.1%となっている。

前回の調査結果と比較すると、「職場で学習したことがある」の割合が2.8ポイント増加している。

性・年代別にみると、男女とも18～29歳では「学校で話し合ったり学習したことがある」と回答する人が最も多く、男性18～29歳では75.0%を占めている。

<男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験 (図表 1-2) >





<男女平等や男女共同参画に関する話し合いや学習経験（図表 1-3）>

（単位：％）

	サンプル数	新聞や雑誌、インターネットで関連記事を読んだことがある	友人との間で話し合ったことがある	夫婦や恋人、パートナーとの間で話し合ったことがある	職場で学習したことがある	親子など家族の間で話し合ったことがある	学校で話し合ったり学習したことがある	公民館などで行っている講座等に参加したことがある	学習したことがある	地域で所属しているグループ活動の一環として	個人で学習したことがある	ない	その他	無回答
全体	660	29.5	19.2	18.3	14.7	11.4	10.3	4.2	3.0	2.1	36.1	0.3	2.0	
性・年代別	男性計	281	29.2	12.5	16.0	18.9	9.3	11.7	3.2	2.8	1.8	36.7	0.4	0.7
	18～29歳	24	25.0	8.3	4.2	4.2	4.2	75.0	4.2	-	4.2	16.7	-	-
	30～39歳	35	28.6	5.7	22.9	14.3	5.7	17.1	8.6	-	-	40.0	-	-
	40～49歳	46	17.4	15.2	23.9	37.0	10.9	13.0	-	-	-	26.1	-	-
	50～59歳	49	36.7	10.2	22.4	28.6	6.1	2.0	-	4.1	2.0	36.7	-	-
	60～69歳	71	33.8	15.5	15.5	19.7	15.5	2.8	4.2	1.4	2.8	39.4	1.4	-
	70～79歳	54	27.8	14.8	5.6	3.7	7.4	-	3.7	9.3	1.9	48.1	-	3.7
	男性年齢無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
	女性計	364	29.9	24.5	20.3	11.5	12.6	9.3	4.9	3.3	2.5	36.0	0.3	1.9
	18～29歳	21	23.8	9.5	4.8	4.8	9.5	57.1	-	-	-	33.3	-	-
	30～39歳	59	23.7	16.9	13.6	10.2	5.1	16.9	1.7	1.7	5.1	44.1	-	-
	40～49歳	52	30.8	28.8	38.5	19.2	15.4	9.6	5.8	1.9	-	30.8	-	-
	50～59歳	69	27.5	33.3	24.6	10.1	18.8	4.3	2.9	-	1.4	36.2	1.4	-
	60～69歳	105	32.4	23.8	18.1	16.2	13.3	2.9	5.7	4.8	3.8	35.2	-	4.8
70～79歳	58	36.2	24.1	15.5	1.7	10.3	1.7	10.3	8.6	1.7	34.5	-	3.4	
無回答	15	26.7	20.0	13.3	13.3	20.0	6.7	6.7	-	-	26.7	-	26.7	

### (3) 男女共同参画に関する用語の認知状況

問3. あなたは、次の言葉について知っていますか。該当する項目すべてを選んでください。

#### ～「男女雇用機会均等法」、「配偶者からの暴力防止法（DV防止法）」の認知率は8割以上を占める～

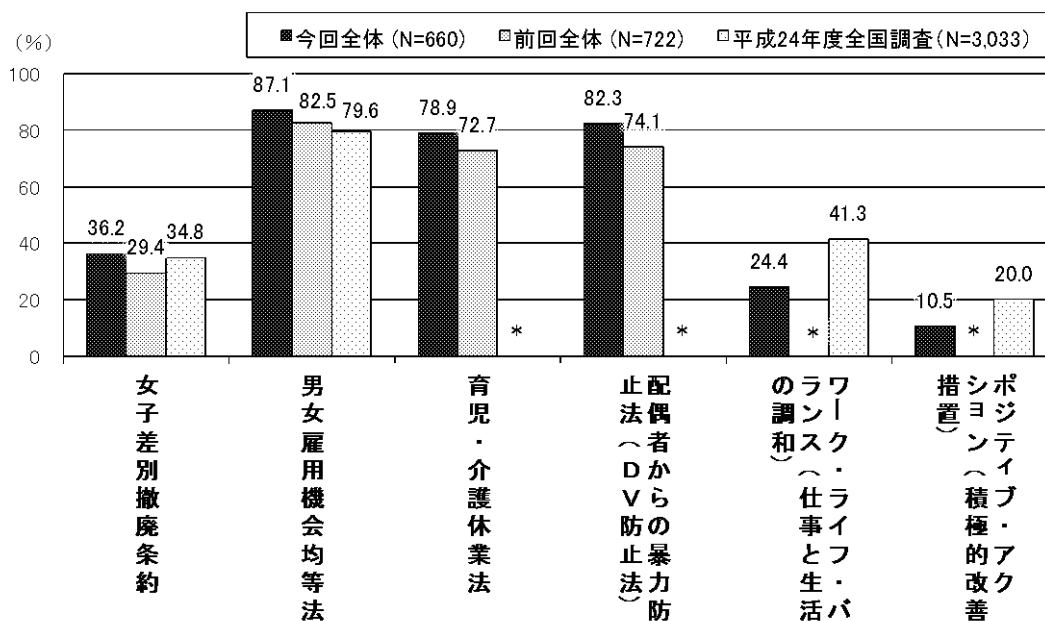
男女共同参画に関する法律・言葉の認知状況をみると、「男女雇用機会均等法」（87.1%）、「配偶者からの暴力防止法（DV防止法）」（82.3%）、「育児・介護休業法」（78.9%）が高い認知率となっているが、「女子差別撤廃条約」（36.2%）、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（24.4%）は2～3割程度、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（10.5%）は1割程度の認知率となっている。

前回の調査結果と比較すると、前回の調査において確認していない法律・言葉以外はすべて認知率が増加しており、中でも「配偶者からの暴力防止法（DV防止法）」については8.2ポイントも増加している。

性・年代別にみると、男女とも18～29歳において「女子差別撤廃条約」の認知率が高く、男性18～29歳では62.5%を占めている。なお、「男女共同参画社会基本法」は女性30～39歳、「配偶者からの暴力防止法」は男性50～59歳、「育児・介護休業法」は女性18～29歳の認知率が最も高くなっている。

なお、国の調査結果と比較すると、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の認知率が低くなっている。

<男女共同参画に関する用語の認知状況（図表1-4）>



注）\*は選択肢にない項目

＜男女共同参画に関する用語の認知状況（図表 1-5）＞

（単位：％）

	サンプル数	女子差別撤廃条約	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	配偶者からの暴力防止法 （DV防止法）	ワーク・ライフ・バランス （仕事と生活の調和）	ポジティブ・アクション （積極的改善措置）	無回答	
全 体	660.0	36.2	87.1	78.9	82.3	24.4	10.5	3.6	
性・年代別	男性計	281.0	36.7	90.7	77.6	81.1	26.7	11.4	3.9
	18～29歳	24.0	62.5	87.5	66.7	66.7	25.0	16.7	8.3
	30～39歳	35.0	37.1	91.4	74.3	80.0	28.6	8.6	5.7
	40～49歳	46.0	21.7	97.8	80.4	80.4	34.8	10.9	-
	50～59歳	49.0	26.5	95.9	83.7	93.9	26.5	8.2	-
	60～69歳	71.0	45.1	91.5	81.7	83.1	29.6	11.3	2.8
	70～79歳	54.0	37.0	79.6	70.4	77.8	16.7	14.8	9.3
	男性年齢無回答	2.0	-	100.0	100.0	-	-	-	-
	女性計	364.0	35.7	85.4	81.6	84.1	23.1	9.9	2.5
	18～29歳	21.0	52.4	85.7	90.5	76.2	38.1	19.0	4.8
	30～39歳	59.0	20.3	98.3	76.3	83.1	23.7	8.5	-
	40～49歳	52.0	34.6	86.5	88.5	86.5	32.7	11.5	-
	50～59歳	69.0	36.2	88.4	85.5	88.4	23.2	10.1	1.4
	60～69歳	105.0	38.1	81.9	80.0	84.8	15.2	5.7	2.9
70～79歳	58.0	41.4	74.1	75.9	79.3	22.4	13.8	6.9	
無回答	15.0	40.0	60.0	40.0	60.0	13.3	6.7	26.7	

#### (4) 社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感

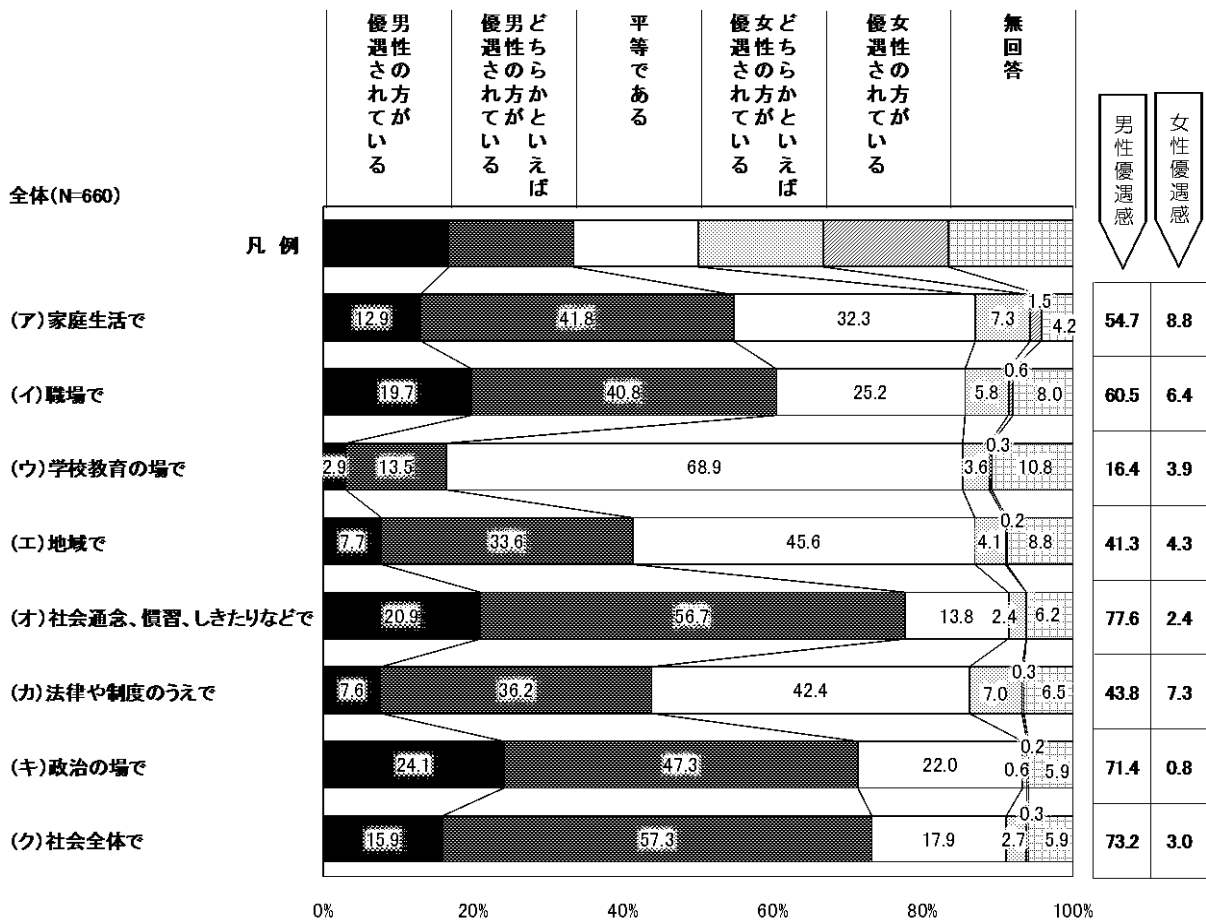
問4. 現在、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の分野について、それぞれ1つだけ選んでください。

**～多くの分野において『男性の方が優遇されている』と認識～**

社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感について尋ねたところ、「社会通念、慣習、しきたりなど」(77.6%)、「社会全体」(73.2%)、「政治の場」(71.4%)、「職場」(60.5%)、「家庭生活」(54.7%)については、半数以上の人々が『男性優遇感』(=「男性の方が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計)があると回答している。

また、「平等である」は「学校教育の場」で最も多く、68.9%を占めている。

＜社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感（図表 1-6）＞



※【男性優遇感】=「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】=「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(ア) 家庭生活で

～『男性優遇感』を持つ人が半数以上を占めるが、前回結果をやや下回る～

家庭生活についてみると、「男性の方が優遇されている」(12.9%)と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(41.8%)を合わせた『男性優遇感』(54.7%)が過半数を占めている。

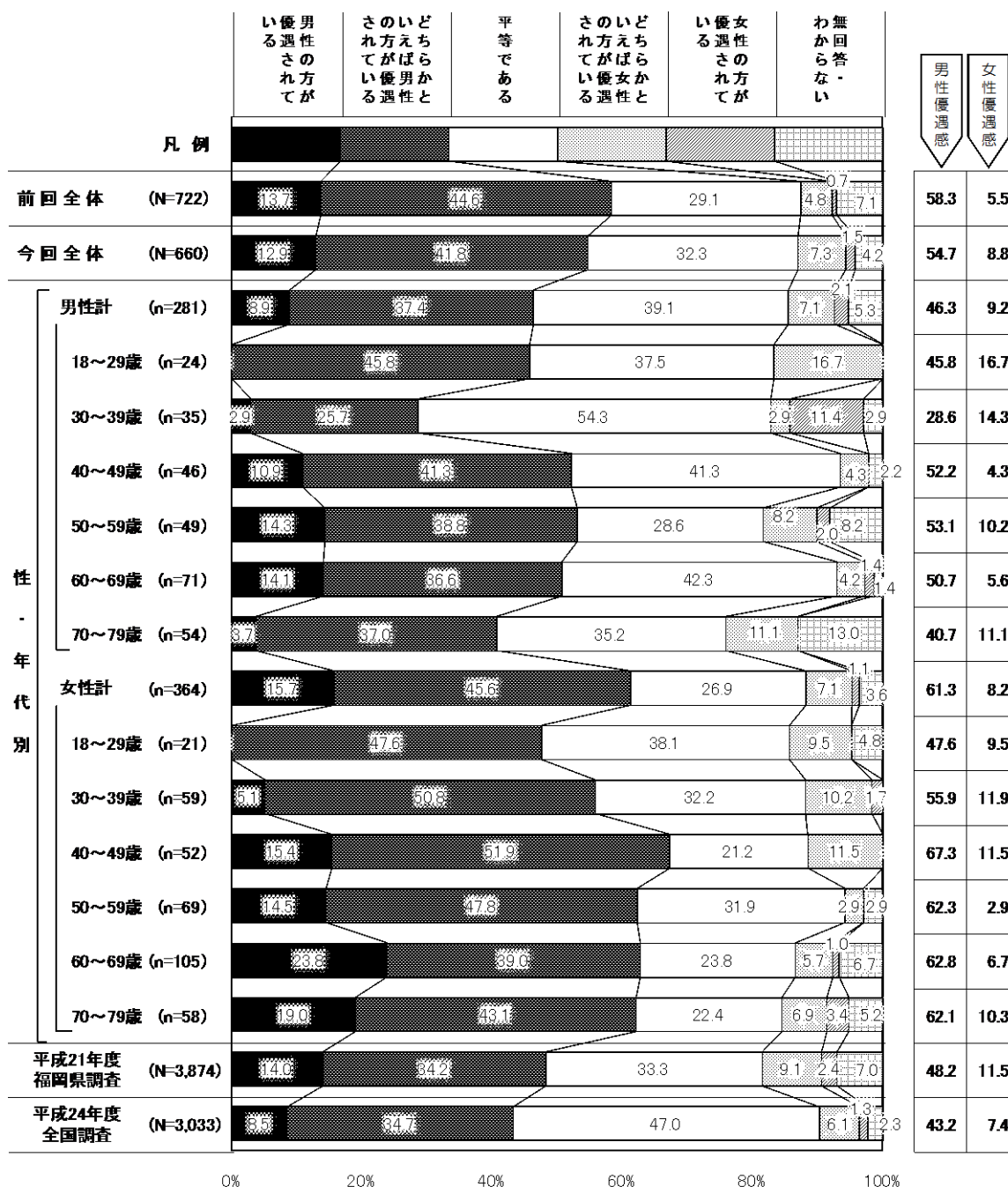
前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』が減少し、「平等である」が増加している。

性・年代別でみると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性40歳以上では『男性優遇感』が6割以上を占めている。

なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県より『男性優遇感』を持つ割合が高くなっている。

<社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感(図表1-7)>

(ア) 家庭生活で



※【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(イ) 職場で

**～『男性優遇感』を持つ人が6割を占め、前回結果とほぼ同様の傾向～**

職場についてみると、「男性の方が優遇されている」(19.7%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(40.8%)を合わせた『男性優遇感』(60.5%)が6割を占めている。

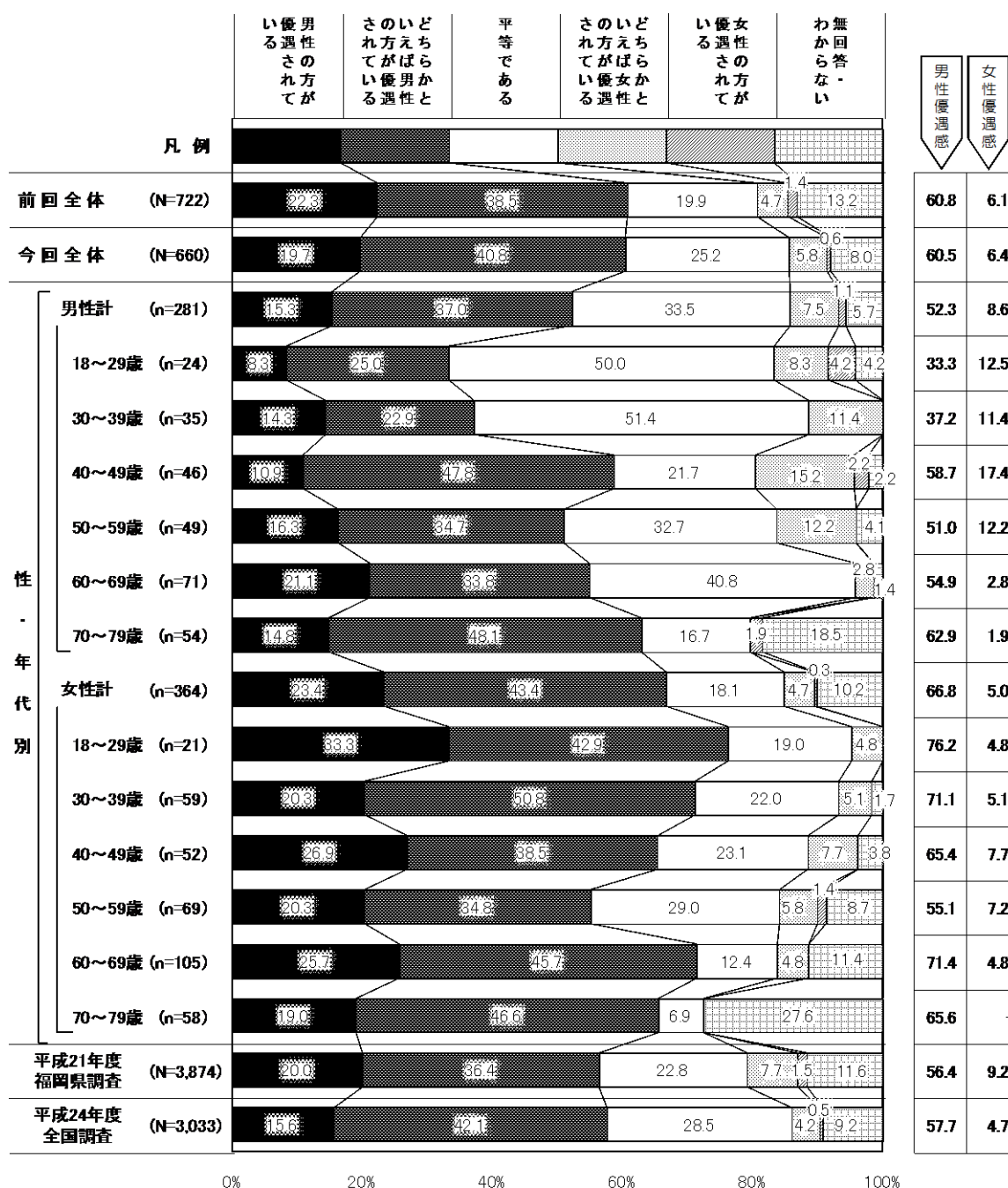
前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』は依然として高いものの、ほぼ同様の結果となっている。

性・年代別でみると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性18～29歳では『男性優遇感』が76.2%を占めている。

なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県より『男性優遇感』を持つ割合がやや高くなっている。

＜社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感（図表 1-8）＞

(イ) 職場で



※ 【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

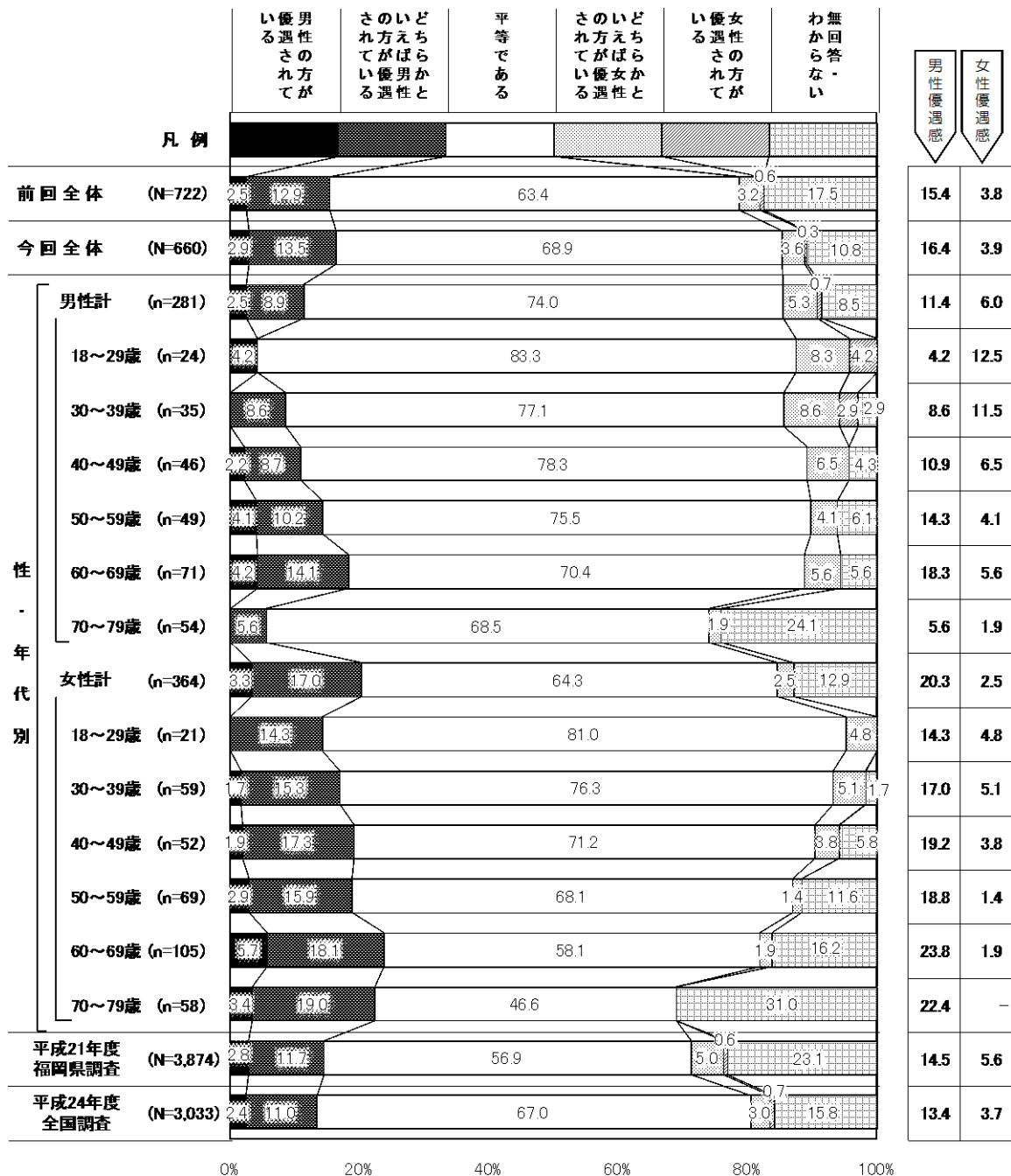
(ウ) 学校教育の場で

**～「平等である」が7割程度を占め、前回結果とほぼ同様の傾向～**

学校教育の場についてみると「平等である」(68.9%)と答える人が約7割を占めている。前回の調査結果と比較すると、「平等である」と答える人が5.5ポイント増加している。性・年代別にみると、男女ともどの年代をみても「平等である」と答える人が中心となっている。なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果と国の調査結果はほぼ同様の傾向であるが、福岡県結果と比較すると「平等である」と答える人が多くなっている。

＜社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感（図表 1-9）＞

(ウ) 学校教育の場で



※ 【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(工) 地域で

～『男性優遇感』『平等である』が各々4割程度で、前回結果とほぼ同様の傾向～

地域についてみると、『男性優遇感』が41.3%、『女性優遇感』が4.3%、「平等である」が45.6%となっている。

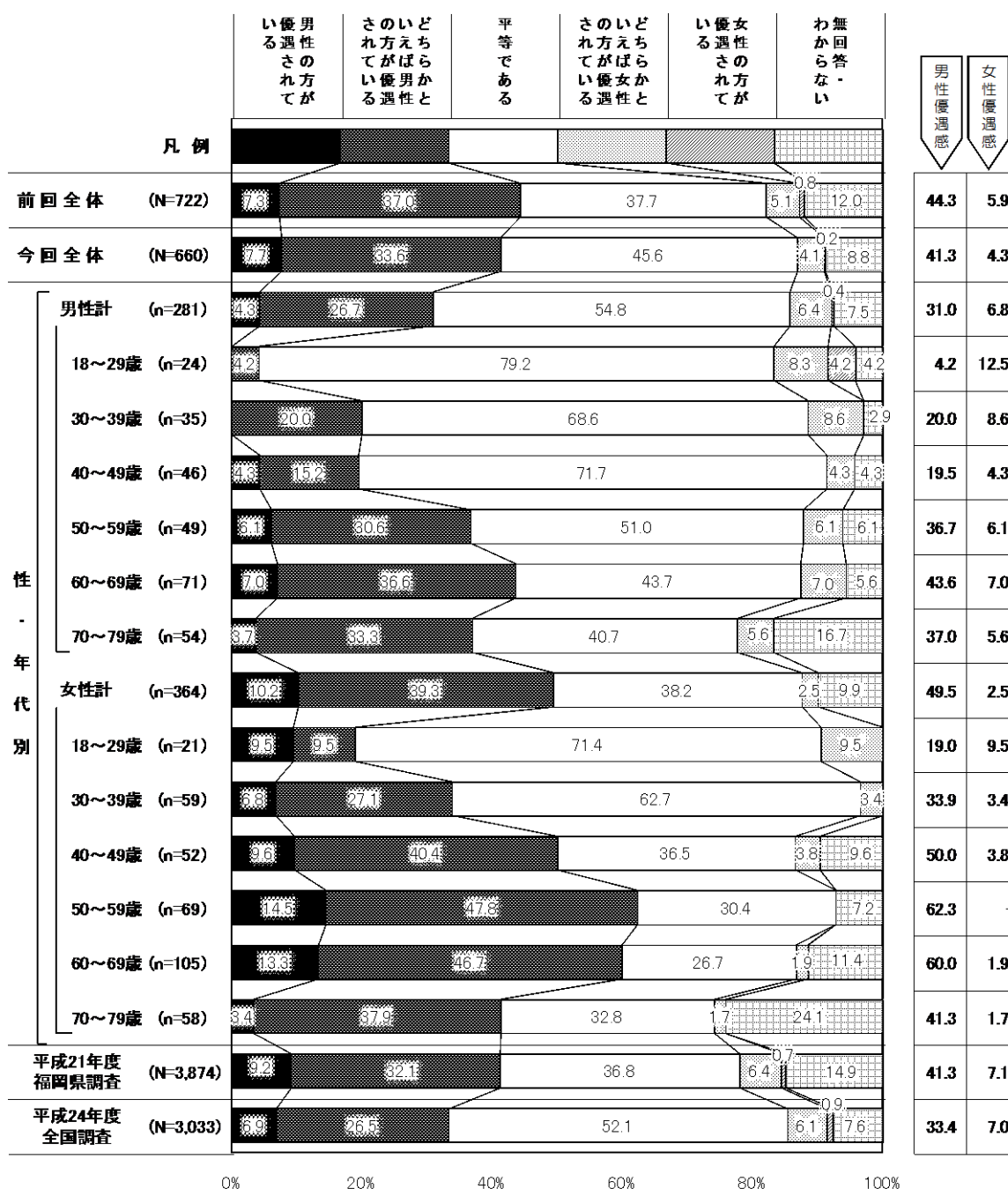
前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』がやや減少し、「平等である」が増加している。

性・年代別でみると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、特に女性50歳以上では『男性優遇感』が6割を占めている。

なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は全国結果に比べ『男性優遇感』を持つ人が多いものの、福岡県結果とはほぼ同様の傾向である。

< 社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感 (図表 1-10) >

(工) 地域で



※ 【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計



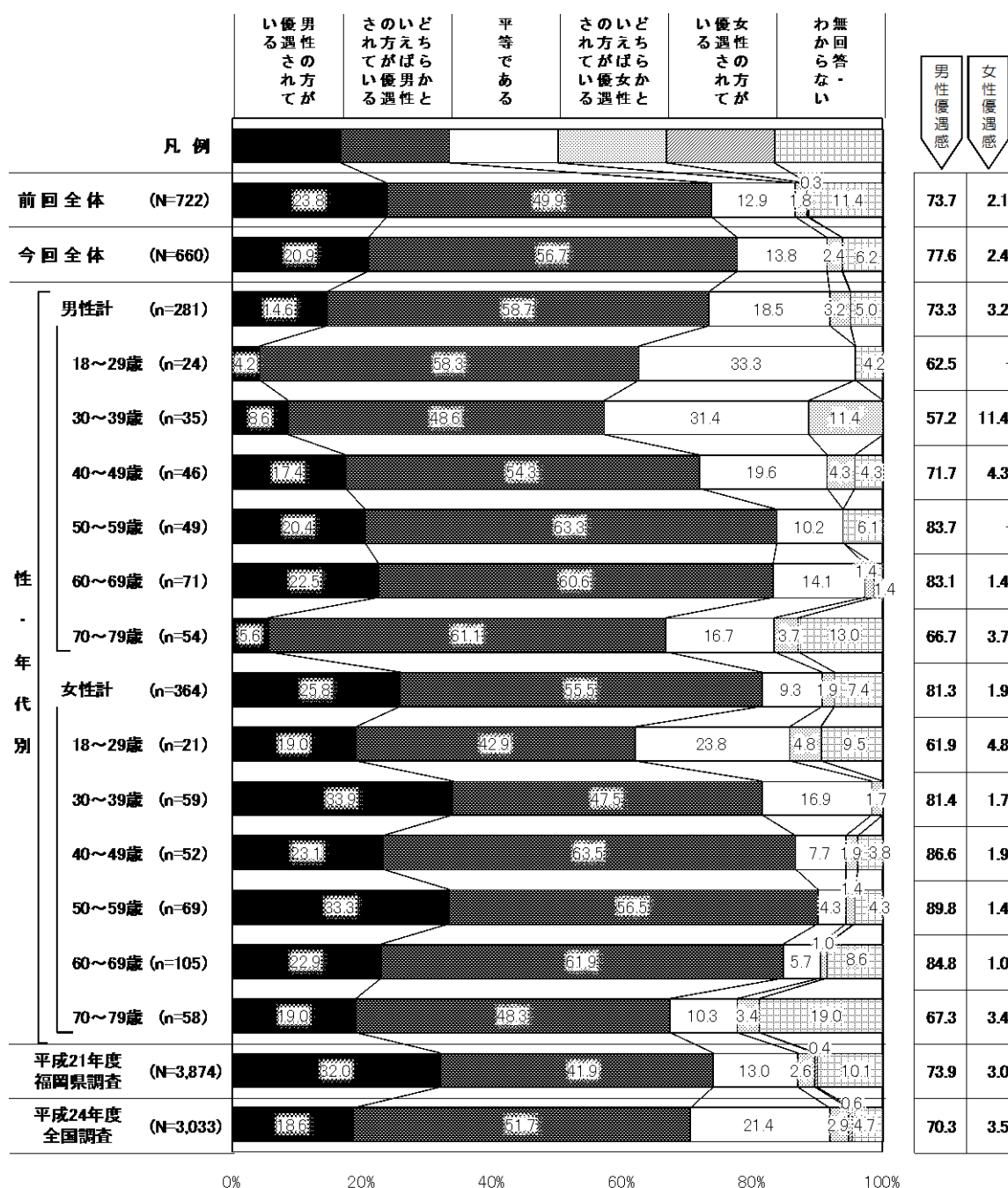
(オ) 社会通念、慣習、しきたりなどで

～『男性優遇感』が7割以上を占め、前回結果とほぼ同様の傾向～

社会通念、慣習、しきたりについてみると、「男性の方が優遇されている」(20.9%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(56.7%)を合わせた『男性優遇感』が7割強(77.6%)を占めている。  
 前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』が増加し、「平等である」が減少している。  
 性・年代別でみると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性50～59歳では『男性優遇感』が約9割を占めている。  
 なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県とほぼ同様の傾向を示している。

＜社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感（図表 1-11）＞

(オ) 社会通念、慣習、しきたりなどで



※ 【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(カ) 法律や制度のうえで

～『男性優遇感』『平等である』が各々4割程度で、前回結果とほぼ同様の傾向～

法律や制度についてみると、『男性優遇感』が43.8%、『女性優遇感』が7.3%、「平等である」が42.4%となっている。

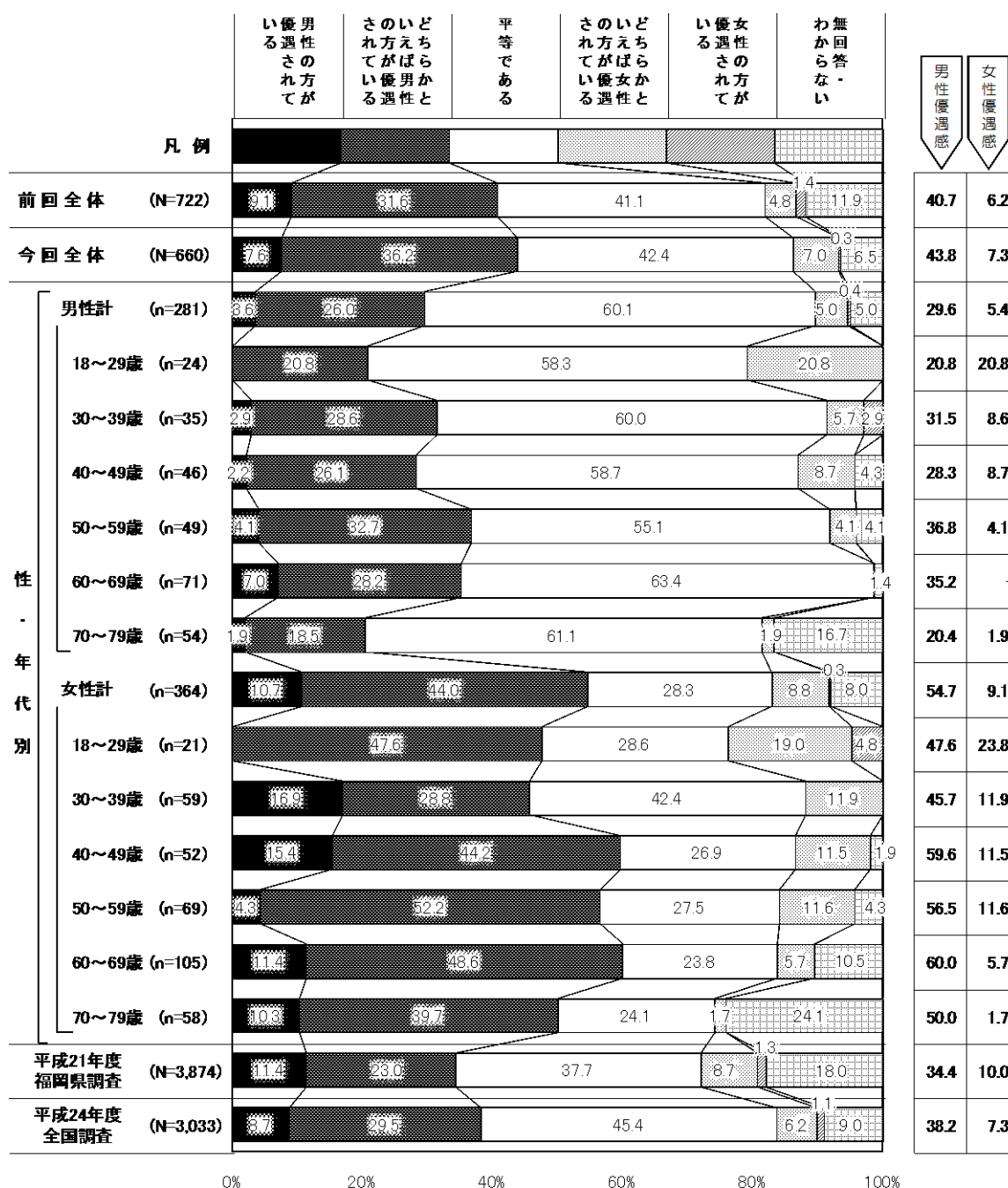
前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』がやや増加している。

性・年代別で見ると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性60～69歳では『男性優遇感』が60.0%を占めている。

なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県より『男性優遇感』が強くなっている。

<社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感（図表 1-12）>

(カ) 法律や制度のうえで



※【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(キ) 政治の場で

～『男性優遇感』が7割を占め、前回結果よりその傾向が高まっている～

政治の場についてみると、「男性の方が優遇されている」(24.1%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(47.3%)を合わせた『男性優遇感』(71.4%)が7割以上を占めている。

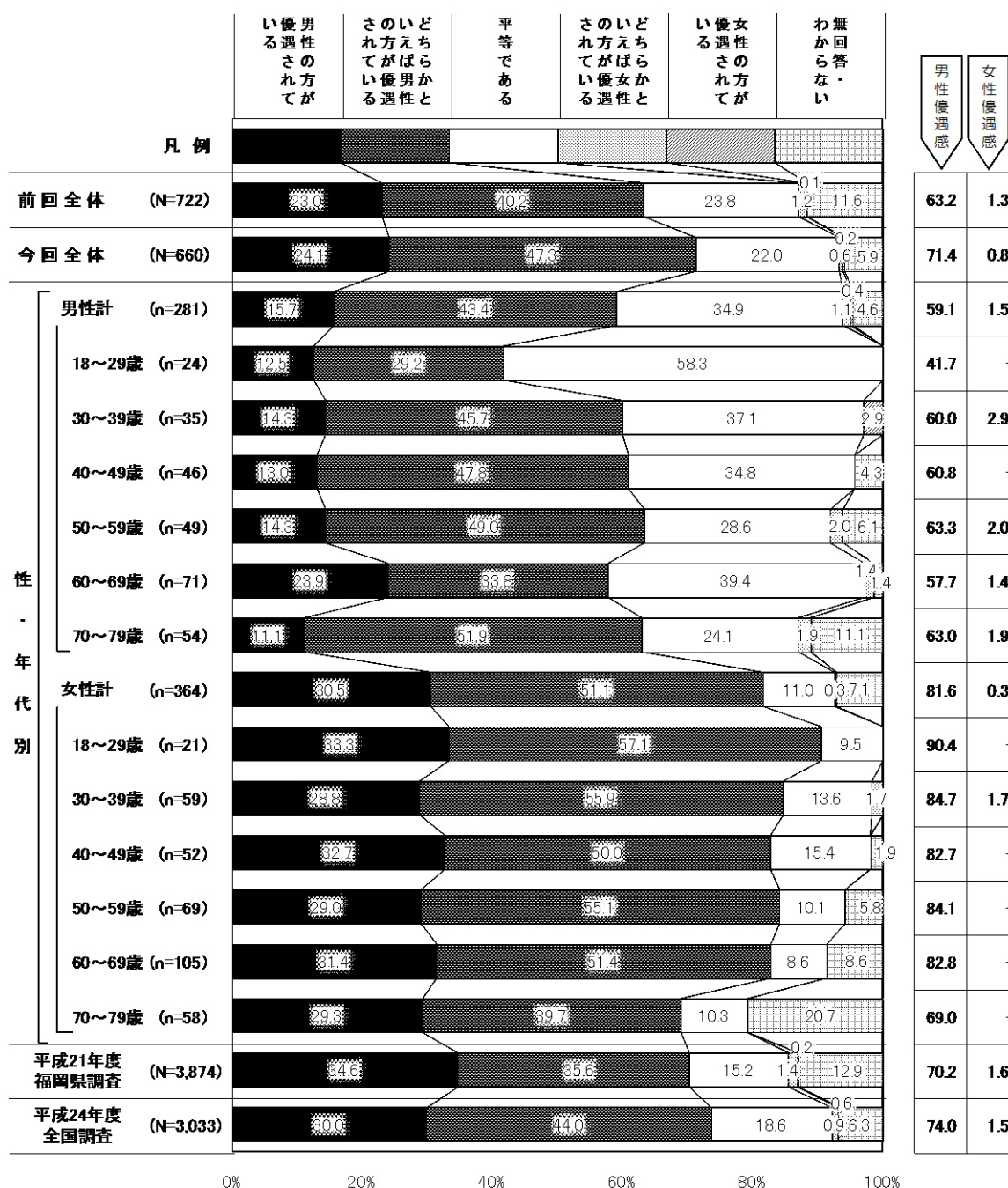
前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』が増加し、「平等である」が減少している。

性・年代別で見ると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性18～29歳では『男性優遇感』が9割を占めている。

なお、国及び福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県とほぼ同様の回答傾向を示している。

<社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感(図表1-13)>

(キ) 政治の場で



※【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

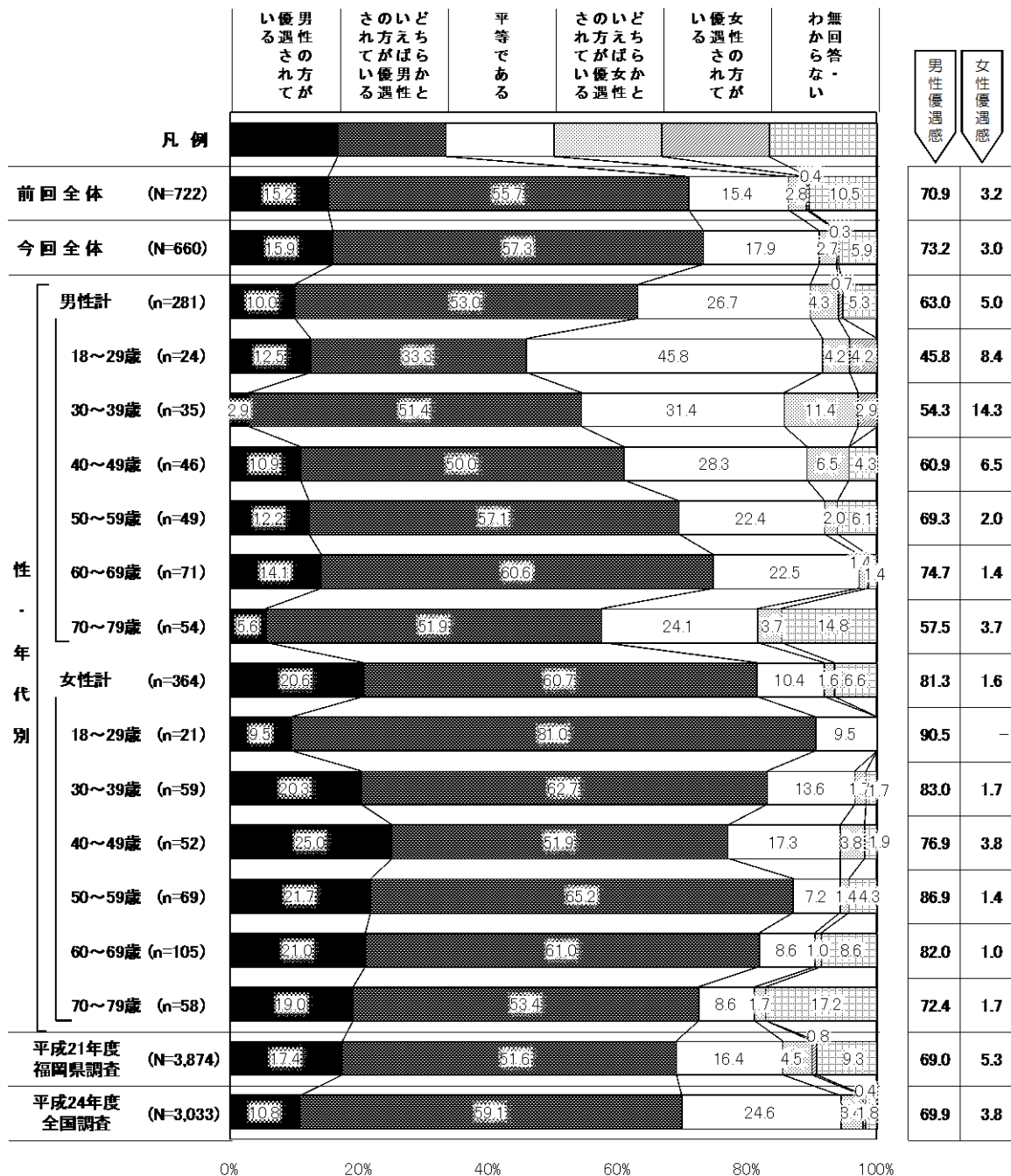
(ク) 社会全体で

～『男性優遇感』が7割を占め、前回結果とほぼ同様の傾向～

社会全体についてみると、「男性の方が優遇されている」(15.9%)、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(57.3%)を合わせた『男性優遇感』が7割(73.2%)を占めている。  
 前回の調査結果と比較すると、『男性優遇感』が減少し、「平等である」が増加している。  
 性・年代別でみると、女性が男性に比べ『男性優遇感』が強く、女性の18～29歳においては『男性優遇感』が90.5%と、9割を占めている。  
 なお、国の調査結果と比較すると、今回の調査結果は国・福岡県より『男性優遇感』がやや高くなっている。

<社会のあらゆる分野における男女の地位の平等感(図表1-14)>

(ク) 社会全体で



※ 【男性優遇感】＝「男性の方が優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の合計  
 【女性優遇感】＝「女性の方が優遇されている」、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の合計

(5) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について

問5. あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。1つだけ選んでください。

～『同感派』『非同感派』は拮抗しており、性別による意識の違いがみられる～

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「同感する」が9.2%、「ある程度同感する」が43.9%と、『同感派』(53.1%)が過半数を占めている。一方、『非同感派』は45.1%となっている。

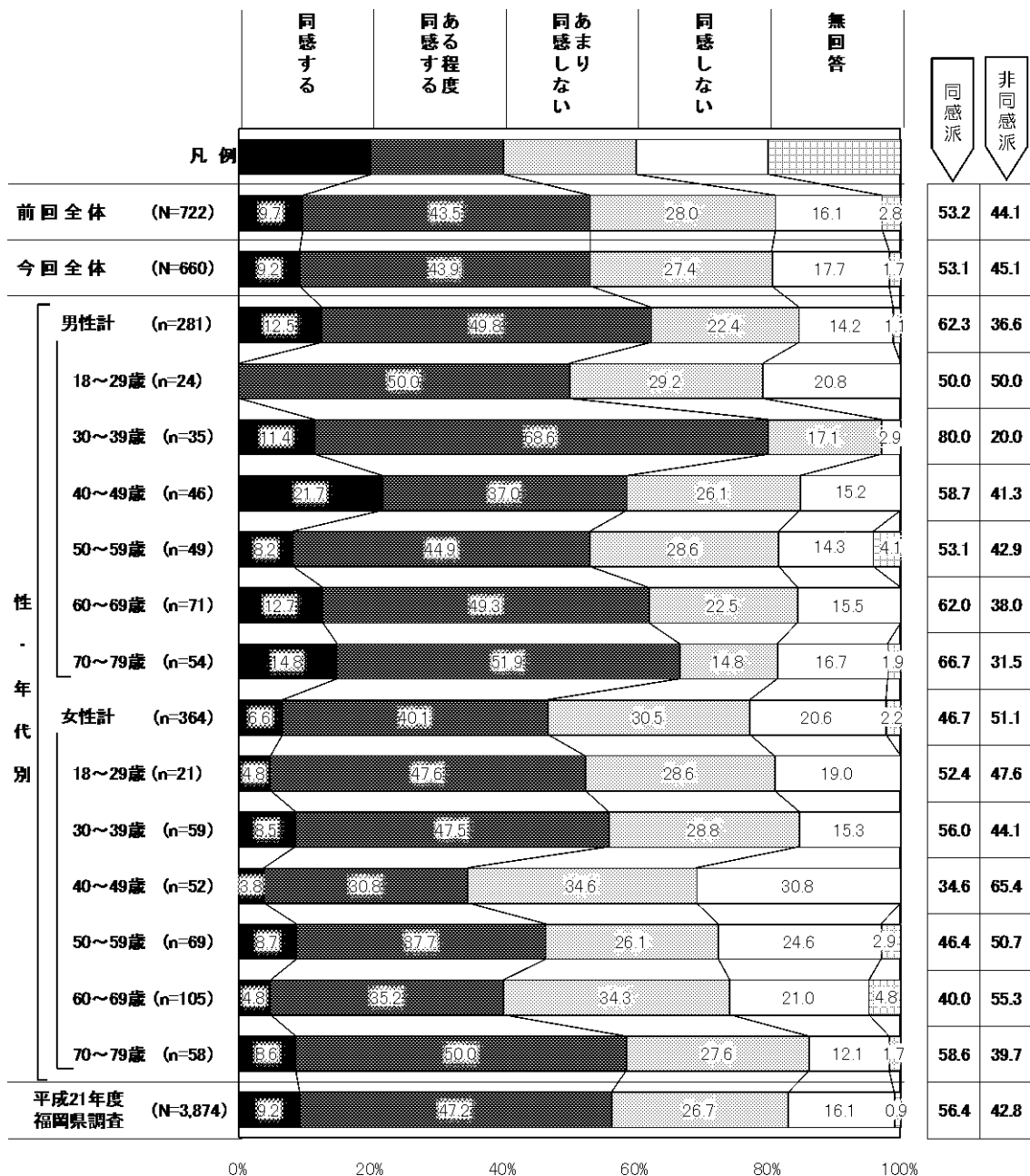
前回の調査結果と比較すると、ほぼ同様の傾向を示している。

性・年代別でみると、男性は『同感派』、女性は『非同感派』がそれぞれ多という特徴がみられる。特に、『同感派』は男性30～39歳、『非同感派』は女性40～49歳においてその割合が最も高くなっている。

男女平等や男女共同参画の関心程度別にみると、男女平等や男女共同参画に対する関心度が高い人ほど『非同感派』の割合が高く、逆に関心度が低い人ほど『同感派』の割合が高くなっている。

なお、福岡県の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様であり、『同感派』は56.4%となっている。

< 「男は仕事、女は家庭」に対する意識 (図表 1-15) >



※ 【同感派】=「同感する」、「ある程度同感する」の合計 【非同感派】=「同感しない」、「あまり同感しない」の合計

<「男は仕事、女は家庭」に対する意識（図表 1-16）>

(単位:%)

		サンプル数	同感する	ある程度同感する	あまり同感しない	同感しない	無回答	【同感派】	【非同感派】
全 体		660	9.2	43.9	27.4	17.7	1.7	53.1	45.1
参 画 を テ ー マ と す る 男 女 平 等 や 男 女 共 同 の 関 心 度	非常に関心がある	46	8.7	28.3	26.1	32.6	4.3	37.0	58.7
	まあまあ関心がある	298	6.0	44.6	29.2	19.1	1.0	50.6	48.3
	あまり関心がない	216	12.5	44.9	27.8	13.9	0.9	57.4	41.7
	ほとんど関心がない	68	10.3	51.5	19.1	14.7	4.4	61.8	33.8
	まったく関心がない	21	14.3	47.6	14.3	23.8	-	61.9	38.1
	無回答	11	18.2	18.2	54.5	-	9.1	36.4	54.5
	【関心がある計】	344	6.4	42.4	28.8	20.9	1.5	48.8	49.7
	【関心がない計】	305	12.1	46.6	24.9	14.8	1.6	58.7	39.7

## 2. 家庭、地域活動について





# (1) 家事を男女で分担することについての意識

問6. 家事についておたずねします。

(1) あなたは、家事を男女で分担することについてどう思いますか。1つだけ選んでください。

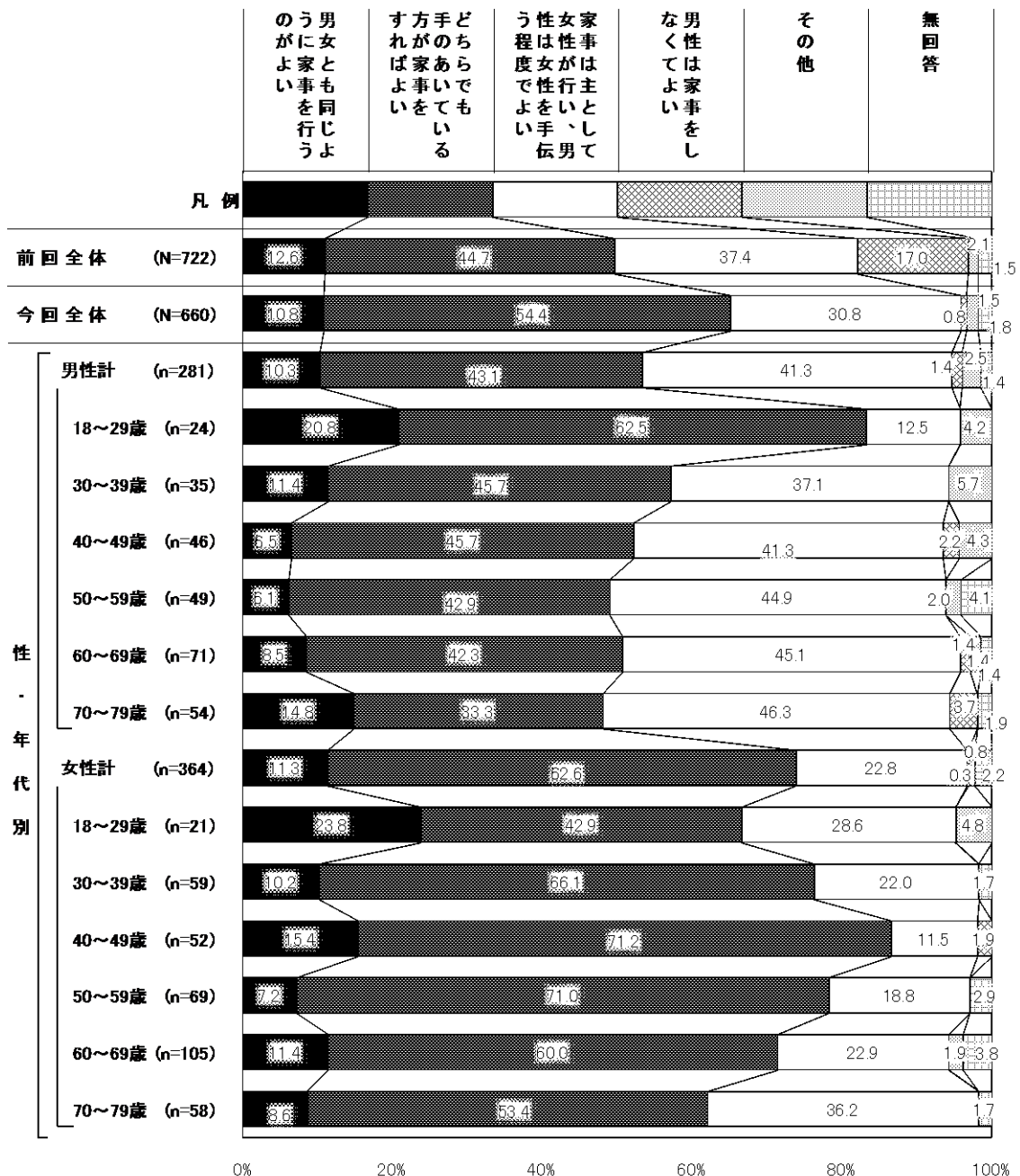
## ～「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」が過半数を占める～

男女が家事分担することに対する意識をみると、「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と答える人が54.4%と半数以上を占め、以下、「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」(30.8%)、「男女とも同じように家事を行うのがよい」(10.8%)、「男性は家事をしなくてよい」(0.8%)となっている。前回の調査結果と比較すると、「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と答える人が大きく増加している。

性・年代別でみると、男性は「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」、「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と答える割合が各々4割程度で均衡しているが、女性は「どちらでも手のあいている方が家事をすればよい」と答える人が6割以上を占めている。

「男は仕事、女は家庭」という固定的役割意識別にみると、固定的役割意識が高い人ほど「家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい」と回答する人が多くなっている。

<家事を男女で分担することについて (図表 2-1) >



<家事を男女で分担することについて（図表 2-2）>

（単位：％）

		サンプル数	を男女の 行うとも のが同じ ように家 事	ど ち ら が 家 事 を 手 の あ い ば い て い	程 度 で よ い 家 事 は 主 と し て 女 性 を 手 伝 が う 行	い 男 性 は 家 事 を し な く て よ	そ の 他	無 回 答
		660	10.8	54.4	30.8	0.8	1.5	1.8
「家庭は男は仕事、女は方」という考え	同感する	61	4.9	27.9	62.3	3.3	-	1.6
	ある程度同感する	290	8.3	46.6	41.0	1.0	2.8	0.3
	あまり同感しない	181	12.2	69.1	17.7	-	1.1	-
	同感しない	117	18.8	69.2	12.0	-	-	-
	無回答	11	-	9.1	-	-	-	90.9
	【同感する計】	351	7.7	43.3	44.7	1.4	2.3	0.6
【同感しない計】	298	14.8	69.1	15.4	-	0.7	-	

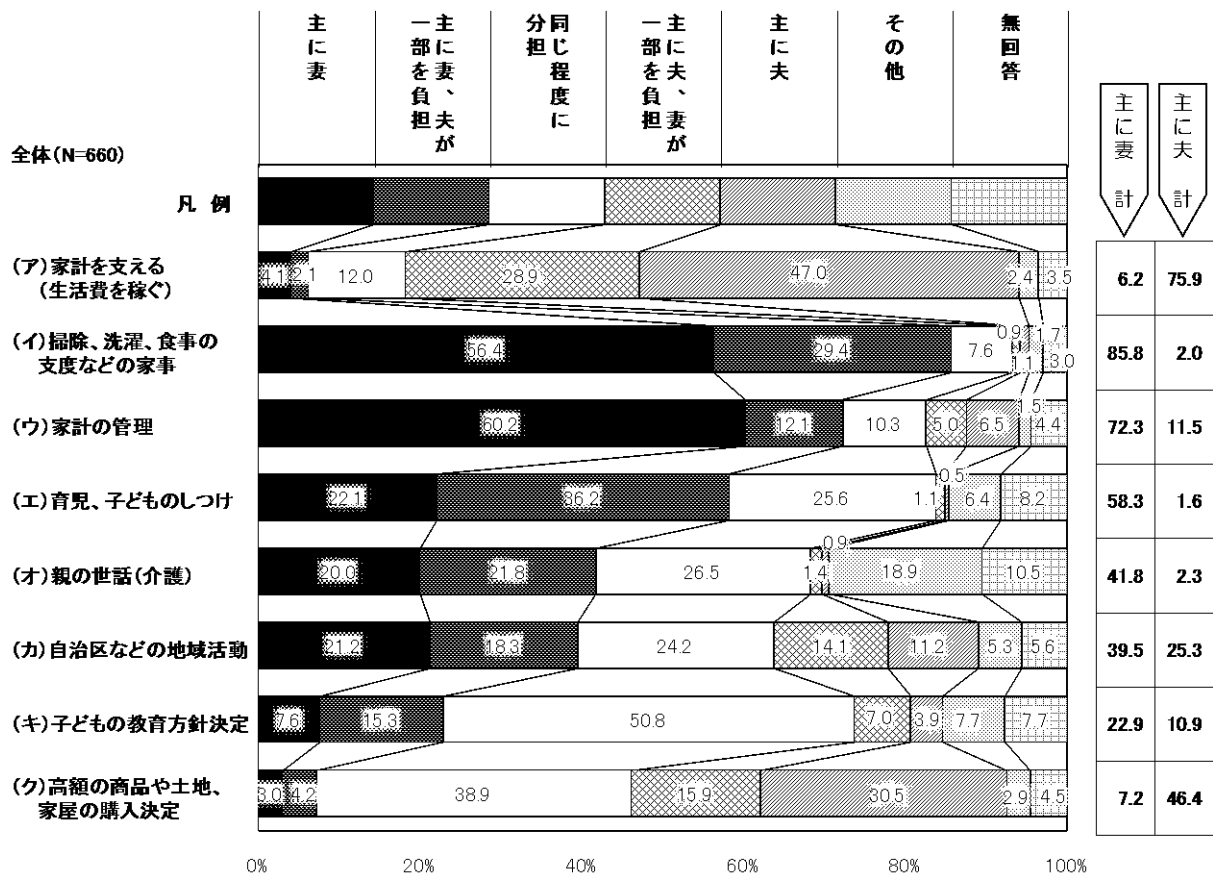
## (2) 家庭内の役割分担について

(2) あなたのご家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでください。ただし、未婚の方は、育ってきた家庭など、あなたのまわりのことを考えてお答えください。

**～『家計を支える』のは「夫」、  
『掃除、洗濯、食事の支度などの家事』、『家計の管理』は「妻」～**

家庭内における役割分担を尋ねたところ、ほとんどの役割で『主に妻』（「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」の合計）の割合が高くなっている。中でも、「掃除、洗濯、食事の支度などの家事」（85.8%）、「家計の管理」（72.3%）、「育児、子どものしつけ」（58.3%）については、その傾向が顕著である。  
逆に、『主に夫』（「主に夫」、「主に夫、妻が一部を負担」の合計）が高い役割は、「家計を支える（生活費を稼ぐ）」（75.9%）、「高額の商品や土地、家屋の購入決定」（46.4%）となっている。

<家庭内の役割分担について（図表 2-3）>



※【主に妻計】＝「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」の合計  
 【主に夫計】＝「主に夫」、「主に夫、妻が一部を負担」の合計

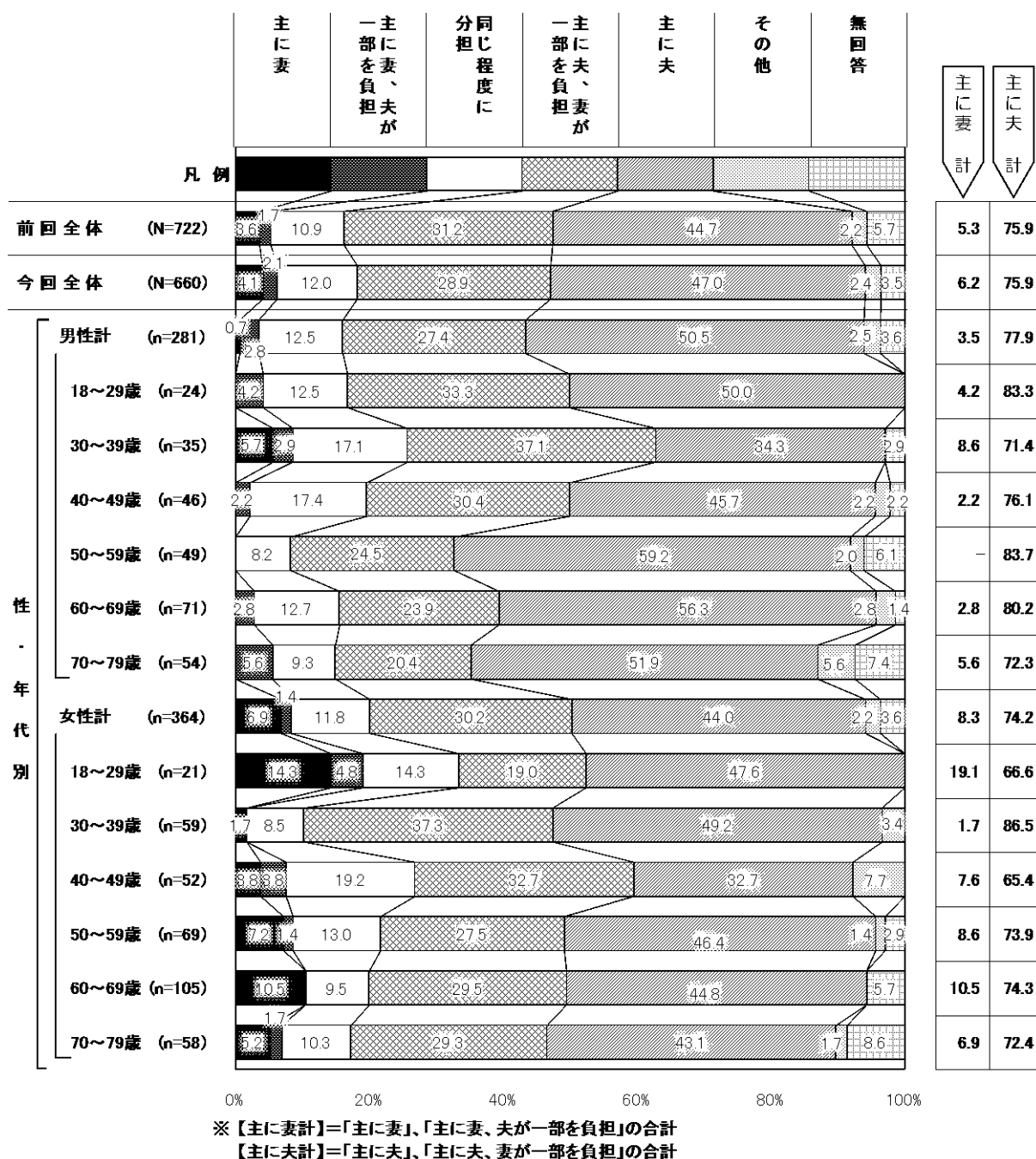
(ア) 家計を支える（生活費を稼ぐ）

**～約8割が『主に夫』の分担～**

家計を支えることをみると、『主に夫』が75.9%を占め、『主に妻』は5.3%、「同じ程度に分担」は10.9%にとどまっている。  
 前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、どの年代とも全体結果と同様の傾向を示している。

<家庭内の役割分担について（図表 2-4）>

(ア) 家計を支える（生活費を稼ぐ）



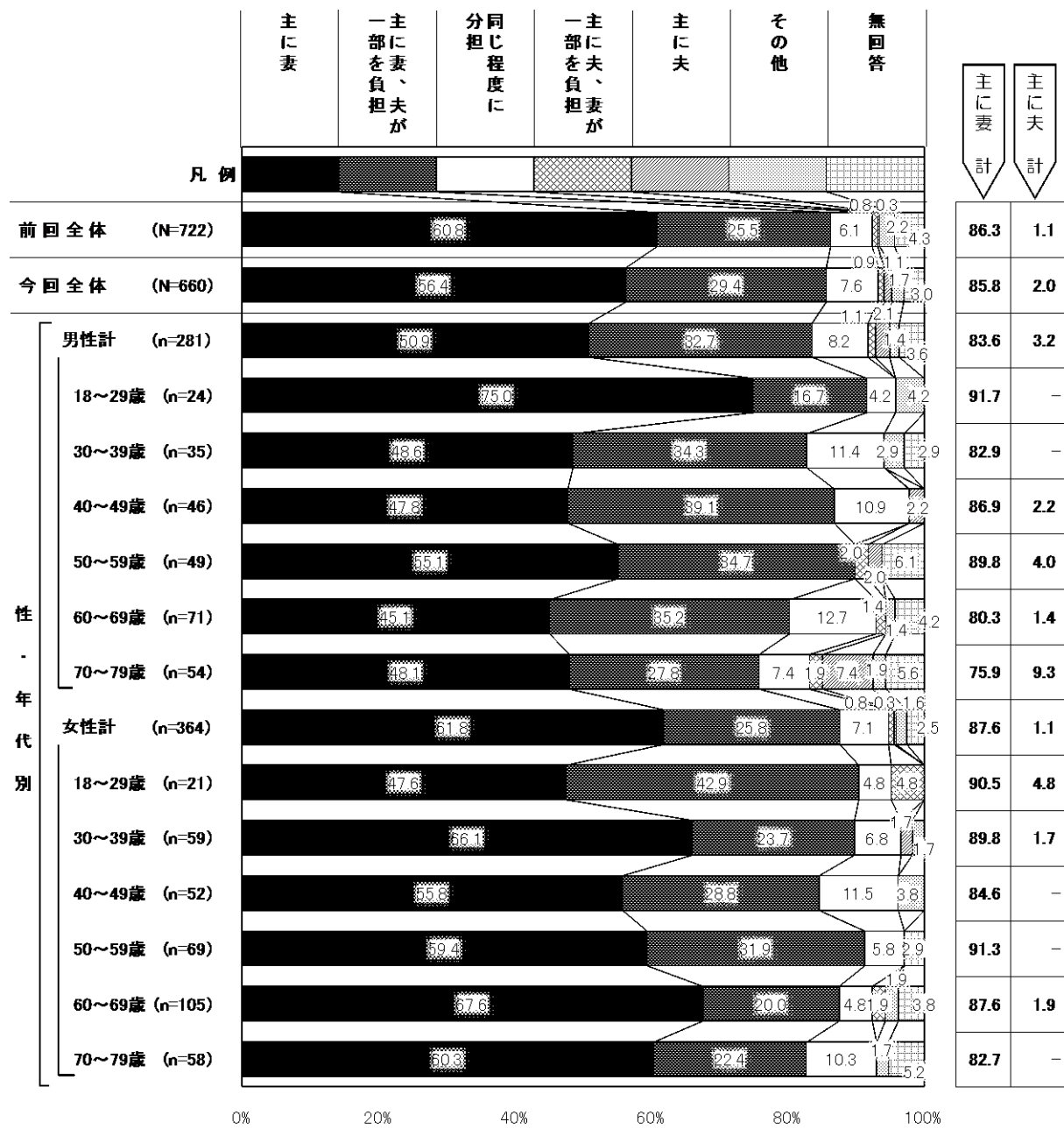
(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事

～8割強が『主に妻』の分担～

掃除、洗濯、食事の支度などの家事をみると、『主に妻』が85.8%と、大半を占めている。  
 前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、どの年代とも全体結果と同様の傾向を示している。

<家庭内の役割分担について（図表 2-5）>

(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事



※【主に妻計】=「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」の合計  
 【主に夫計】=「主に夫」、「主に夫、妻が一部を負担」の合計

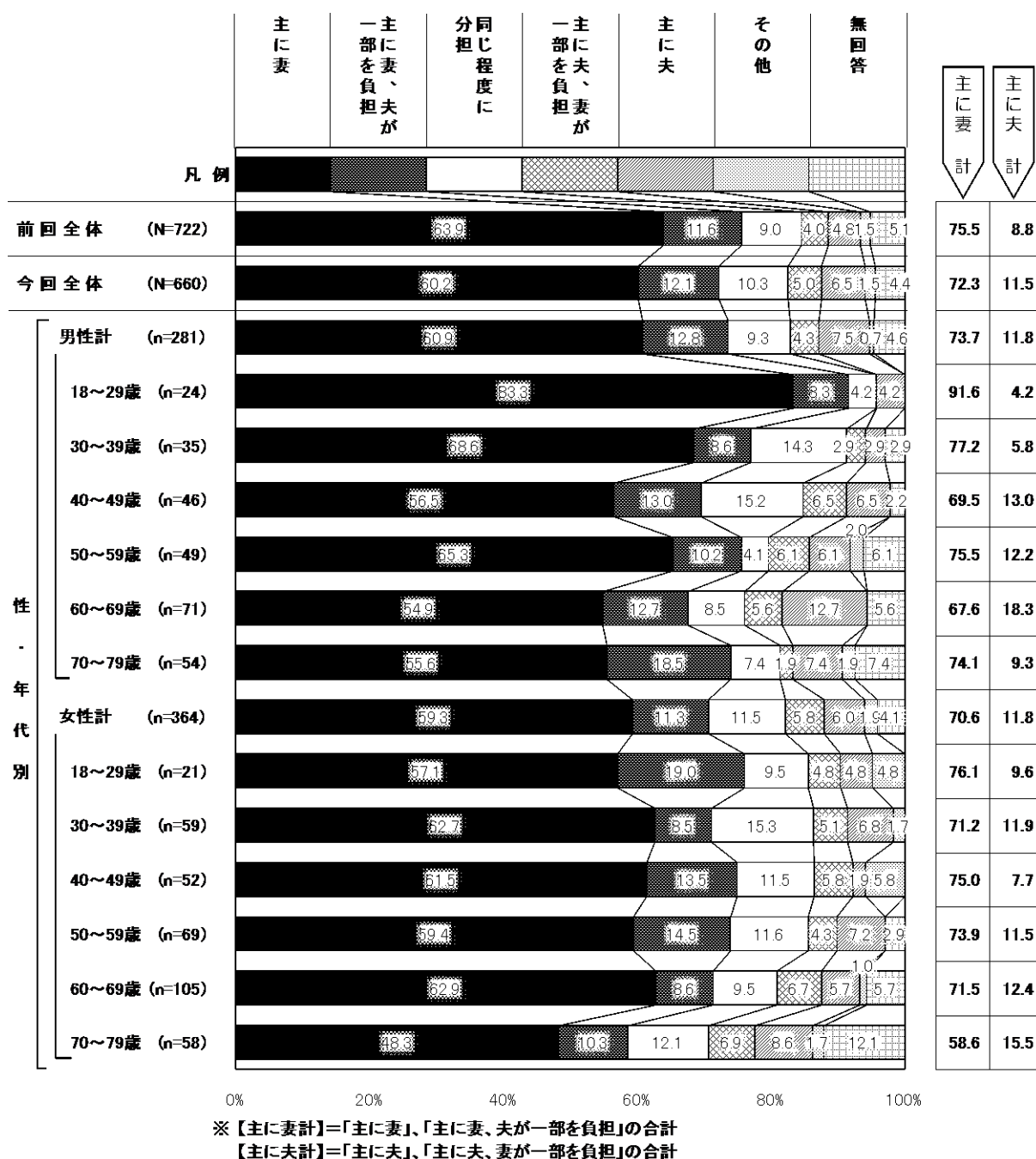
(ウ) 家計の管理

**～7割が『主に妻』の分担～**

家計の管理をみると、『主に妻』が72.3%と、大半を占めている。  
 前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、どの年代とも全体結果と同様の傾向を示しているが、男性18～29歳では『主に妻』の割合が91.6%を占め高い。

<家庭内の役割分担について(図表2-6)>

(ウ) 家計の管理



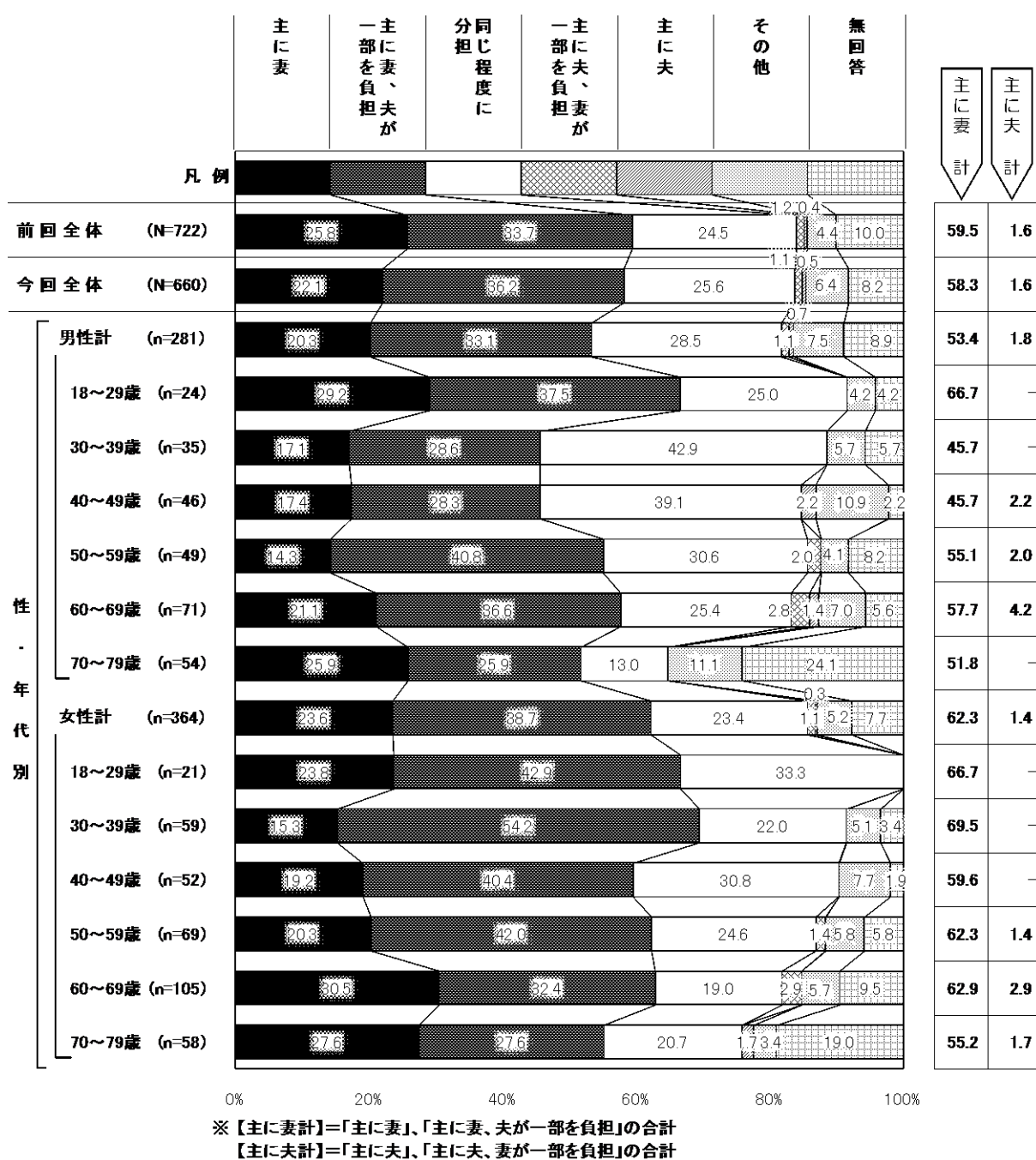
(エ) 育児、子どものしつけ

**～『主に妻』が約6割、「同じ程度に分担」が約2割～**

育児、子どものしつけをみると、『主に妻』が58.3%と6割程度を占めており、「同じ程度に分担」が25.6%となっている。  
 前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、どの年代とも全体結果と同様の傾向を示している。

<家庭内の役割分担について（図表 2-7）>

(エ) 育児、子どものしつけ



(オ) 親の世話（介護）

～『主に妻』が4割、「同じ程度に分担」が2割強～

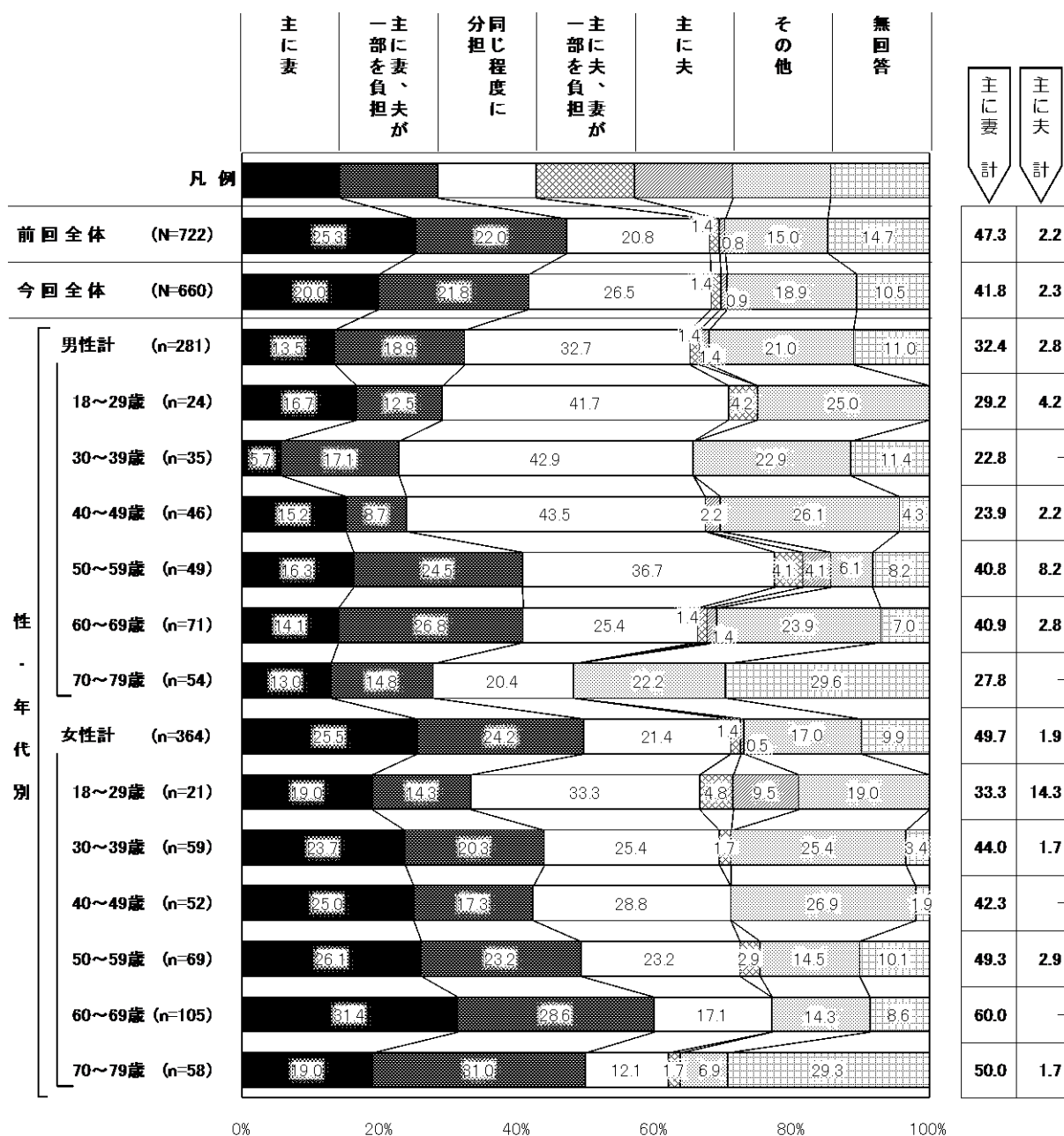
親の世話（介護）をみると、『主に妻』が41.8%、「同じ程度に分担」が26.5%、『主に夫の分担』が2.3%であり、『主に妻』が中心となっている。

前回の町の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向であるが、「同じ程度に分担」が5.7ポイント増加している。

性・年代別にみると、どの年代とも全体結果とほぼ同様の傾向を示しているが、女性18～29歳において『主に夫』と答える人が増加している。

<家庭内の役割分担について（図表 2-8）>

(オ) 親の世話（介護）



※【主に妻計】＝「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」の合計  
 【主に夫計】＝「主に夫」、「主に夫、妻が一部を負担」の合計



(カ) 自治区などの地域活動

～『主に妻』が約4割、『主に夫』、「同じ程度に分担」が2割強～

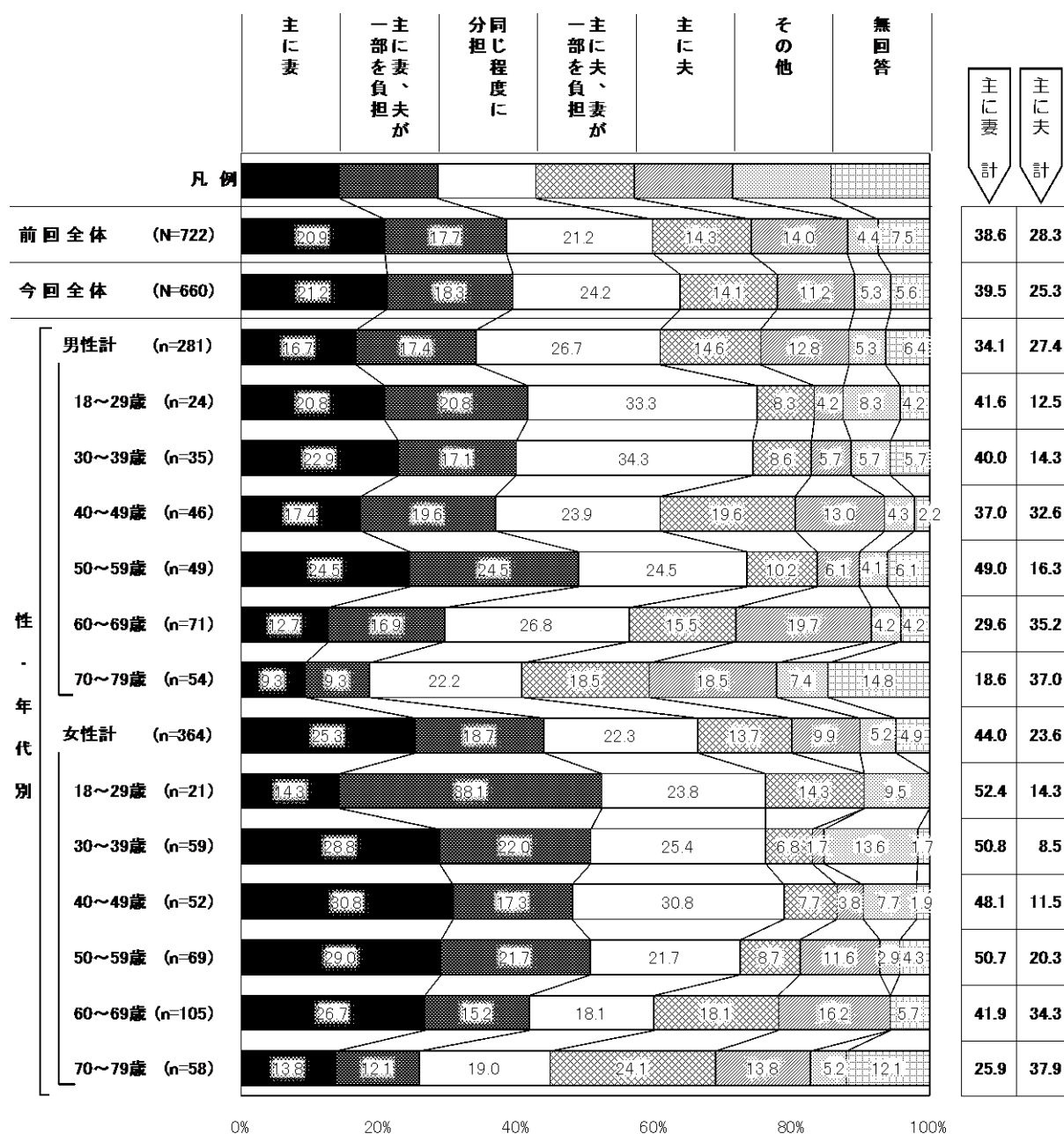
自治区などの地域活動をみると、『主に妻』が39.5%、『主に夫』が25.3%、「同じ程度に分担」が24.2%と、比較的妻と夫の分担の差が小さくなっている。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

性・年代別にみると、男性60歳以上と女性70歳以上では『主に夫』が『主に妻』を上回っている。

<家庭内の役割分担について（図表 2-9）>

(カ) 自治区などの地域活動



※【主に妻計】＝「主に妻」、「主に妻、夫が一部を負担」の合計  
 【主に夫計】＝「主に夫」、「主に夫、妻が一部を負担」の合計

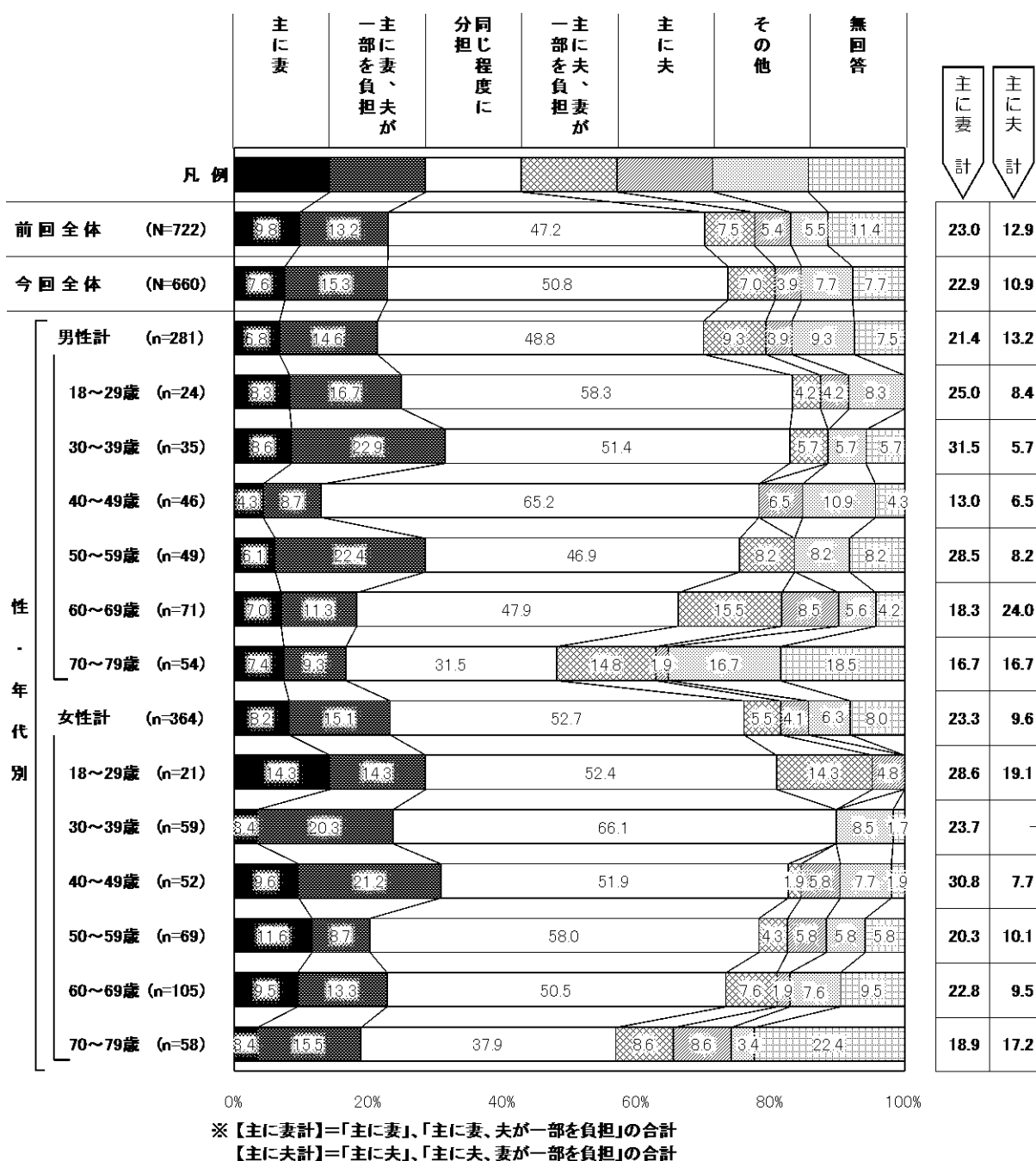
(キ) 子どもの教育方針決定

～「同じ程度に分担」が5割～

子どもの教育方針決定をみると、『主に妻』が22.9%、『主に夫』が10.9%と比較的分担の差が小さく、「同じ程度に分担」が50.8%と、半数を占めている。  
 前回の町の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、男性40～49歳、女性30～39歳において「同じ程度に分担」と回答する人が6割強を占めている。

<家庭内の役割分担について（図表 2-10）>

(キ) 子どもの教育方針決定



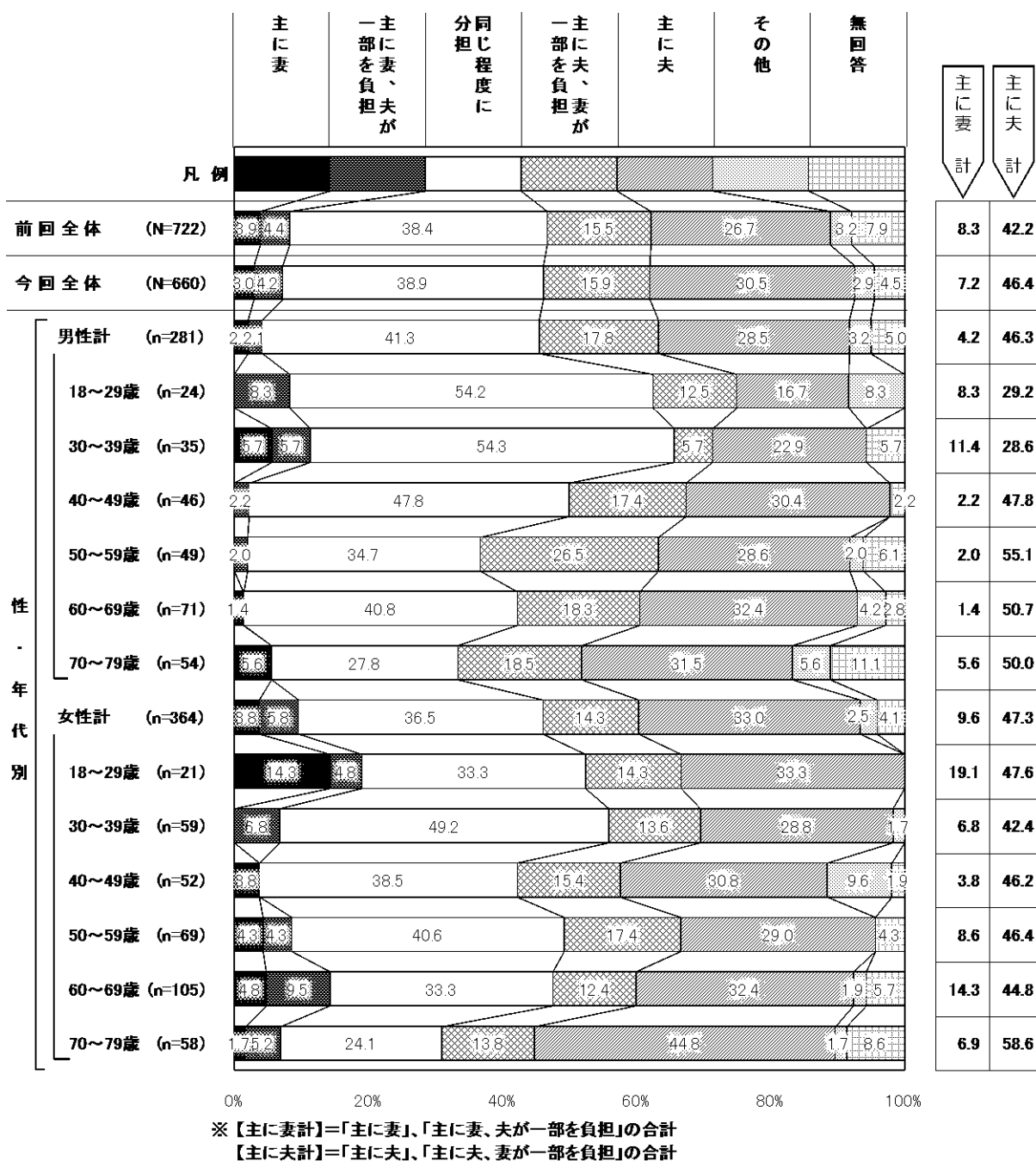
(ク) 高額の商品や土地、家屋の購入決定

**～『主に夫』と「同じ程度に分担」がそれぞれ約4割～**

高額な商品や土地、家屋の購入決定をみると、『主に夫』が46.4%を占め最も多いものの、「同じ程度に分担」も38.9%みられる。なお、『主に妻』は7.2%と、1割にも満たない。  
 前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向となっている。  
 性・年代別にみると、男女とも30～39歳において「同じ程度に分担」が最も多くみられる。

<家庭内の役割分担について（図表 2-11）>

(ク) 高額の商品や土地、家屋の購入決定



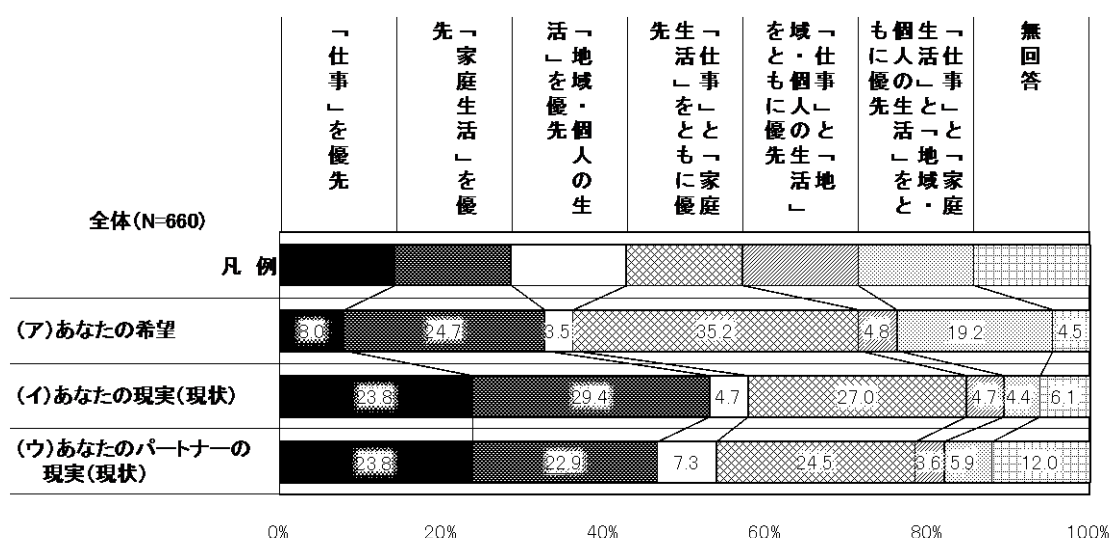
### (3) 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方

問7. 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」(地域活動・学習・趣味・付き合い等)の優先度についておたずねします。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでください。ただし、未婚の方は、育ってきた家庭などあなたのまわりのことを考えてお答えください。

**現実には「仕事」「家庭生活」「仕事と家庭生活」、希望は「仕事と家庭生活」**

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方に対する意識をみてもみる。  
 あなた自身の希望をみると、「仕事と家庭生活を優先」と回答する人が35.2%で最も高く、次いで「家庭生活を優先」(24.7%)、「仕事と家庭生活と個人の生活を優先」(19.2%)と続いている。  
 次に、あなた自身の現実をみると、「仕事を優先」、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」の3者がほぼ同率の回答となっている。  
 また、パートナーの現実をみると、「仕事を優先」、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」の3者がほぼ同率の回答となっている。

< 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方 (図表 2-12) >



(ア) あなたの希望

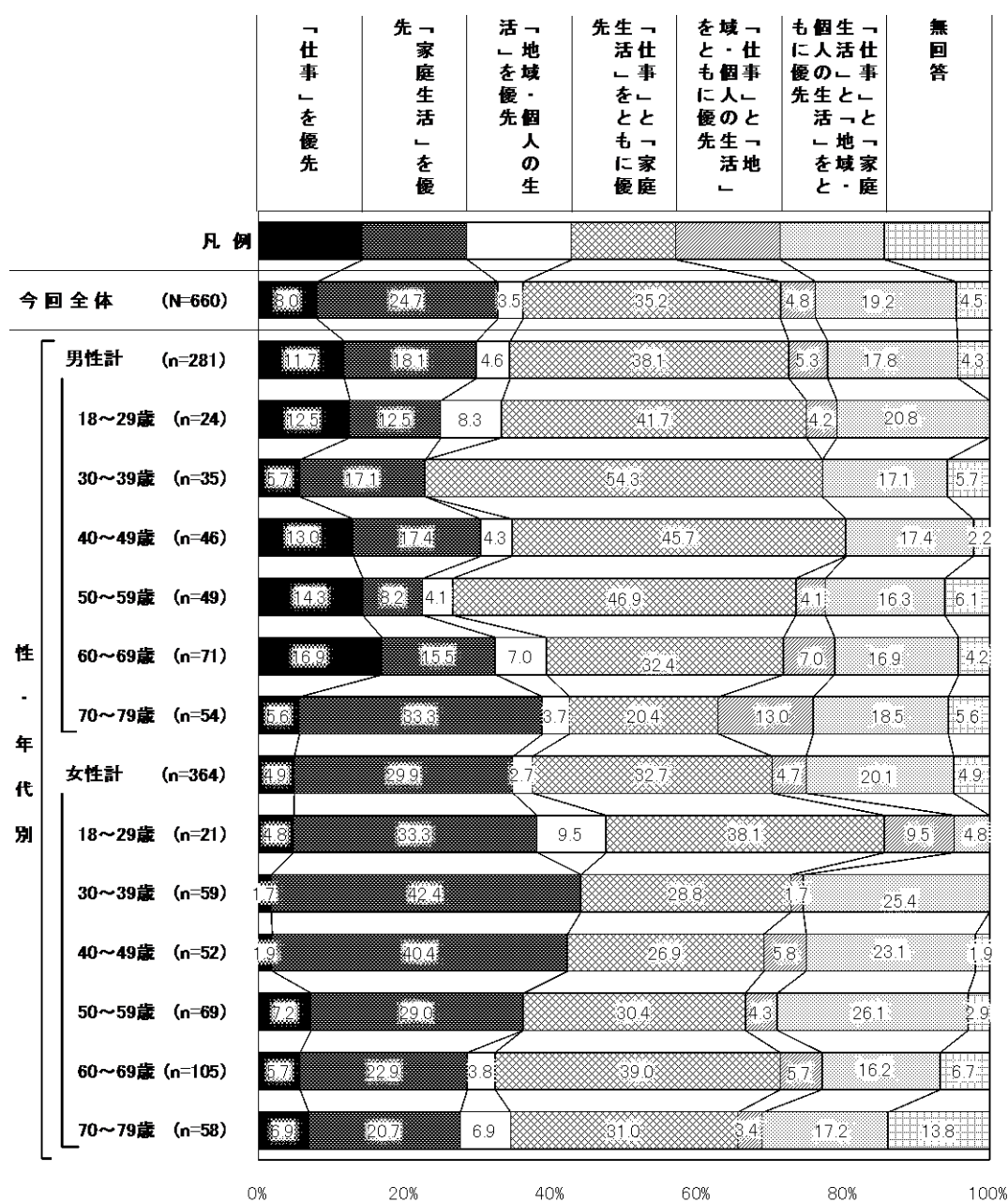
大半は「仕事と家庭生活」を希望するが、女性 30～40代は「家庭生活を優先」

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方に対する希望をみると、「仕事と家庭生活を優先」と回答する人が 35.2%で最も高く、次いで「家庭生活を優先」(24.7%)、「仕事と家庭生活と個人の生活を優先」(19.2%)と続いている。

性・年代別にみると、男性はいずれの年代とも「仕事と家庭生活を優先」と答える人が最も多いが、女性 30代と女性 40代は「家庭生活を優先」と回答する人が最も多くなっている。

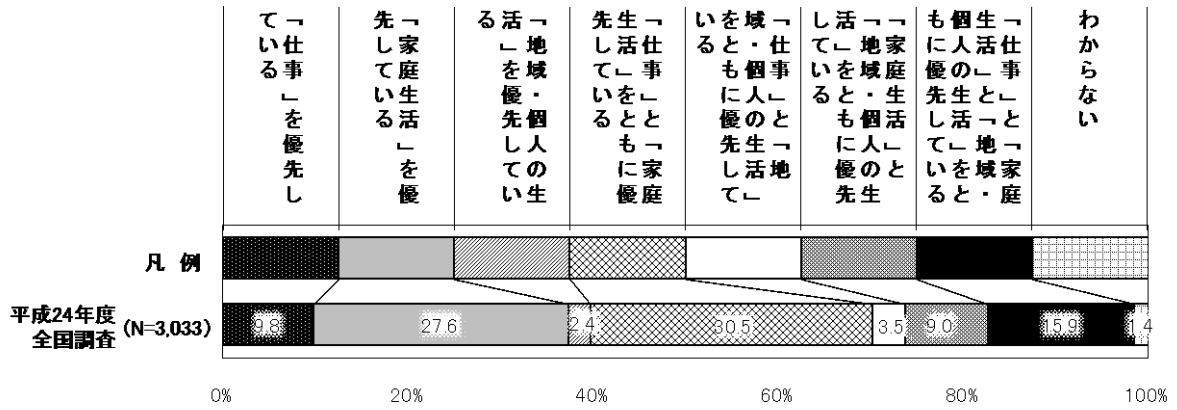
< 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方 (図表 2-13) >

(ア) あなたの希望



<参考（全国調査）：「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（図表 2-14）>

ア. 希望優先度



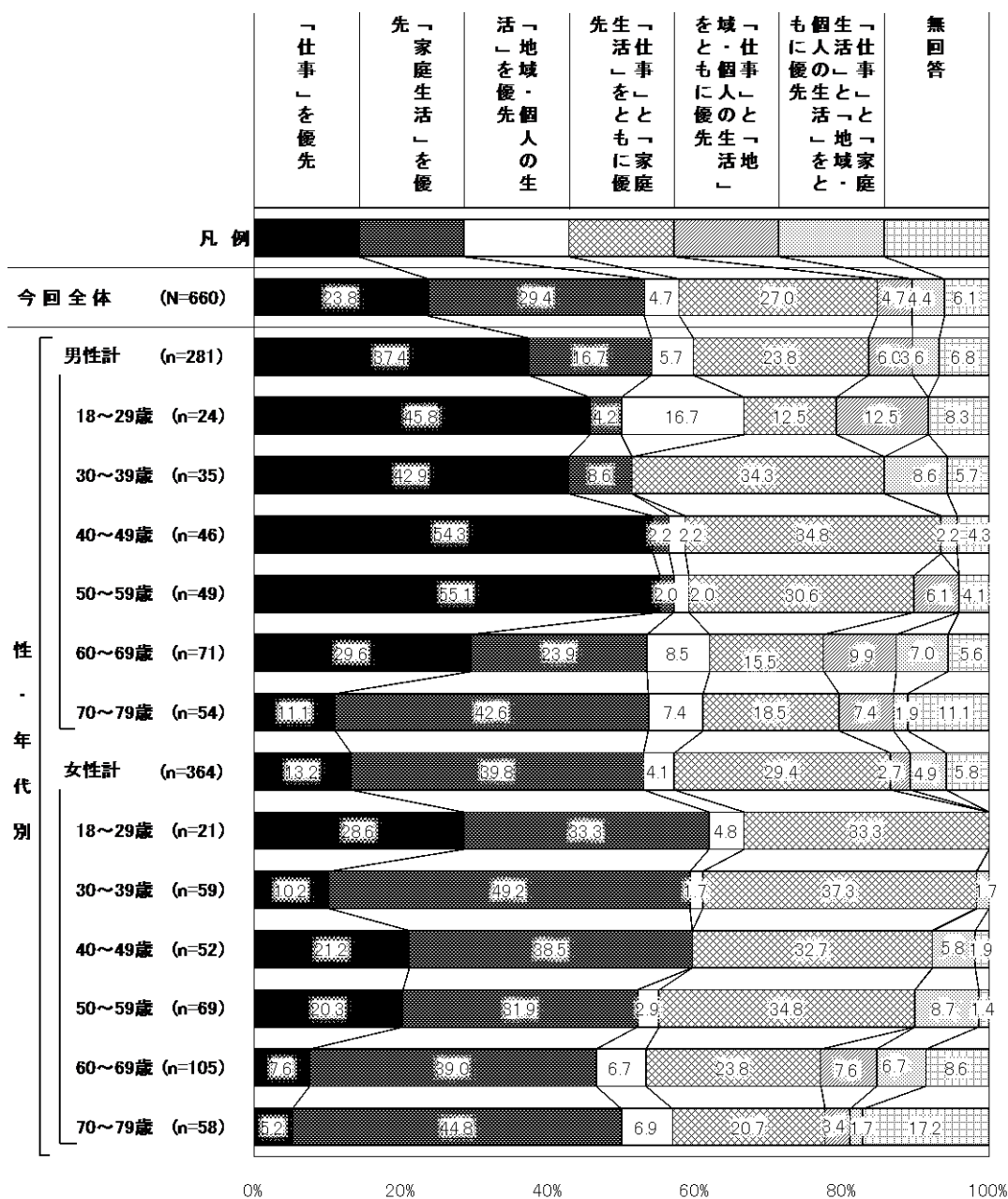
(イ) あなたの現実（現状）

**男性の現実とは「仕事」、女性の現実とは「家庭生活」**

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方に対するあなた自身の現実をみると、「仕事を優先」、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」の3者がほぼ同率の回答となっている。  
 性・年代別にみると、男性は「仕事を優先」、女性は「家庭生活を優先」と答える人が最も多く、性別による回答結果が大きく異なっている。

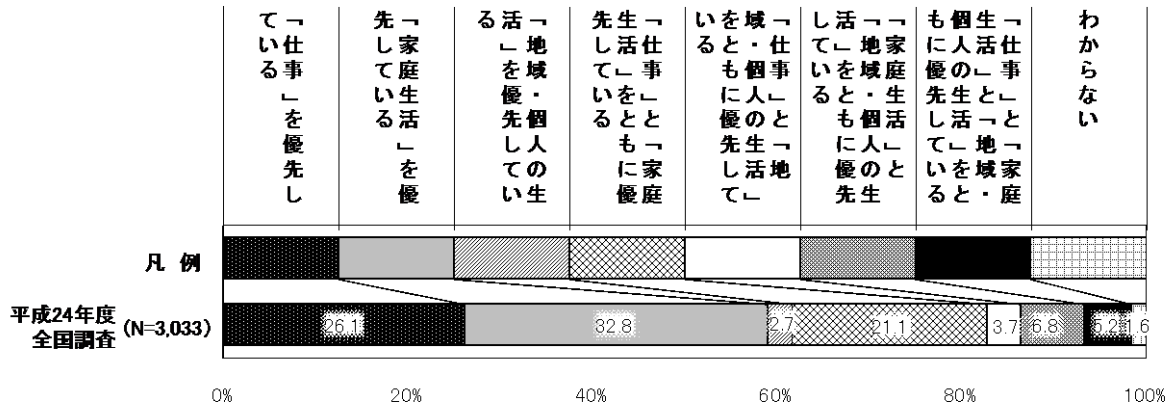
< 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（図表 2-15） >

(イ) あなたの現実（現状）



<参考（全国調査）：「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（図表 2-16）>

イ. 現実（現状）





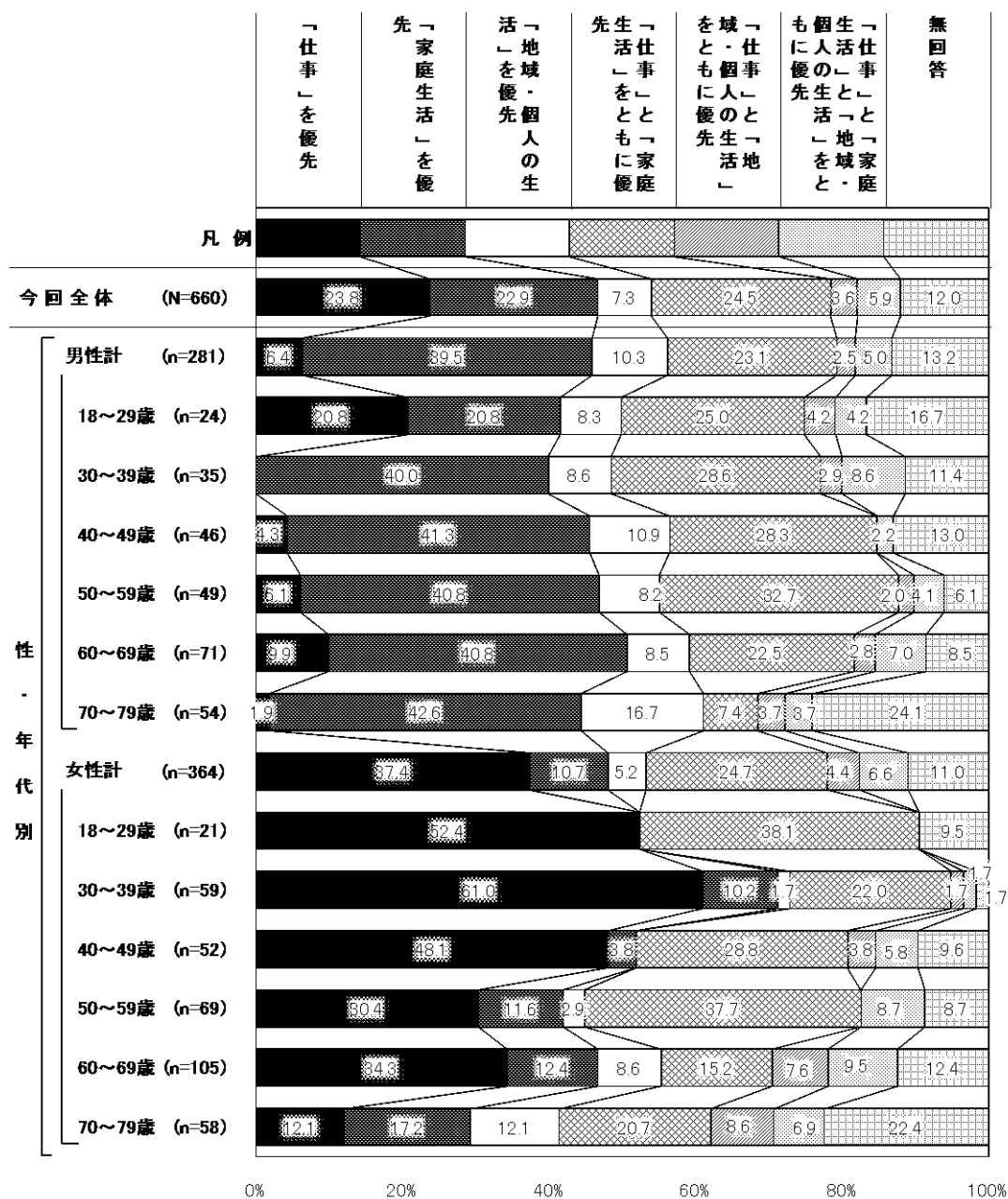
(ウ) あなたのパートナーの現実（現状）

パートナーに対する男性意識は「家庭生活」、女性意識は「仕事」

「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の関わり方に対するパートナーの現実をみると、「仕事を優先」、「家庭生活を優先」、「仕事と家庭生活を優先」の3者がほぼ同率の回答となっている。  
 性・年代別にみると、男性は「家庭生活を優先」、女性は「仕事を優先」と答える人が最も多く、性別による回答結果が大きく異なっている。

< 「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方（図表 2-17） >

(ウ) あなたのパートナーの現実（現状）



#### (4) 男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくために必要なこと

問8. 今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んでください。

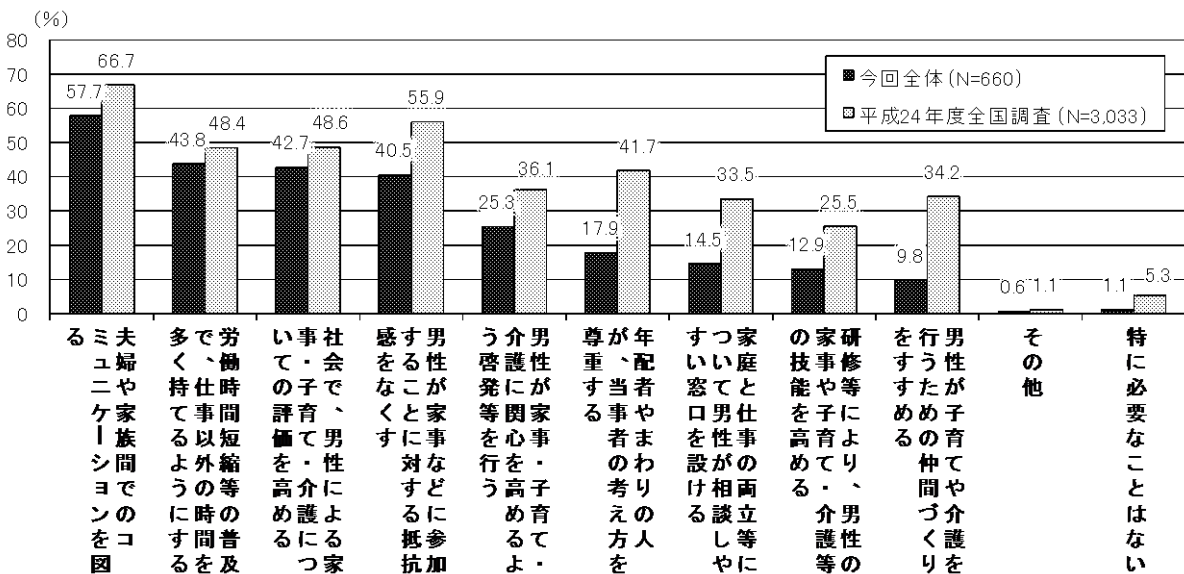
##### ～最も必要なことは「夫婦や家族でのコミュニケーション」～

男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくための方法としては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」が57.7%で最も高く、以下、「労働時間短縮等の普及で、仕事以外の時間を多く持てるようにする」(43.8%)、「社会で、男性による家事・子育て・介護についての評価を高める」(42.7%)、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす」(40.5%)と続いている。

性・年代別にみると、男女とも「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」が中心的な回答となっているが、男女とも30代～50代において「労働時間短縮等の普及で、仕事以外の時間を多く持てるようにする」と答える人が多くなっている。

なお、国の調査結果と比較すると、今回の調査結果は「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る」が最も多い回答結果は同様だが、「男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす」という意識が低くなっている。

<男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくために必要なこと (図表 2-18) >



<男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくために必要なこと（図表 2-19）>

（単位：％）

	サンプル数	夫婦や家族間のコミュニケーションを図る	労働時間短縮等の普及	社会で、男性による家	男性が家事などに参加することを拒否する	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う	男性が家事・子育て・啓発等を行う
全体	660	57.7	43.8	42.7	40.5	25.3	17.9	14.5	12.9	9.8	0.6	1.1	2.1						
性・年代別	男性計	281	57.3	45.6	38.4	32.7	23.1	14.9	17.1	14.9	8.2	0.4	1.1	2.5					
	18～29歳	24	66.7	54.2	41.7	29.2	20.8	12.5	16.7	-	12.5	-	-	-					
	30～39歳	35	57.1	57.1	42.9	28.6	14.3	20.0	22.9	2.9	2.9	-	2.9	8.6					
	40～49歳	46	60.9	56.5	37.0	21.7	17.4	15.2	13.0	10.9	4.3	-	2.2	-					
	50～59歳	49	49.0	55.1	42.9	20.4	22.4	10.2	14.3	18.4	12.2	2.0	-	2.0					
	60～69歳	71	60.6	31.0	35.2	46.5	25.4	14.1	22.5	16.9	8.5	-	1.4	2.8					
	70～79歳	54	55.6	33.3	33.3	40.7	33.3	18.5	13.0	25.9	9.3	-	-	1.9					
	男性年齢無回答	2	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-	50.0	-	-	-					
	女性計	364	58.8	42.9	45.9	46.4	26.1	19.5	12.6	11.8	11.0	0.8	1.1	1.6					
	18～29歳	21	52.4	38.1	38.1	57.1	33.3	14.3	28.6	14.3	28.6	-	-	-					
	30～39歳	59	54.2	54.2	50.8	40.7	13.6	20.3	3.4	3.4	10.2	1.7	3.4	1.7					
	40～49歳	52	51.9	53.8	44.2	46.2	17.3	21.2	11.5	13.5	11.5	1.9	-	1.9					
	50～59歳	69	66.7	50.7	52.2	44.9	23.2	15.9	13.0	7.2	5.8	1.4	1.4	2.9					
60～69歳	105	60.0	34.3	42.9	48.6	29.5	20.0	15.2	13.3	10.5	-	1.0	1.0						
70～79歳	58	60.3	29.3	43.1	46.6	41.4	22.4	12.1	20.7	12.1	-	-	1.7						
無回答	15	40.0	33.3	46.7	40.0	46.7	33.3	13.3	-	13.3	-	-	6.7						

## (5) 地域づくりにかかわる活動への参加状況

問9. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動に何か参加していますか。該当するものをいくつでも選んでください。

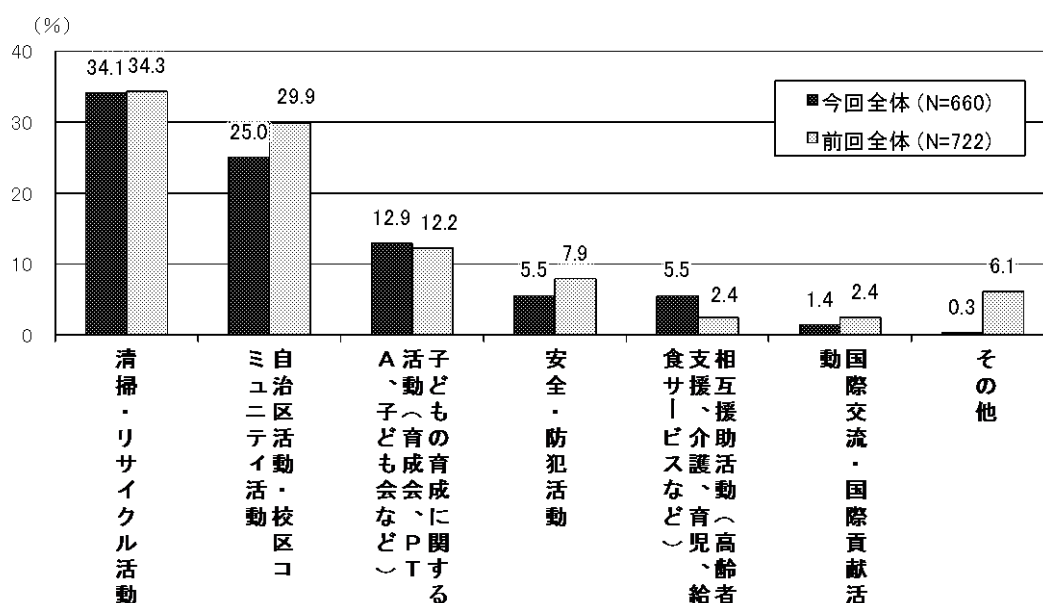
### ～「清掃・リサイクル活動」、「自治会活動・校区コミュニティ活動」の参加率が高い～

地域づくりに関する活動状況を見ると、「清掃・リサイクル活動」が34.1%で最も多く、次いで「町内会・自治会活動・校区コミュニティ」(25.0%)、「子どもの育成に関する活動」(12.9%)となっている。

前回の調査結果と比較すると、ほぼ同様の結果であるが「町内会・自治会活動・校区コミュニティ」の参加率が4.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女全体ではほぼ同様の回答傾向であるが、男性60～69歳の「町内会・自治会活動・校区コミュニティ」、女性40～49歳の「子どもの育成に関する活動」の参加率は他の年代に比べ高くなっている。

<地域づくりにかかわる活動への参加状況(図表2-20)>



＜地域づくりにかかわる活動への参加状況（図表 2-21）＞

(単位:%)

	サンプル数	清掃・リサイクル活動	自治区活動・校区コミュニティ活動	子ども会・PTA・子ども育成に関する活動	安全・防犯活動	相互援助活動（高齢者支援、介護、育児、給食サービスなど）	国際交流・国際貢献活動	その他	無回答	
全体	660	34.1	25.0	12.9	5.5	5.5	1.4	0.3	42.3	
性・年代別	男性計	281	34.2	27.0	8.5	7.5	5.3	0.7	0.4	42.7
	18～29歳	24	25.0	4.2	-	4.2	-	-	-	66.7
	30～39歳	35	25.7	25.7	25.7	5.7	2.9	-	-	42.9
	40～49歳	46	28.3	26.1	15.2	2.2	2.2	-	2.2	52.2
	50～59歳	49	44.9	16.3	2.0	8.2	6.1	2.0	-	36.7
	60～69歳	71	36.6	39.4	5.6	11.3	5.6	-	-	33.8
	70～79歳	54	37.0	31.5	5.6	9.3	11.1	1.9	-	40.7
	男性年齢無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	女性計	364	33.2	23.6	15.7	3.3	5.5	1.9	0.3	42.6
	18～29歳	21	9.5	9.5	-	-	-	-	-	81.0
	30～39歳	59	18.6	15.3	28.8	-	1.7	-	-	52.5
	40～49歳	52	48.1	23.1	46.2	9.6	5.8	-	-	28.8
	50～59歳	69	44.9	29.0	13.0	2.9	4.3	-	1.4	39.1
	60～69歳	105	27.6	30.5	5.7	3.8	6.7	2.9	-	39.0
70～79歳	58	39.7	19.0	1.7	1.7	10.3	6.9	-	41.4	
無回答	15	53.3	20.0	26.7	20.0	6.7	-	-	26.7	

(6) 地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼された時の対応

問 10. (1) もし、あなたが、地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼されたらどうしますか。1つだけ選んでください。

**～役職への就任を『引き受ける』人は2割強と、4人中1人～**

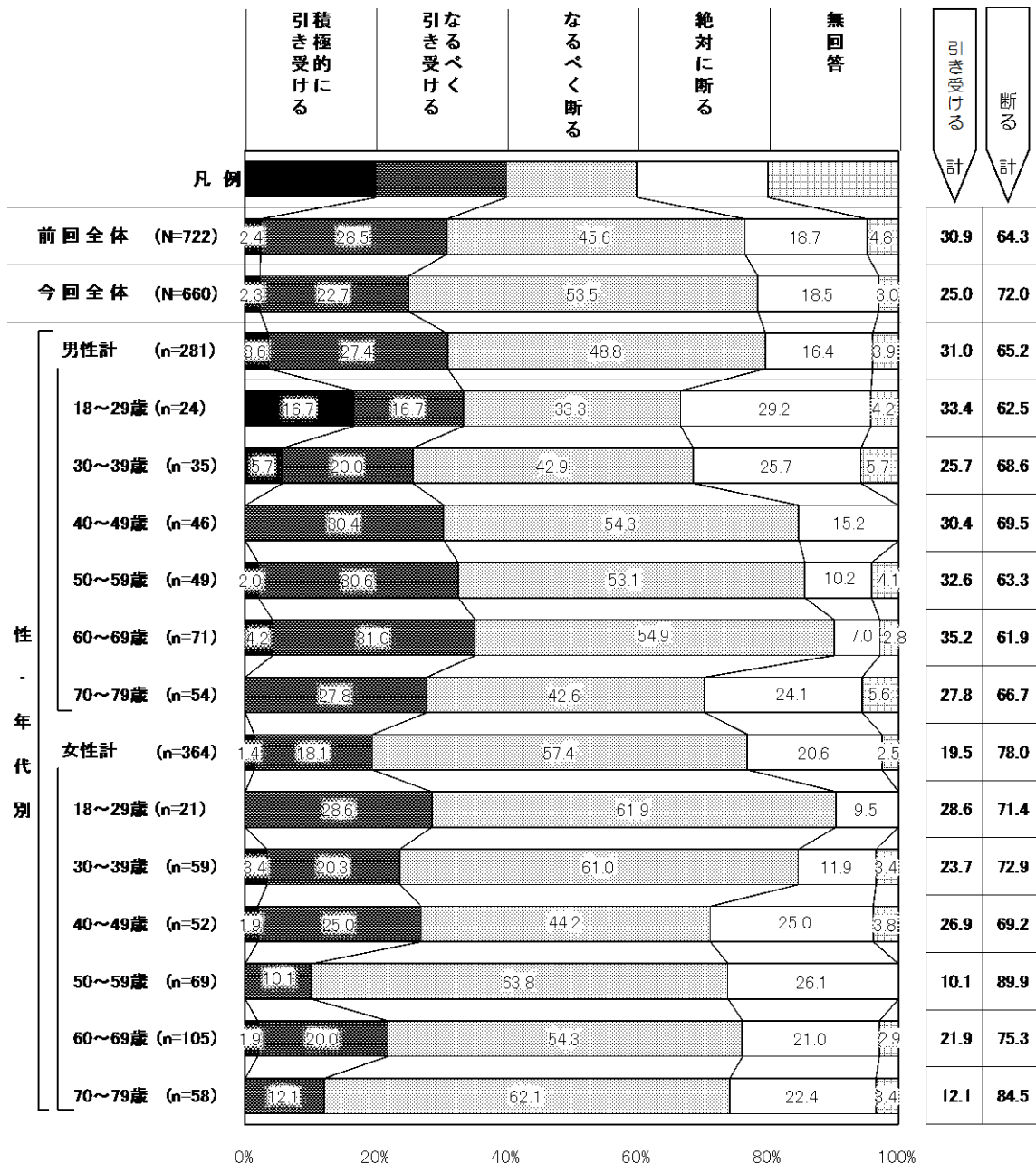
地域活動の代表や役職へ依頼された時の意識をみると、「積極的に引き受ける」は2.3%と低く、「なるべく引き受ける」(22.7%)を加えた『引き受ける』は2割強にとどまっている。

前回の調査結果と比較すると、『引き受ける』と回答する人は5.9ポイント減少し、「なるべく断る」が1割程度増加している。

性・年代別でみると、男性は女性に比べ『引き受ける』が高く、男性が31.0%、女性が19.5%となっている。つまり、男女の地域づくりにおける参加率はほとんど差はないが、代表者等への就任依頼について、女性は男性に比べ低いことが分かる。

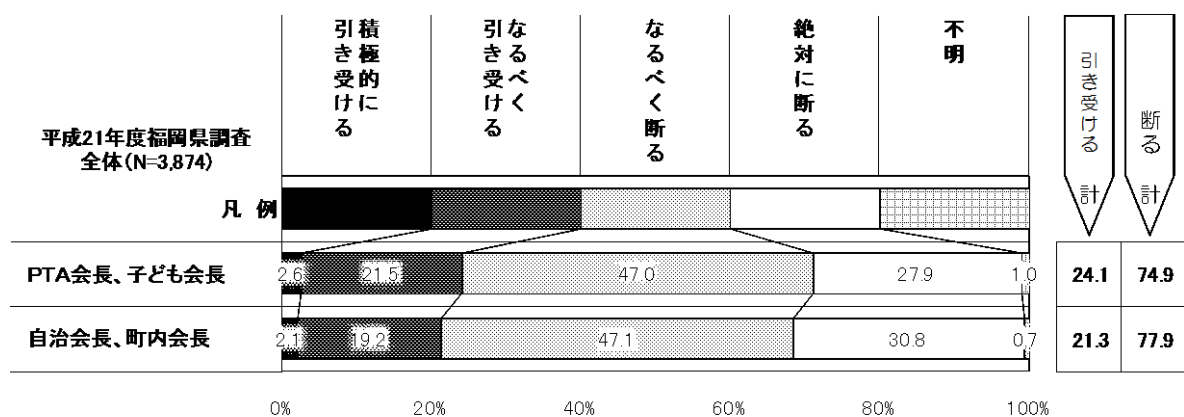
なお、福岡県の調査結果と比較すると、質問方法が同一ではなく比較分析することが困難ではあるが、『引き受ける』は「PTA会長、子ども会長」が24.1%、「町内会長、自治会長」が21.3%となっている。

＜地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼された時の対応（図表 2-22）＞



※【引き受ける計】＝「積極的に引き受ける」、「なるべく引き受ける」の合計  
 【断る計】＝「絶対に断る」、「なるべく断る」の合計

<参考（福岡県調査）：地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼された時の対応（図表 2-23）>



※【引き受ける計】＝「積極的に引き受ける」、「なるべく引き受ける」の合計  
 【断る計】＝「絶対に断る」、「なるべく断る」の合計

(7) 地域づくり活動の代表や役職への就任の依頼を断る理由

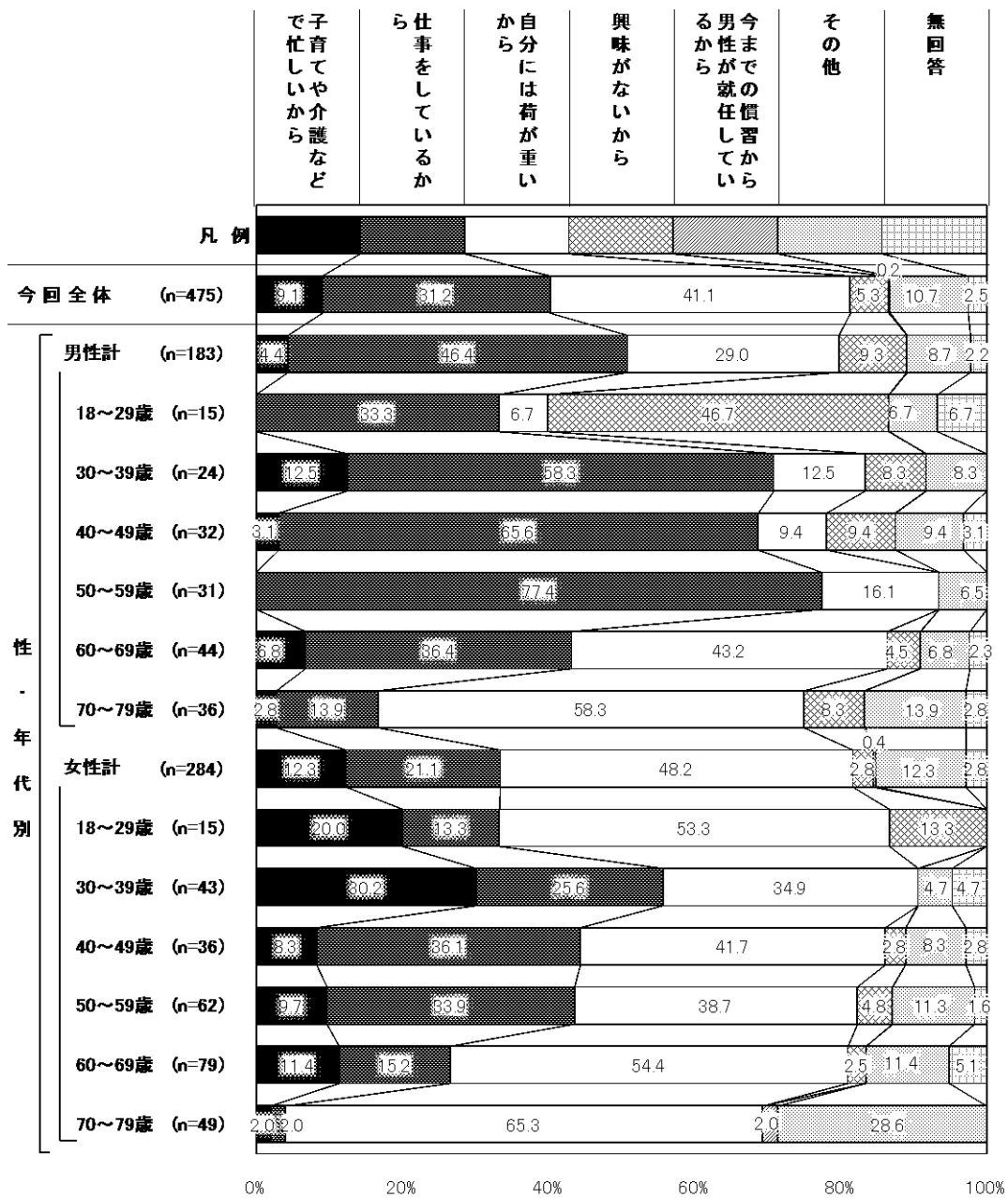
問 10. (2) (1) で「3. なるべく断る」または「4. 絶対に断る」を選んだ方におたずねします。それはなぜでしょうか。あなたがそう思う理由を1つだけ選んでください。

**～男性は「仕事」、女性は「責任感」が断る理由～**

地域活動の代表や役職へ依頼された時に『断る』人(475人)にその理由をたずねたところ、「自分には荷が重いから」と答える人が41.1%で最も高く、次いで「仕事をしているから」(31.2%)となっており、この2者で7割以上を占めている。

性・年代別でみると、男性は「仕事をしているから」、女性は「自分には荷が重いから」と答える人が最も多く、性別による回答結果が大きく異なっている。

<地域づくり活動の代表や役職への就任の依頼を断る理由(図表 2-24) >





(8) 地域活動における女性の参画を進めるために必要なこと

問 11. 地域活動において、女性の「参画」を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。1つだけ選んでください。

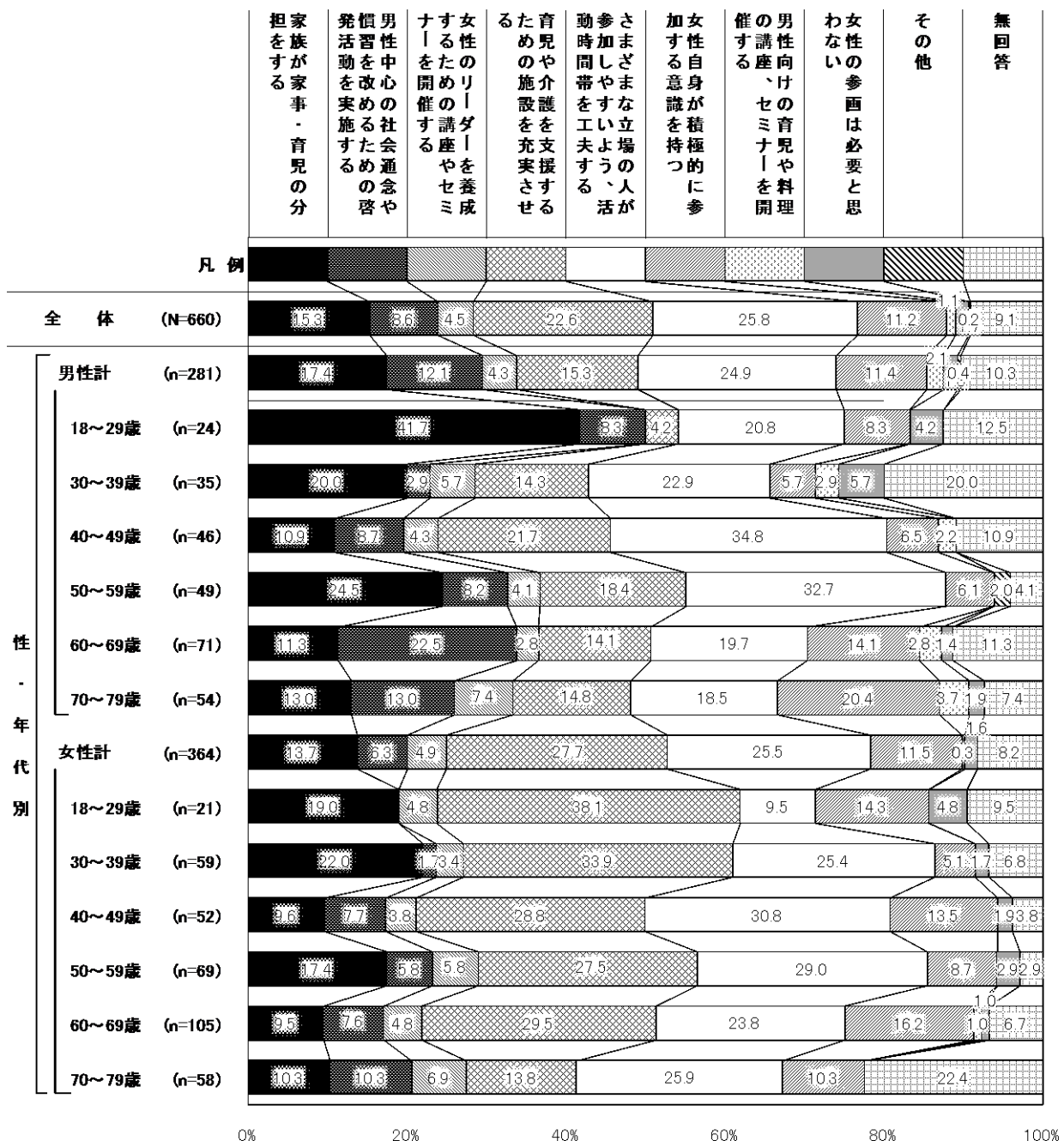
**～男性は「活動しやすい時間帯の工夫」、  
女性は「育児・介護の支援施設を充実」を要望～**

地域活動における女性の参画を推進するための方法をみると、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」(25.8%)が最も多く、以下、「育児や介護を支援するための施設を充実させる」(22.6%)、「家族が家事・育児の分担をする」(15.3%)と続いている。

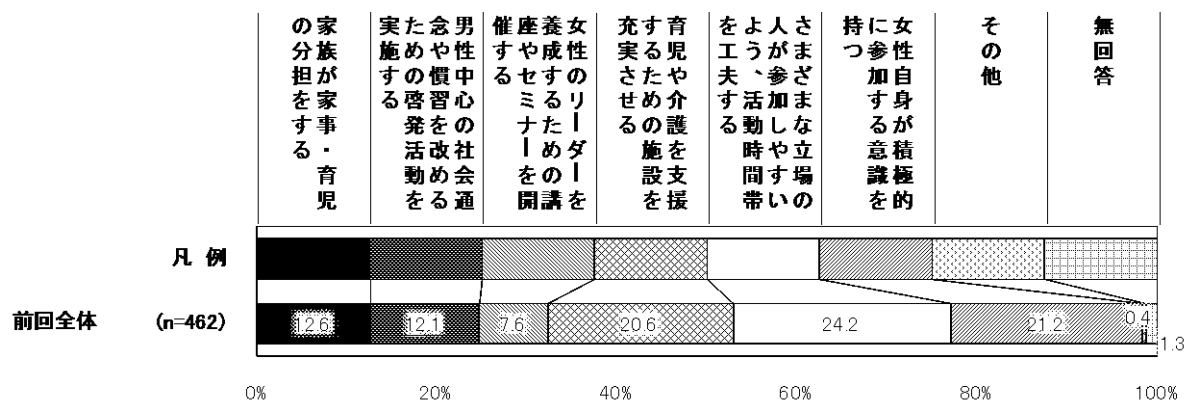
前回の調査結果と比較すると、選択肢を追加したため単純には比較できないが、「女性自身が積極的に参加する意識を持つ」と回答する人が大きく減少している。

性・年代別でみると、男性は「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」、女性は「育児や介護を支援するための施設を充実させる」と答える人が最も多く、男女とも年代による回答傾向はそれ以上に大きく異なっている。

<地域活動における女性の参画を進めるために必要なこと (図表 2-25) >



<参考（前回調査）：地域活動における女性の参画を進めるために必要なこと（図表 2-26）>



## (9) 地域活動に多くの人が参加していくために必要な環境や条件

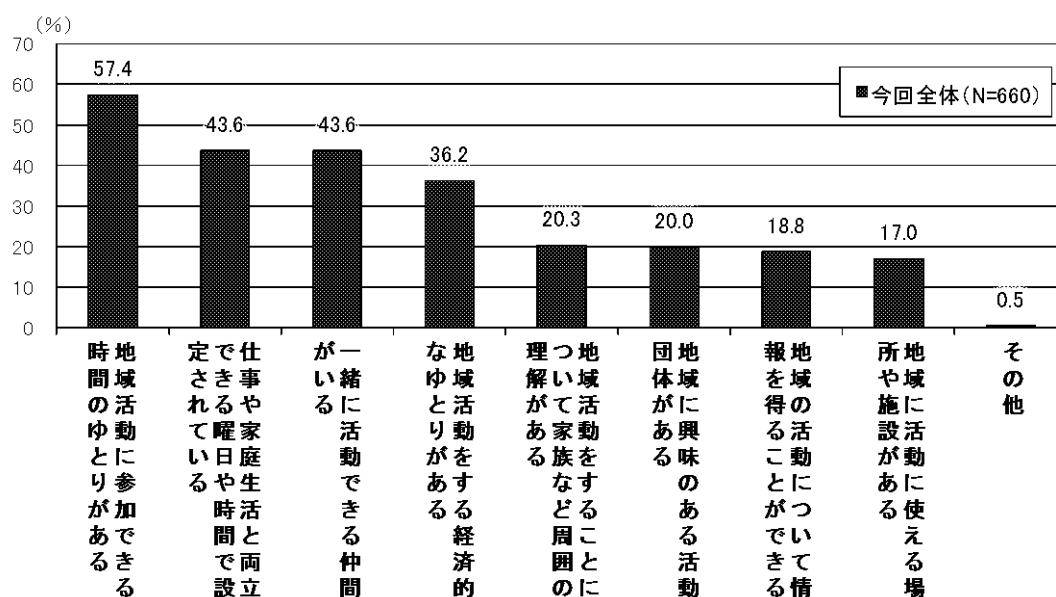
問 12. 地域活動に多くの人が参加していくためには、どのような環境や条件が必要だと思いますか。  
3つまで選んでください。

### ～最も必要な環境や条件は「地域活動に参加できる時間のゆとり」～

地域活動に多くの人が参加していくための環境や条件としては、「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」が57.4%と最も多く、以下「仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている」(43.6%)、「一緒に活動できる仲間がいる」(43.6%)、「地域活動をする経済的なゆとりがある」(36.2%)が続いている。

性・年代別でみると、男女ともほぼ同様の回答傾向を示しており、「地域活動に参加できる時間のゆとりがある」という要望が最も高い。

<地域活動に多くの人が参加していくために必要な環境や条件 (図表 2-27) >



<地域活動に多くの人が参加していくために必要な環境や条件（図表 2-28）>

(単位:%)

	サンプル数	地域の活動に参加できる時間	仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間帯	一緒に活動できる仲間がいる	地域活動をする経済的なゆとりがある	地域活動をする周囲の理解がある	地域に興味のある活動団体が存在する	地域の活動について情報を得ることができる	地域に活動に使える場所や施設がある	その他	無回答	
全体	660	57.4	43.6	43.6	36.2	20.3	20.0	18.8	17.0	0.5	5.3	
性・年代別	男性計	281	61.9	43.8	38.4	42.3	17.1	17.8	19.6	17.8	0.7	5.0
	18～29歳	24	66.7	33.3	41.7	41.7	16.7	16.7	20.8	25.0	-	-
	30～39歳	35	77.1	60.0	40.0	48.6	8.6	14.3	17.1	5.7	-	2.9
	40～49歳	46	69.6	41.3	41.3	50.0	13.0	8.7	19.6	10.9	2.2	4.3
	50～59歳	49	65.3	57.1	34.7	49.0	16.3	20.4	14.3	20.4	-	2.0
	60～69歳	71	56.3	42.3	33.8	35.2	21.1	26.8	26.8	16.9	1.4	5.6
	70～79歳	54	48.1	29.6	44.4	35.2	22.2	14.8	16.7	27.8	-	9.3
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	女性計	364	54.4	43.4	47.8	31.0	23.1	21.4	17.9	16.5	-	5.8
	18～29歳	21	66.7	38.1	57.1	57.1	19.0	9.5	9.5	19.0	-	-
	30～39歳	59	71.2	47.5	50.8	32.2	16.9	23.7	15.3	5.1	-	3.4
	40～49歳	52	57.7	57.7	44.2	36.5	23.1	21.2	13.5	17.3	-	-
	50～59歳	69	66.7	52.2	44.9	40.6	18.8	10.1	23.2	15.9	-	1.4
60～69歳	105	43.8	38.1	45.7	23.8	27.6	27.6	14.3	18.1	-	9.5	
70～79歳	58	34.5	27.6	51.7	17.2	27.6	25.9	27.6	24.1	-	13.8	
無回答	15	46.7	46.7	40.0	46.7	13.3	26.7	26.7	13.3	6.7	-	

## (10) 防災対策に女性が参画するために必要なこと

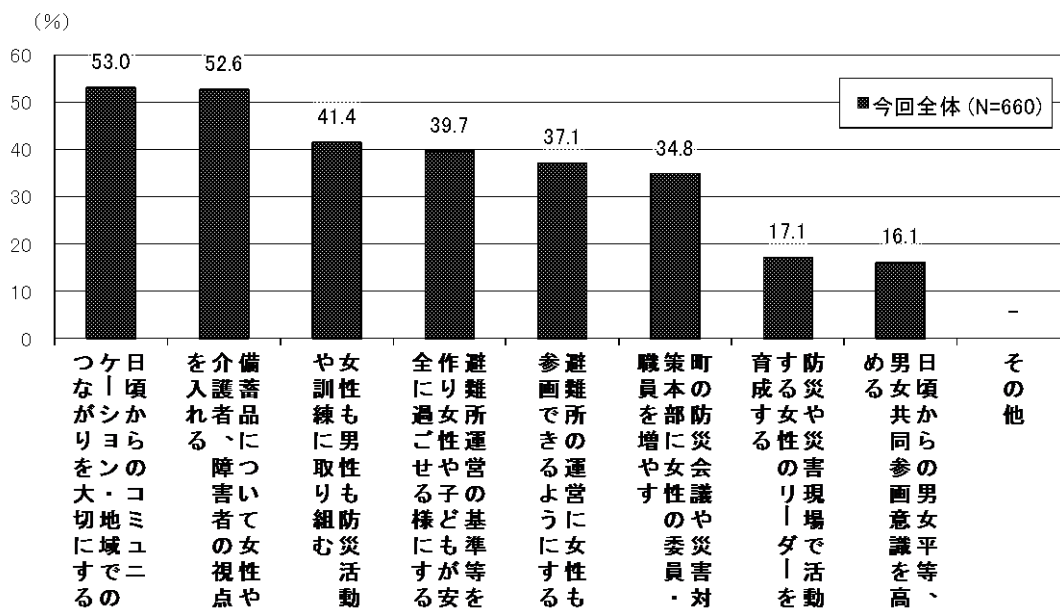
問 13. 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していないことや、日ごろの防災や震災対応に女性の視点がないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。該当するものをいくつでも選んでください。

### ～災害対策は「日頃からのコミュニケーション」、 「備蓄品は女性、介護者、障害者の視点」～

災害に備えるために必要なこととしては、「日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする」(53.0%)と「備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる」(52.6%)が5割を超え多く、以下、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(41.4%)、「避難所運営の基準等を作り、女性や子どもが安全に過ごせる様にする」(39.7%)と続いている。

性・年代別でみると、男女ともほぼ同様の回答傾向を示している。

<防災対策に女性が参画するために必要なこと (図表 2-29) >



<防災対策に女性が参画するために必要なこと（図表 2-30）>

(単位:%)

	サンプル数	日頃からのコミュニティづくりを大切にしている地域でのつながり	日頃から地域のコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	日頃からのコミュニティづくり	その他	無回答
全体	660	53.0	52.6	41.4	39.7	37.1	34.8	17.1	16.1	-	-	-	-	3.9	
性・年代別	男性計	281	47.7	48.0	47.0	38.1	38.4	39.1	22.1	17.1	-	-	-	3.9	
	18～29歳	24	37.5	50.0	54.2	33.3	54.2	33.3	12.5	12.5	-	-	-	-	
	30～39歳	35	28.6	60.0	31.4	31.4	34.3	28.6	14.3	5.7	-	-	-	5.7	
	40～49歳	46	43.5	50.0	41.3	52.2	30.4	32.6	13.0	13.0	-	-	-	4.3	
	50～59歳	49	38.8	51.0	49.0	28.6	36.7	53.1	26.5	18.4	-	-	-	2.0	
	60～69歳	71	59.2	49.3	50.7	38.0	43.7	38.0	23.9	19.7	-	-	-	2.8	
	70～79歳	54	61.1	33.3	51.9	40.7	35.2	42.6	31.5	24.1	-	-	-	5.6	
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	
	女性計	364	56.6	56.9	37.1	41.2	37.1	31.3	13.5	15.4	-	-	-	4.1	
	18～29歳	21	52.4	61.9	38.1	42.9	28.6	28.6	4.8	14.3	-	-	-	-	
	30～39歳	59	32.2	66.1	39.0	49.2	35.6	39.0	15.3	8.5	-	-	-	3.4	
	40～49歳	52	51.9	71.2	34.6	40.4	30.8	50.0	7.7	25.0	-	-	-	-	
	50～59歳	69	60.9	58.0	39.1	42.0	43.5	26.1	14.5	20.3	-	-	-	1.4	
	60～69歳	105	61.0	46.7	38.1	41.9	37.1	27.6	14.3	9.5	-	-	-	5.7	
	70～79歳	58	74.1	50.0	32.8	31.0	39.7	20.7	17.2	19.0	-	-	-	10.3	
無回答	15	66.7	33.3	40.0	33.3	13.3	40.0	13.3	13.3	-	-	-	-		

### 3. 子どもの教育について





## (1) 男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるもの

問 14. 男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるものは何ですか。3つまで選んでください。

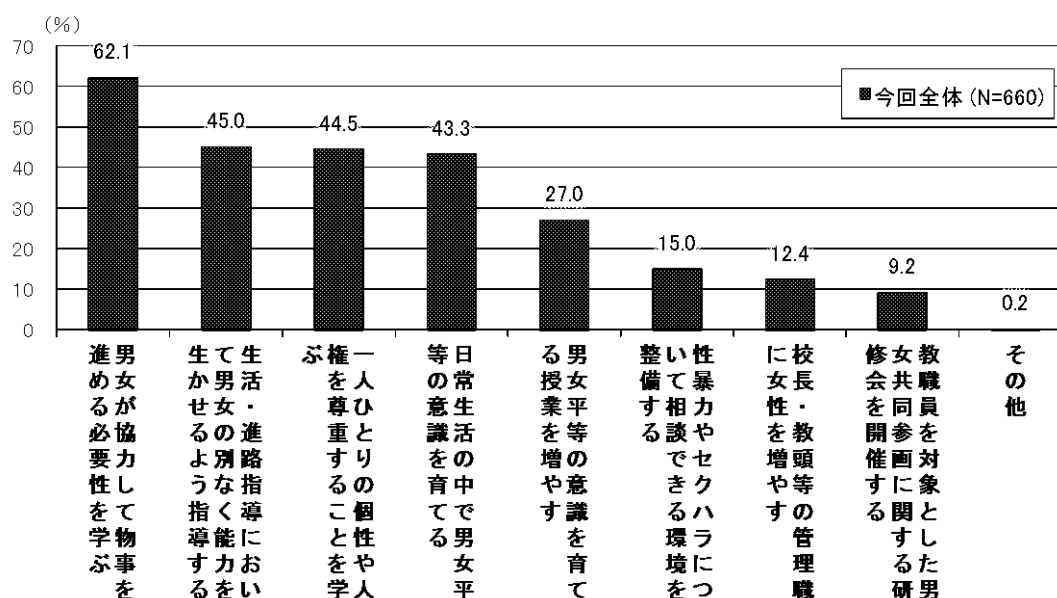
### ～「男女協力（協働）の教育の必要性」が6割以上を占めトップ～

小・中学校教育において男女共同参画社会を築いていくために重要なことを尋ねたところ、「男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ」が62.1%で最も高い。以下、「生活・進路指導において男女の別なく能力を生かせるよう指導する」(45.0%)、「一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ」(44.5%)、「日常生活の中で男女平等の意識を育てる」(43.3%)などがいずれも4割を超えている。

前回の調査結果とは選択肢の大きく異なるため、コメントは避ける。

性・年代別で見ると、男女全体ではほぼ同様の回答傾向であるが、男性 50～59 歳では「日常生活の中で男女平等の意識を育てる」と答える人が最も多く、特徴的である。

<男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるもの（図表 3-1）>

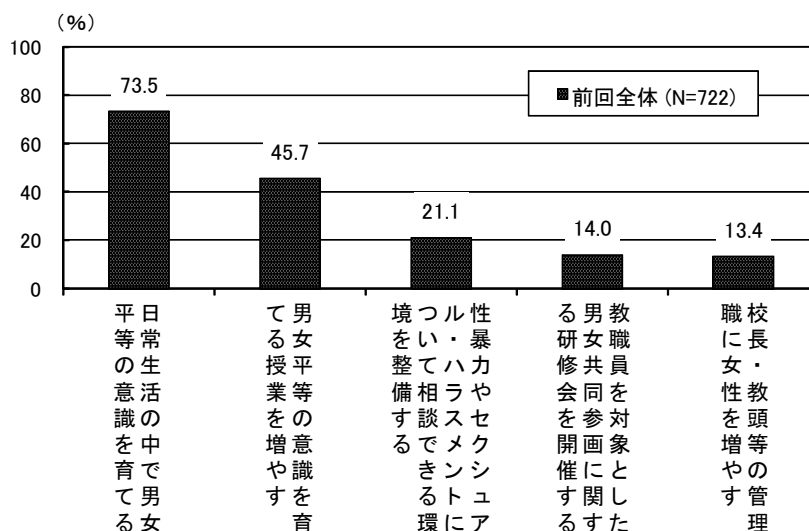


＜男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるもの（図表 3-2）＞

(単位:%)

	サンプル数	める男女が協力を学ばなければならないものを進める	生活・進路指導における男女の別なく能力をいかせるよう指導する	一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ	日常生活の中で男女平等の意識を育てる	男女平等の意識を育てる	性暴力やセクハラに関する相談できる環境を整備する	校長・教頭等の管理職に女性を増やす	教職員を対象とした研修会を開催する	その他	無回答	
全体	660	62.1	45.0	44.5	43.3	27.0	15.0	12.4	9.2	0.2	4.8	
性・年代別	男性計	281	54.8	38.8	41.6	43.1	34.2	16.0	13.2	11.7	-	5.0
	18～29歳	24	66.7	16.7	50.0	33.3	37.5	16.7	8.3	16.7	-	4.2
	30～39歳	35	54.3	42.9	37.1	42.9	34.3	14.3	14.3	5.7	-	5.7
	40～49歳	46	60.9	30.4	45.7	19.6	34.8	26.1	23.9	8.7	-	4.3
	50～59歳	49	38.8	32.7	44.9	57.1	36.7	14.3	20.4	6.1	-	2.0
	60～69歳	71	56.3	49.3	42.3	46.5	31.0	14.1	7.0	15.5	-	4.2
	70～79歳	54	57.4	44.4	35.2	50.0	35.2	13.0	7.4	16.7	-	7.4
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	女性計	364	68.4	49.7	46.4	43.7	21.2	14.0	12.4	7.4	0.3	4.9
	18～29歳	21	57.1	52.4	52.4	28.6	33.3	33.3	14.3	9.5	-	-
	30～39歳	59	69.5	35.6	52.5	42.4	15.3	10.2	16.9	-	1.7	5.1
	40～49歳	52	67.3	38.5	46.2	44.2	26.9	17.3	15.4	9.6	-	-
	50～59歳	69	72.5	46.4	46.4	56.5	24.6	11.6	10.1	5.8	-	2.9
	60～69歳	105	70.5	57.1	39.0	41.0	15.2	16.2	9.5	11.4	-	7.6
70～79歳	58	63.8	63.8	51.7	39.7	24.1	6.9	12.1	6.9	-	8.6	
無回答	15	46.7	46.7	53.3	40.0	33.3	20.0	-	6.7	-	-	

＜参考（前回調査）：男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるもの（図表 3-3）＞



#### 4. 就業状況・職業観などについて



(1) 女性が働くことに対する意識

問 15. 女性が働くことについて、あなたはどのように思いますか。1つだけ選んでください。

～「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再びもつ方がよい」が4割を超えトップ～

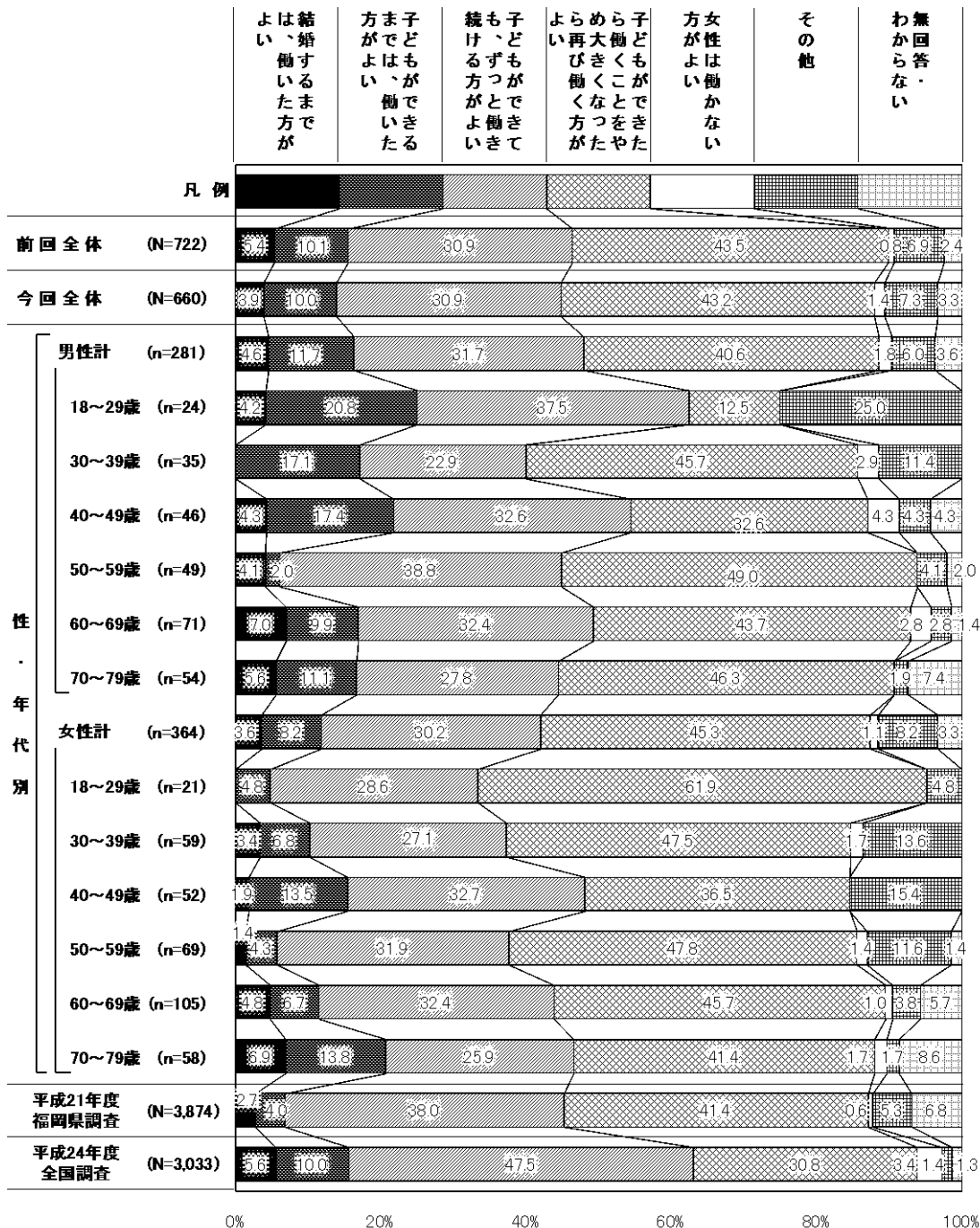
女性が職業をもつことに対する意識をみると、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再びもつ方がよい」(43.2%)が最も多く、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」(30.9%)と、この2つで回答の大半を占めている。なお、「女性は職業をもたないほうがよい」(1.4%)はほとんどみられない。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

性・年代別でみると、男女とも全体結果ではほぼ同様の傾向を示している。また、男性 18～29 歳では「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も多くなっている。

なお、国の調査結果と比較すると、国の調査結果では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答がトップであり、今回の調査結果とは異なる。

<女性が働くことに対する意識 (図表 4-1) >



## (2) 現在勤めている職場の育児休業や介護休業の取りやすさ

問 16. 「働いている」方におたずねします。

あなたが現在勤めている職場は、育児休業や介護休業が取りやすいと思いますか。1つだけ選んでください。

### ～育児・介護休業は『取りやすい』、『取りにくい』が拮抗～

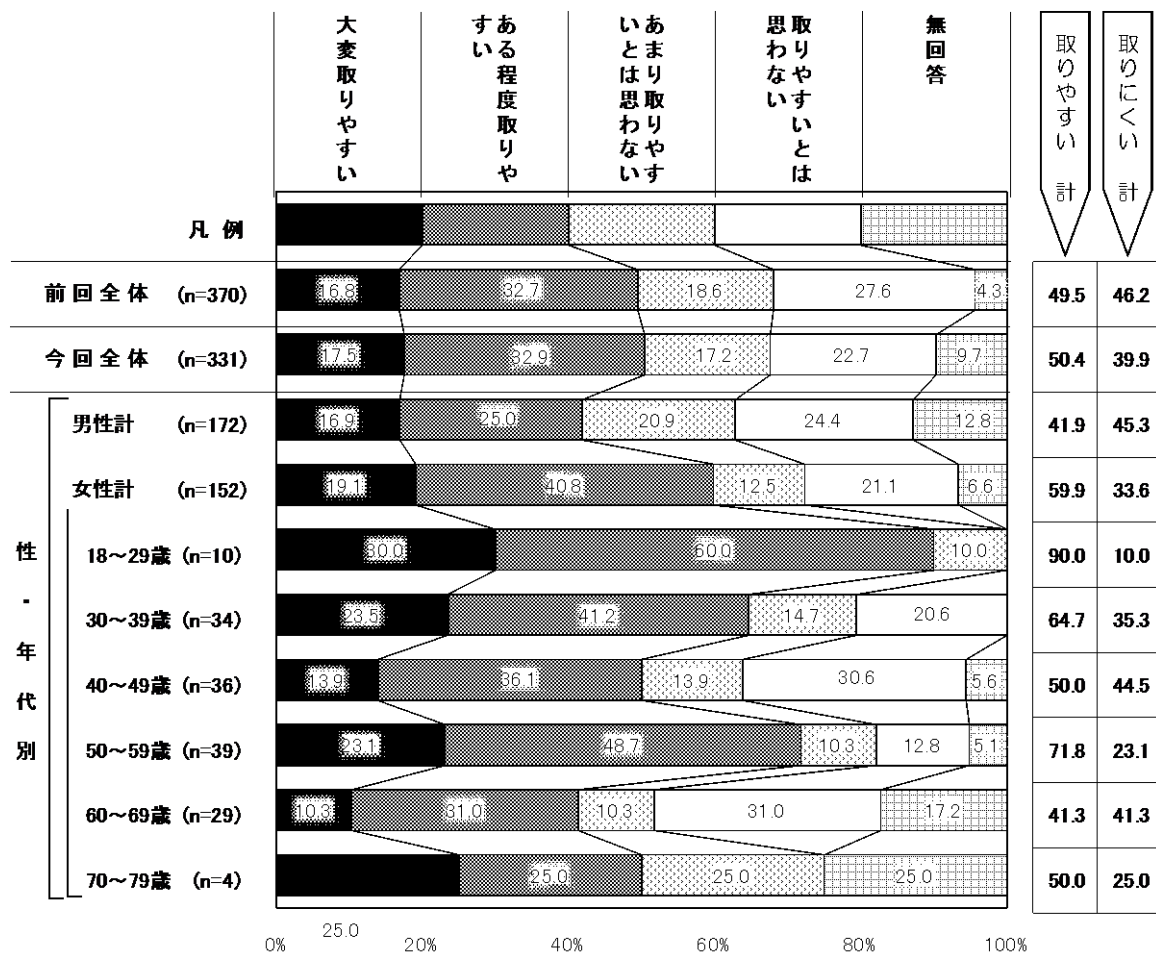
現在、就労している人（331人）における育児休業や介護休業の取りやすさをみると、「大変取りやすい」が17.5%、「ある程度取りやすい」が32.9%と、育児・介護休業制度の取得は『取りやすい』が半数を占めている。しかし、『取りにくい』（「取りやすいとは思わない」（22.7%）、「あまり取りやすいとは思わない」（17.2%）の合計）も4割程度みられる。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向であるが、『取りにくい』と回答する人が6.3ポイント減少している。

性別でみると、女性全体では『取りやすい』が約6割を占めるものの、男性は『取りにくい』が『取りにくい』を上回っている。なお、年代別ではサンプル数が少ないため、コメントは避ける。

職業別にみると、一般事務職では『取りやすい』が62.2%を占めるものの、労務職では『取りにくい』が55.1%と、回答傾向が大きく異なる。

<現在勤めている職場の育児休業や介護休業の取りやすさ（図表 4-2）>



※【取りやすい計】＝「大変取りやすい」、「ある程度取りやすい」の計  
 【取りにくい計】＝「取りやすいとは思わない」、「あまり取りやすいとは思わない」の合計

<現在勤めている職場の育児休業や介護休業の取りやすさ（図表 4-3）>

(単位:%)

		サンプル数	大変取りやすい	ある程度取りやすい	あまり取りやすいとは思わない	取りやすいとは思わない	無回答	【取りやすい計】	【取りにくい計】	
全体		331	17.5	32.9	17.2	22.7	9.7	50.4	39.9	
職業別	自営業主・家族従業者・自由業	48	12.5	20.8	16.7	16.7	33.3	33.3	33.4	
	管理職	32	21.9	28.1	18.8	15.6	15.6	50.0	34.4	
	専門・技術職	110	19.1	36.4	18.2	21.8	4.5	55.5	40.0	
	一般事務職	53	24.5	37.7	11.3	20.8	5.7	62.2	32.1	
	労務職	49	6.1	34.7	24.5	30.6	4.1	40.8	55.1	
	専業主婦・主夫	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	学生・無職・その他	39	20.5	33.3	12.8	30.8	2.6	53.8	43.6	

### (3) 働いていない理由

問 17. 「働いていない」方におたずねします。

現在、働いていない理由は何ですか。3つまで選んでください。

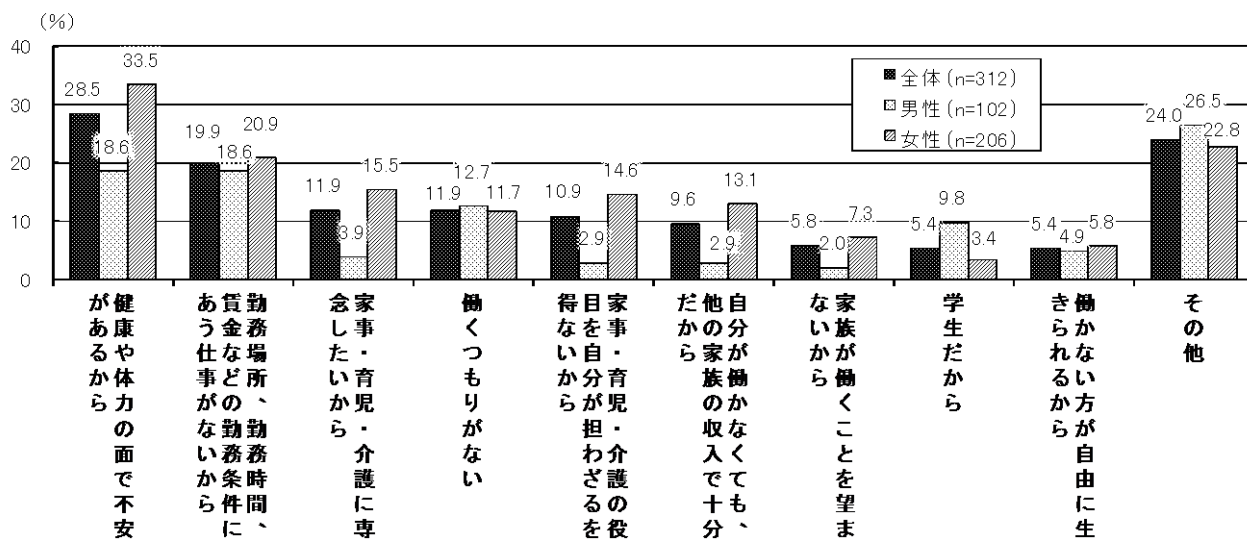
#### ～働いていない理由は、「健康や体力の面で不安があるから」がトップ～

現在、就労していない人（312人）の理由をみると、「健康や体力の面で不安があるから」が28.5%で最も高く、「勤務場所、勤務時間、賃金などの勤務条件にあう仕事がないから」が19.9%と続いている。

なお、「働くつもりはない」と回答する人は1割程度にとどまっている。

性別でみると、男女ともほぼ同様の傾向を示している。なお、年代別ではサンプル数が少ないため、コメントは避ける。

<働いていない理由（図表 4-4）>





#### (4) 仕事から遠ざかっていた女性が再就職（業）しやすくなるために必要な援助

問 18. 出産・育児・介護などで就業から遠ざかっていた女性が再就職（業）しやすくするには、あなたはどのような援助が必要だと思いますか。3つまで選んでください。

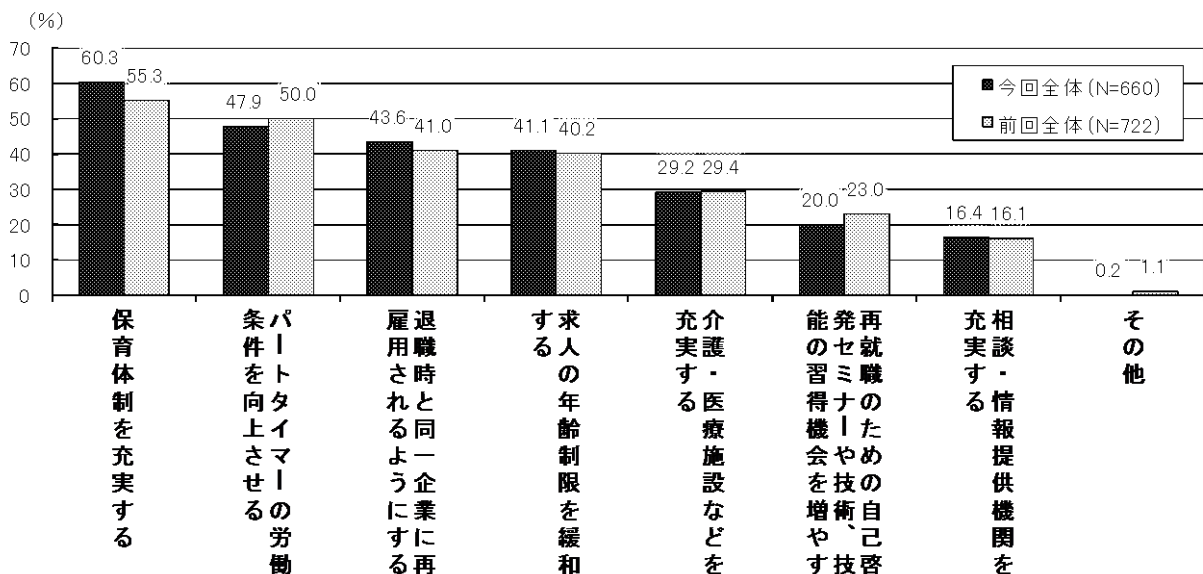
##### ～女性が再就職しやすくなるための援助は、「保育体制を充実する」がトップ～

出産、育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職（業）をしやすくする方策を尋ねたところ、「保育体制を充実する」が60.3%で最も高く、次いで「パートタイマーの労働条件を向上させる」（47.9%）、「退職時と同一企業に再雇用されるようにする」（43.6%）、「求人者の年齢制限を緩和する」（41.1%）などとなっている。

前回調査と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の回答傾向である。

性・年代別にみると、男女とも「保育体制を充実する」が最も多いものの、男性は女性に比べ「退職時と同一企業に再雇用されるようにする」、女性は男性に比べ「パートタイマーの労働条件を向上させる」が多くなっている。また、女性18～29歳と女性70～79歳は「退職時と同一企業に再雇用されるようにする」と回答する人が最も多くなっている。

<仕事から遠ざかっていた女性が再就職（業）しやすくなるために必要な援助（図表4-5）>



＜仕事から遠ざかっていた女性が再就職（業）しやすくなるために必要な援助（図表 4-6＞

（単位：％）

	サンプル数	保育体制を充実する	パートタイマーの労働条件を向上させる	退職時と同一企業に再雇用されるようにする	求人年齢制限を緩和する	介護・医療施設などを充実する	就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会を増やす	相談・情報提供機関を充実する	その他	無回答	
全体	660	60.3	47.9	43.6	41.1	29.2	20.0	16.4	0.2	5.3	
性・年代別	男性計	281	58.7	43.1	49.5	37.0	27.4	22.8	16.7	0.4	6.8
	18～29歳	24	70.8	33.3	50.0	50.0	16.7	25.0	20.8	-	8.3
	30～39歳	35	68.6	40.0	48.6	34.3	28.6	5.7	14.3	-	8.6
	40～49歳	46	60.9	37.0	45.7	39.1	26.1	8.7	23.9	2.2	10.9
	50～59歳	49	59.2	55.1	44.9	36.7	18.4	28.6	16.3	-	2.0
	60～69歳	71	53.5	40.8	52.1	38.0	33.8	32.4	16.9	-	4.2
	70～79歳	54	50.0	46.3	53.7	31.5	29.6	27.8	11.1	-	9.3
	男性年齢無回答	2	100.0	50.0	50.0	-	100.0	-	-	-	-
	女性計	364	62.1	52.5	39.3	43.7	30.5	17.6	15.9	-	4.1
	18～29歳	21	66.7	47.6	66.7	57.1	23.8	14.3	9.5	-	-
	30～39歳	59	81.4	57.6	27.1	37.3	16.9	20.3	11.9	-	-
	40～49歳	52	65.4	57.7	36.5	61.5	21.2	19.2	13.5	-	3.8
	50～59歳	69	66.7	56.5	26.1	46.4	40.6	17.4	20.3	-	-
60～69歳	105	56.2	53.3	44.8	38.1	29.5	16.2	17.1	-	6.7	
70～79歳	58	43.1	37.9	50.0	36.2	44.8	17.2	17.2	-	10.3	
無回答	15	46.7	26.7	40.0	53.3	33.3	26.7	20.0	-	6.7	

## (5) 女性が働き続ける上での課題

問 19. 女性が働き続ける上で、どのような点が課題となっていると思いますか。3つまで選んでください。

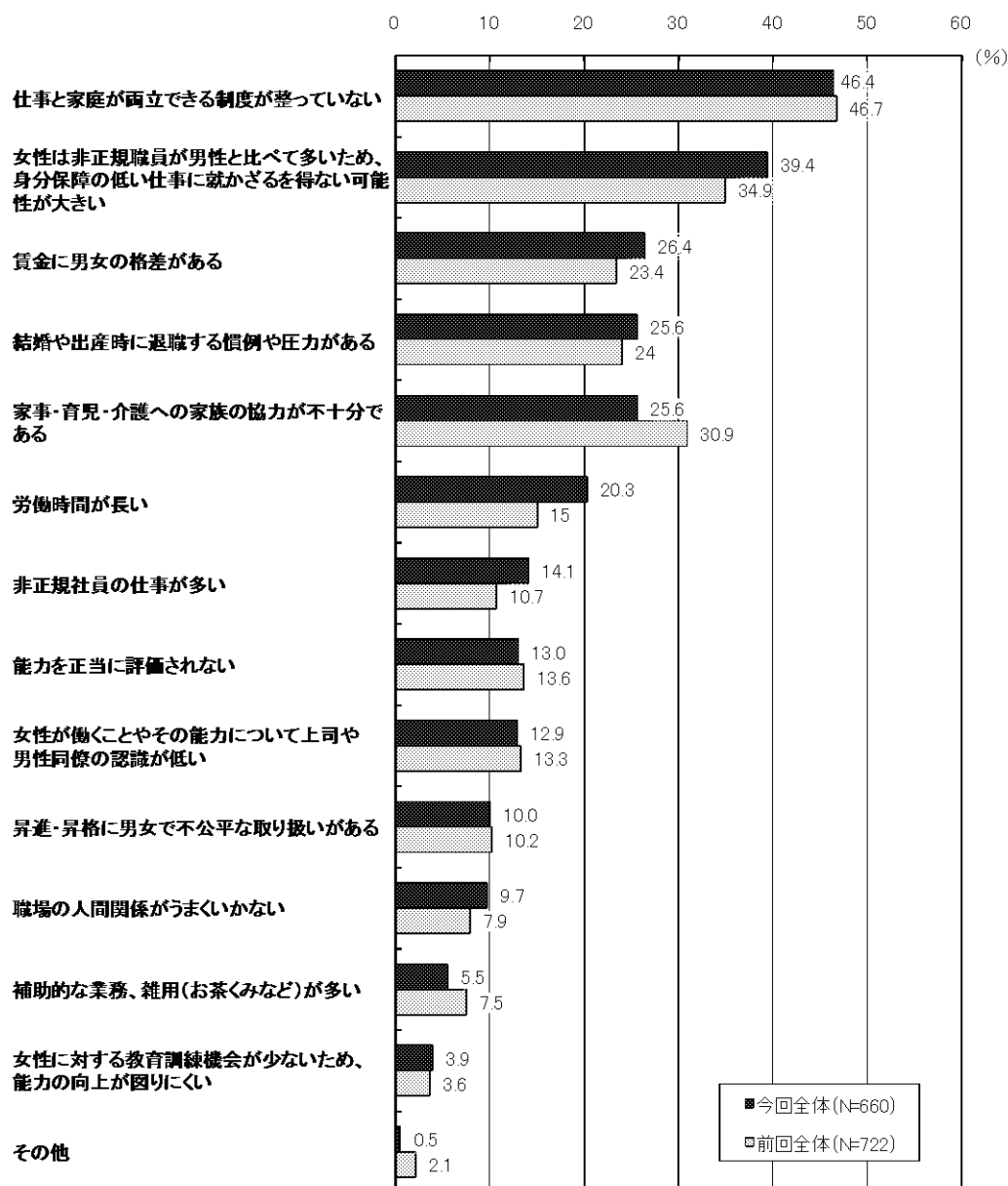
### ～女性にとっての職業継続のための障害は、「仕事と家庭が両立できる制度の未整備」や「非正規社員が多い女性の身分保障制度の不備」～

女性が働き続ける上での課題を尋ねたところ、「仕事と家庭が両立できる制度が整っていない」が46.4%で最も高く、次いで「女性は非正規職員が多いため、身分保障の低い仕事に就かざるを得ない可能性が大きい」(39.4%)、「賃金に男女の格差がある」(26.4%)、「結婚や出産時に退職する慣例や圧力がある」、「家庭・育児・介護への家族の協力が不十分である」(各25.6%)、「労働時間が長い」(20.3%)などとなっており、仕事と家庭が両立できる制度や非正規社員が多い女性の身分保障制度が大きな課題としてあがっている。

前回調査と比較すると、回答傾向はほぼ同様であるが、「家庭・育児・介護への家族の協力が不十分である」と回答はやや減少している。

性・年代別にみると、男女全体ではほぼ同様の傾向であるが、男性18～29歳では「結婚や出産時に退職する慣例や圧力」、男性70～79歳では「女性は非正規職員が多いため、身分保障の低い仕事に就かざるを得ない」ことを最大の課題と捉えている。

<女性が働き続ける上での課題(図表4-7)>



<女性が働き続ける上での課題（図表 4-8）>

(単位:%)

	サンプル数	仕事と家庭が両立できない	分保障の低い仕事に就く可能性が大きい	非正規社員が多いため身分保障が低い	賃金に男女の格差がある	慣例や圧力がある	結婚や出産時に退職する	家事・育児・介護への家族の協力が不十分である	労働時間が長い	非正規社員の仕事が多い	能力を正當に評価されない	女性が働くことやその能力の認識が低い	昇進・昇格に男女で不公平	職場の人間関係がうまくいかない
全体	660	46.4	39.4	26.4	25.6	25.6	20.3	14.1	13.0	12.9	10.0	9.7		
性・年代別	男性計	281	44.1	38.1	29.2	26.3	23.8	14.2	15.7	15.3	11.0	12.5	7.8	
	18～29歳	24	25.0	29.2	12.5	41.7	29.2	25.0	4.2	8.3	8.3	20.8	20.8	
	30～39歳	35	54.3	28.6	17.1	25.7	8.6	22.9	14.3	5.7	11.4	17.1	5.7	
	40～49歳	46	47.8	30.4	23.9	19.6	28.3	10.9	13.0	21.7	4.3	8.7	10.9	
	50～59歳	49	46.9	40.8	38.8	34.7	26.5	14.3	22.4	16.3	8.2	4.1	4.1	
	60～69歳	71	50.7	39.4	31.0	22.5	29.6	14.1	18.3	16.9	16.9	11.3	5.6	
	70～79歳	54	31.5	50.0	38.9	24.1	16.7	5.6	13.0	16.7	13.0	18.5	5.6	
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	-	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	
	女性計	364	48.4	40.4	23.9	24.7	27.7	24.7	12.9	11.3	14.6	7.7	11.0	
	18～29歳	21	47.6	42.9	33.3	38.1	23.8	14.3	4.8	4.8	14.3	14.3	14.3	
	30～39歳	59	54.2	37.3	20.3	40.7	23.7	23.7	8.5	3.4	11.9	6.8	8.5	
	40～49歳	52	50.0	32.7	17.3	28.8	26.9	28.8	17.3	11.5	23.1	3.8	7.7	
	50～59歳	69	53.6	46.4	21.7	26.1	31.9	33.3	11.6	13.0	7.2	4.3	14.5	
	60～69歳	105	46.7	45.7	27.6	12.4	36.2	21.9	14.3	10.5	15.2	10.5	9.5	
70～79歳	58	37.9	32.8	25.9	20.7	13.8	20.7	15.5	20.7	17.2	8.6	13.8		
無回答	15	40.0	40.0	33.3	33.3	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	20.0	13.3		

(単位:%)

	サンプル数	茶補助的な業務が、多い（お）	向上が少ない業務に、多い（お）	女性にたいする教育、訓練の機会	その他	無回答
全体	660	5.5	3.9	0.5	6.4	
性・年代別	男性計	281	7.5	4.3	1.1	7.5
	18～29歳	24	12.5	-	4.2	12.5
	30～39歳	35	5.7	8.6	2.9	11.4
	40～49歳	46	4.3	2.2	2.2	10.9
	50～59歳	49	8.2	2.0	-	-
	60～69歳	71	7.0	5.6	-	4.2
	70～79歳	54	9.3	5.6	-	11.1
	男性年齢無回答	2	-	-	-	-
	女性計	364	4.1	3.8	-	5.5
	18～29歳	21	14.3	-	-	-
	30～39歳	59	1.7	1.7	-	1.7
	40～49歳	52	3.8	3.8	-	3.8
	50～59歳	69	4.3	5.8	-	-
	60～69歳	105	4.8	3.8	-	6.7
70～79歳	58	1.7	5.2	-	17.2	
無回答	15	-	-	-	6.7	

## 5. セクシュアル・ハラスメントやDVについて



## (1) セクシュアル・ハラスメントの経験

問 20. あなたはセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的嫌がらせ）について、受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。該当するものをいくつでも選んでください。

### ～セクシュアル・ハラスメントの実経験人数は 4.8%（32 人）～

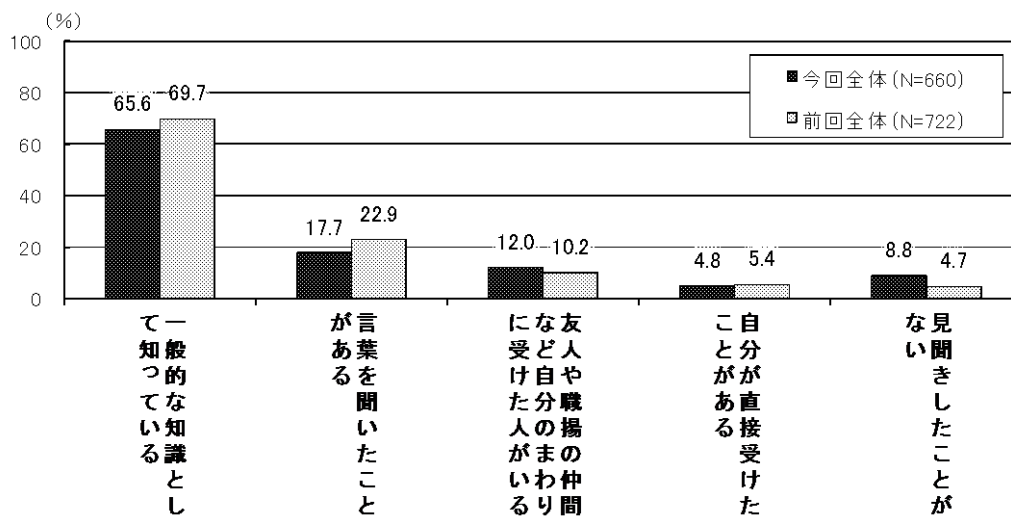
セクシュアル・ハラスメントを受けたり、見聞きしたりした経験などを尋ねたところ、「自分が直接受けたことがある」と回答した人が 4.8%、「友人や職場の仲間など自分のまわりに受けた人がいる」と回答した人が 12.0%と、本人もしくは友人などのセクハラ経験者が 1 割以上みられる。

前回の調査結果と比較すると、「友人や職場の仲間など自分のまわりに受けた人がいる」と答えた人はやや増加しているが、「自分が直接受けたことがある」は減少しており、全体としてはほぼ同様の傾向となっている。

性・年代別にみると、女性の場合「自分が直接受けたことがある」は各年代にわたり、中でも女性 30 歳代～50 歳代の経験者が最も多い。なお、男性でも「自分が直接受けたことがある」がみられる。

職業別にみると、一般事務職において「自分が直接受けたことがある」と答える人が多い。

<セクシュアル・ハラスメントの経験（図表 5-1）>



<セクシュアル・ハラスメントの経験（図表 5-2）>

（単位：％）

		サ ン プ ル 数	て一 般 的 な 知 識 と し て 知 っ て い る	言 葉 を 聞 い た こ と が あ る	自 分 の ま わ り に 受 け た 人 が い る	友 人 や 職 場 の 仲 間 な ど が 自 分 が 直 接 受 け た こ と が あ る	見 聞 き し た こ と が な い	無 回 答
今 回		660	65.6	17.7	12.0	4.8	8.8	5.8
性・ 年 代 別	男性計	281	66.5	15.7	9.3	1.1	11.4	6.8
	18～29歳	24	45.8	25.0	8.3	4.2	8.3	8.3
	30～39歳	35	77.1	2.9	5.7	2.9	8.6	2.9
	40～49歳	46	47.8	17.4	19.6	-	13.0	10.9
	50～59歳	49	77.6	6.1	6.1	-	10.2	2.0
	60～69歳	71	74.6	21.1	11.3	1.4	8.5	2.8
	70～79歳	54	64.8	20.4	3.7	-	16.7	14.8
	男性年齢無回答	2	50.0	-	-	-	50.0	-
	女性計	364	65.7	18.7	13.7	8.0	7.1	4.9
	18～29歳	21	76.2	19.0	14.3	4.8	4.8	-
	30～39歳	59	64.4	10.2	22.0	11.9	6.8	-
	40～49歳	52	63.5	7.7	21.2	11.5	3.8	1.9
	50～59歳	69	73.9	11.6	17.4	10.1	5.8	-
60～69歳	105	64.8	24.8	8.6	6.7	7.6	7.6	
70～79歳	58	56.9	34.5	3.4	1.7	12.1	15.5	
無回答	15	46.7	33.3	20.0	-	-	6.7	



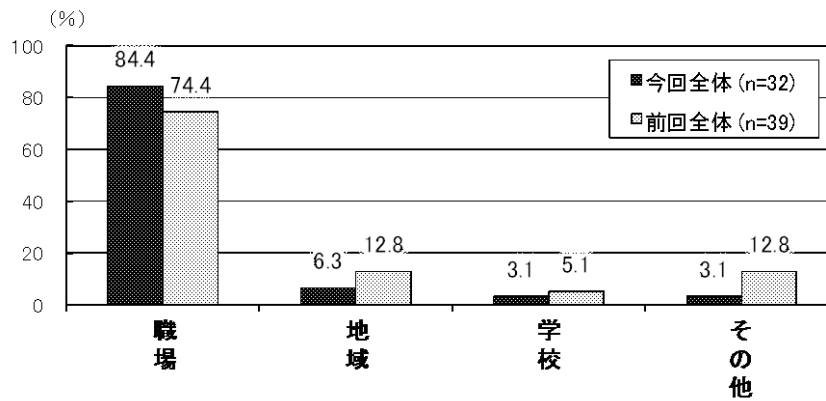
## (2) セクシュアル・ハラスメントを受けた場所

問 21. (問 20 で「1. 自分が直接受けたことがある」を選んだ方におたずねします。) セクシュアル・ハラスメント(セクハラ・性的嫌がらせ)を受けた場所はどこですか。該当するものをいくつでも選んでください。

### ～セクシュアル・ハラスメントは職場以外でもみられる～

セクシュアル・ハラスメントを受けた本人(32人)に経験場所を尋ねたところ、「職場」が84.4%(27人)で大部分を占めるものの、「地域」(6.3%<2人>)や、「学校」(3.1%<1人>)などでも、セクシュアル・ハラスメントが存在している。

<セクシュアル・ハラスメントを受けた場所(図表 5-3)>



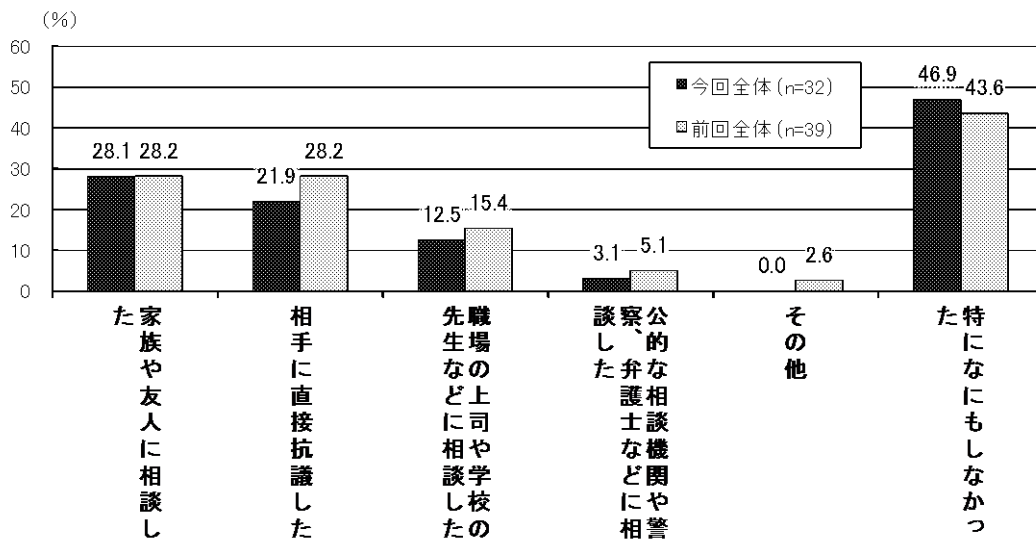
### (3) セクシュアル・ハラスメントを受けた後の対応

問 22. (問 20 で「1. 自分が直接受けたことがある」を選んだ方におたずねします。) その後、あなたはどのような行動をとりましたか。該当するものをいくつでも選んでください。

#### ～セクシュアル・ハラスメント経験者の4割強は「特に何もしなかった」～

セクシュアル・ハラスメントを受けた本人(32人)にその後の対応を尋ねたところ、「特に何もしなかった」が46.9%(15人)と4割以上を占め、最も多くなっている。また、何らかの行動を取った人では「家族や友人に相談した」が28.1%(9人)、「相手に直接抗議した」が21.9%(7人)、「職場の上司や学校の先生などに相談した」が12.5%(4人)などとなっている。

<セクシュアル・ハラスメントを受けた後の対応(図表 5-4)>



#### (4) DVを身近で見聞きしたり受けたりした経験

問 23. パートナー（夫婦・恋人）との間で、一方が他方から身体的・心理的な暴力を受けるということが問題視されていますが、あなたはパートナーからの暴力について身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。該当するものをいくつでも選んでください。

#### ～DVの実経験人数は 5.3% (35 人)～

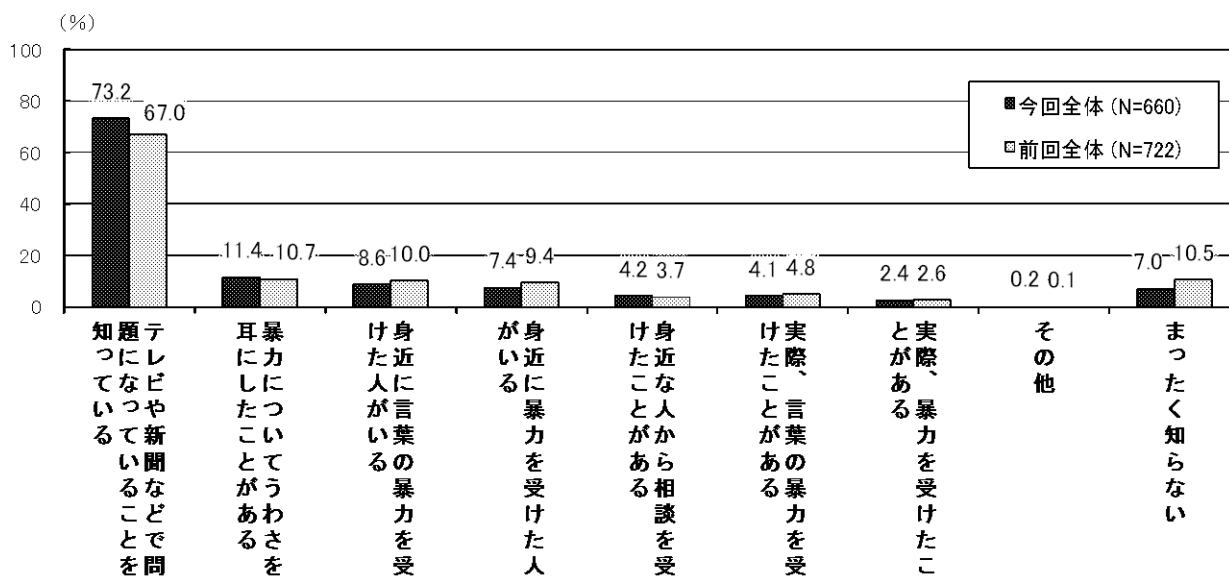
パートナーからの暴力（DV）について見聞きしたり、自分が受けたりした経験を尋ねたところ、「実際、暴力を受けたことがある」と回答した人が 2.4%、「実際、言葉の暴力を受けたことがある」と回答した人が 4.1%と、直接本人が言動でDVを受けた経験があるという人が 1 割弱みられる。

前回の調査結果と比較すると、全体的な傾向は変わらないものの、「暴力についてうわさを耳にしたことがある」、「身近な人から相談を受けたことがある」という人は増加している。

性・年代別にみると、女性の場合「自分が直接受けたことがある」、「実際、言葉の暴力を受けたことがある」と回答した人は各年代にわたっている。

職業別にみると、自営業主・家族従業者・自由業では「身近に言葉の暴力を受けた人がいる」、管理職及び専門・技術職では「暴力についてうわさを耳にしたことがある」、一般事務職では「身近に暴力を受けた人がいる」と答える人が多くみられる。

< DVを身近で見聞きしたり受けたりした経験 (図表 5-5) >



<DVを身近で見聞きしたり受けたりした経験（図表 5-6）>

（単位：％）

	サンプル数	テレビや新聞などで知っている	暴力についてうわさを耳にしたことがある	身近に言葉の暴力を受けた人がいる	身近に暴力を受けた人がいる	身近な人から相談を受けたことがある	実際、言葉の暴力を受けたことがある	実際、暴力を受けたことがある	その他	まったく知らない	無回答	
全体	660	73.2	11.4	8.6	7.4	4.2	4.1	2.4	0.2	7.0	6.2	
性・年代別	男性計	281	72.6	13.5	6.0	4.6	4.3	0.7	-	0.4	10.3	6.4
	18～29歳	24	54.2	8.3	12.5	12.5	8.3	-	-	-	20.8	8.3
	30～39歳	35	71.4	14.3	-	5.7	2.9	2.9	-	2.9	11.4	-
	40～49歳	46	78.3	10.9	6.5	4.3	4.3	-	-	-	2.2	6.5
	50～59歳	49	71.4	10.2	12.2	6.1	8.2	2.0	-	-	8.2	6.1
	60～69歳	71	83.1	15.5	4.2	4.2	2.8	-	-	-	8.5	2.8
	70～79歳	54	64.8	18.5	3.7	-	1.9	-	-	-	14.8	14.8
	男性年齢無回答	2	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	女性計	364	73.4	9.9	10.7	9.6	4.1	6.6	4.4	-	4.7	5.8
	18～29歳	21	71.4	14.3	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	-	9.5	-
	30～39歳	59	72.9	6.8	8.5	22.0	5.1	3.4	3.4	-	8.5	3.4
	40～49歳	52	78.8	13.5	17.3	19.2	7.7	5.8	5.8	-	3.8	-
	50～59歳	69	76.8	10.1	8.7	4.3	4.3	5.8	5.8	-	5.8	1.4
60～69歳	105	68.6	9.5	13.3	7.6	2.9	8.6	4.8	-	3.8	9.5	
70～79歳	58	74.1	8.6	6.9	-	1.7	8.6	1.7	-	-	13.8	
無回答	15	80.0	6.7	6.7	6.7	6.7	6.7	-	-	-	13.3	
職業別	自営業主・家族従業者・自由業	48	75.0	10.4	14.6	10.4	6.3	4.2	2.1	-	2.1	4.2
	管理職	32	75.0	18.8	9.4	6.3	-	3.1	-	-	3.1	3.1
	専門・技術職	110	76.4	17.3	7.3	9.1	3.6	2.7	1.8	0.9	8.2	2.7
	一般事務職	53	75.5	9.4	11.3	17.0	7.5	5.7	5.7	-	7.5	1.9
	労務職	49	75.5	6.1	6.1	10.2	10.2	2.0	-	-	10.2	4.1
	専業主婦・主夫	158	71.5	8.2	12.0	7.0	5.1	5.1	3.8	-	4.4	8.9
	学生・無職・その他	193	70.5	11.9	5.7	3.1	2.1	4.1	2.1	-	9.8	8.3
	無回答	17	76.5	5.9	-	5.9	-	5.9	-	-	-	11.8

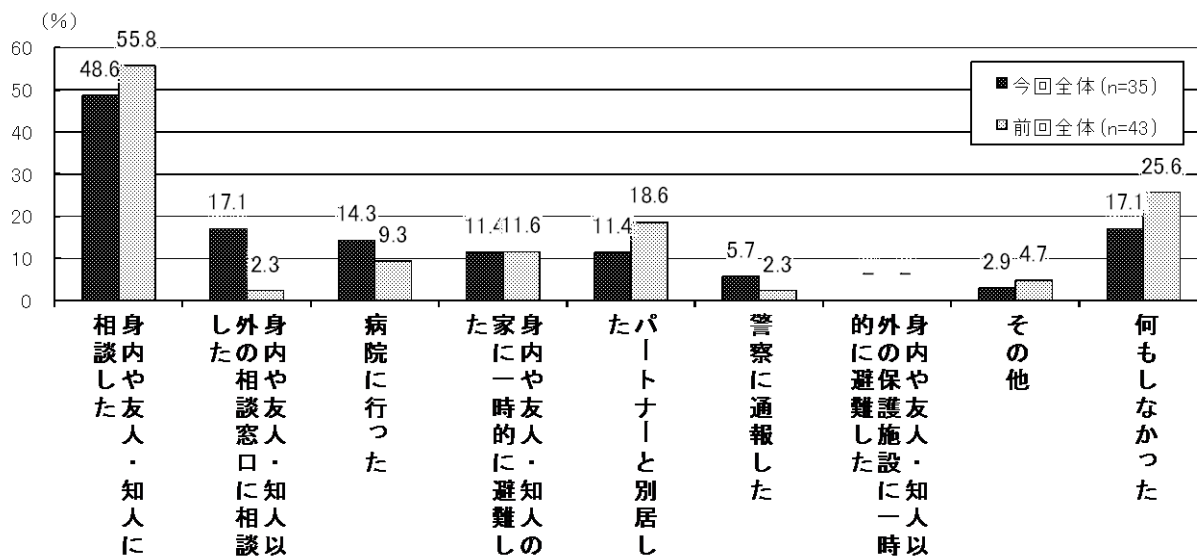
## (5) DVを受けた後の対応

問 24. (問 23 で「3. 実際、暴力を受けたことがある」または「4. 実際、言葉の暴力を受けたことがある」を選んだ方におたずねします。) 暴力を受けた後、あなたはどのように対応しましたか。該当するものをいくつでも選んでください。

### ～DV経験者の約5人に1人は「何もしなかった」～

本人がDVを受けた経験がある人(35人)にその後の対応を尋ねたところ、「身内や友人・知人に相談した」が48.6%(17人)で最も多く、次いで「身内や友人・知人以外の相談窓口に相談した」が17.1%(6人)、「病院に行った」が14.3%(5人)などとなっている。「特になにもしなかった」と回答した人は17.1%(6人)であった。

<暴力を受けた後の対応(図表5-7)>



## (6) 女性に対する暴力をなくすための方策

問 25. あなたは女性に対する暴力（性犯罪・売買春・パートナーからの暴力・セクハラなど）をなくすためにはどのようにすればよいと思いますか。該当するものをいくつでも選んでください。

### ～「相談窓口」、「加害者の処分」などの要望が上位を占める～

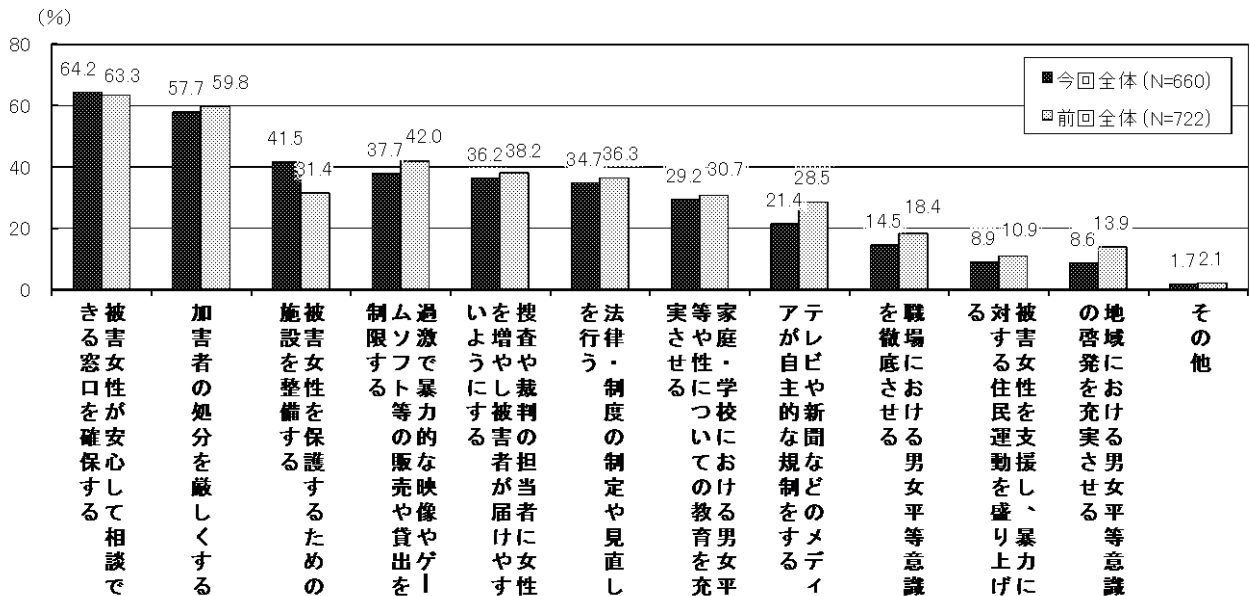
女性に対する暴力をなくすための方策を尋ねたところ、「被害女性が安心して相談できる窓口を確保する」が64.2%で最も高く、次いで「加害者の処分を厳しくする」（57.7%）、「被害女性を保護するための施設を整備する」（41.5%）などとなっている。

前回の調査結果と比較すると、全体的な傾向は変わらないものの、「被害女性を保護するための施設を整備する」という要望が大きく増加している。

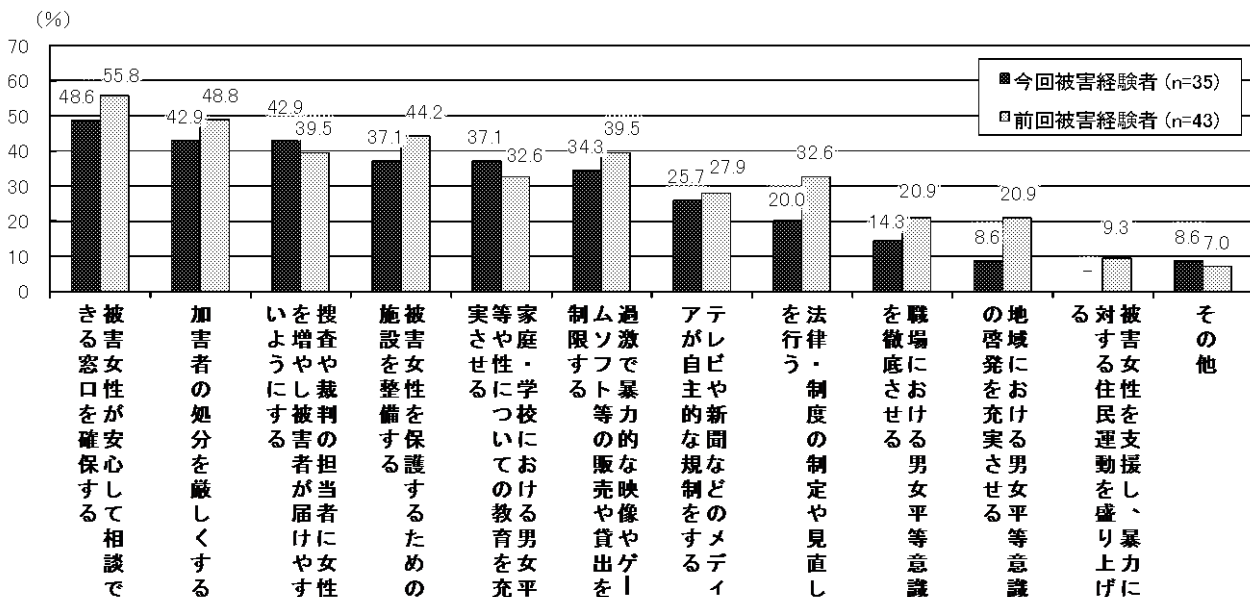
性・年代別にみると、男女とも40歳代以下は「加害者の処分を厳しくする」という回答が最も多くなっている。

なお、被害経験者の場合、「被害女性を保護するための施設を整備する」が高く、次いで「加害者の処分を厳しくする」、「捜査や裁判の担当者に女性を増やし被害者が届けやすいようにする」の順にあがっている。

<女性に対する暴力をなくすための方策（図表 5-8）>



<女性に対する暴力をなくすための方策（被害経験者）（図表 5-9）>



＜女性に対する暴力をなくすための方策（図表 5-10）＞

（単位：％）

	サンプル数	被害女性ができる窓口を安心して相談できる	被害者の処分を厳しくする	被害女性を保護するための施設を整備する	ゲームソフト等の映像や貸出を制限する	過度に暴力的な映像やゲームソフト等の販売や貸出を制限する	捜査や裁判の担当者に女性を増やし被害者が届けやすいようにする	法律・制度の制定や見直しを行う	平等や性に関する教育を充実させる	家庭・学校における男女教育を充実させる	テレビや新聞などの規制を定める	職場における男女平等意識を徹底させる	被害女性に対する住民運動を盛り上げる	地域における男女平等意識の啓発を充実させる	その他	無回答
今回全体	660	64.2	57.7	41.5	37.7	36.2	34.7	29.2	21.4	14.5	8.9	8.6	1.7	5.3		
性・年代別	男性計	281	60.5	55.5	34.9	33.5	32.7	35.6	29.2	20.3	15.7	8.2	8.9	0.7	5.3	
	18～29歳	24	29.2	62.5	33.3	12.5	45.8	29.2	20.8	12.5	25.0	12.5	12.5	4.2	4.2	
	30～39歳	35	42.9	62.9	20.0	14.3	34.3	45.7	20.0	14.3	17.1	-	5.7	-	2.9	
	40～49歳	46	50.0	56.5	34.8	23.9	26.1	43.5	21.7	26.1	8.7	10.9	8.7	2.2	4.3	
	50～59歳	49	67.3	53.1	46.9	30.6	40.8	32.7	32.7	22.4	12.2	8.2	8.2	-	6.1	
	60～69歳	71	70.4	54.9	38.0	47.9	22.5	35.2	31.0	22.5	18.3	8.5	8.5	-	5.6	
	70～79歳	54	75.9	50.0	29.6	46.3	37.0	27.8	38.9	16.7	14.8	9.3	9.3	-	7.4	
	男性年齢無回答	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	50.0	-	-	
	女性計	364	67.6	59.1	46.7	41.2	38.5	33.5	29.4	22.5	13.7	9.3	8.5	2.5	5.2	
	18～29歳	21	57.1	76.2	33.3	14.3	47.6	28.6	28.6	4.8	14.3	4.8	4.8	-	-	
	30～39歳	59	62.7	74.6	40.7	40.7	40.7	42.4	22.0	13.6	6.8	6.8	3.4	6.8	5.1	
	40～49歳	52	65.4	69.2	65.4	42.3	46.2	46.2	26.9	32.7	17.3	17.3	17.3	-	-	
	50～59歳	69	78.3	59.4	47.8	47.8	49.3	27.5	34.8	21.7	17.4	11.6	8.7	5.8	2.9	
	60～69歳	105	71.4	51.4	49.5	43.8	31.4	31.4	26.7	22.9	10.5	6.7	6.7	1.0	6.7	
70～79歳	58	58.6	41.4	34.5	37.9	25.9	25.9	37.9	29.3	19.0	8.6	10.3	-	12.1		
無回答	15	53.3	66.7	40.0	33.3	46.7	46.7	26.7	13.3	13.3	13.3	6.7	-	6.7		

---



## 6. 男女共同参画関連施策などについて



(1) 岡垣町男女共同参画条例制定の認知状況

問 26. あなたは岡垣町が男女の人権の尊重などの6つの基本理念を基にした、「岡垣町男女共同参画条例～ともに支えあい、ともに輝く、まちづくり条例～」を制定していることを知っていますか。1つだけ選んでください。

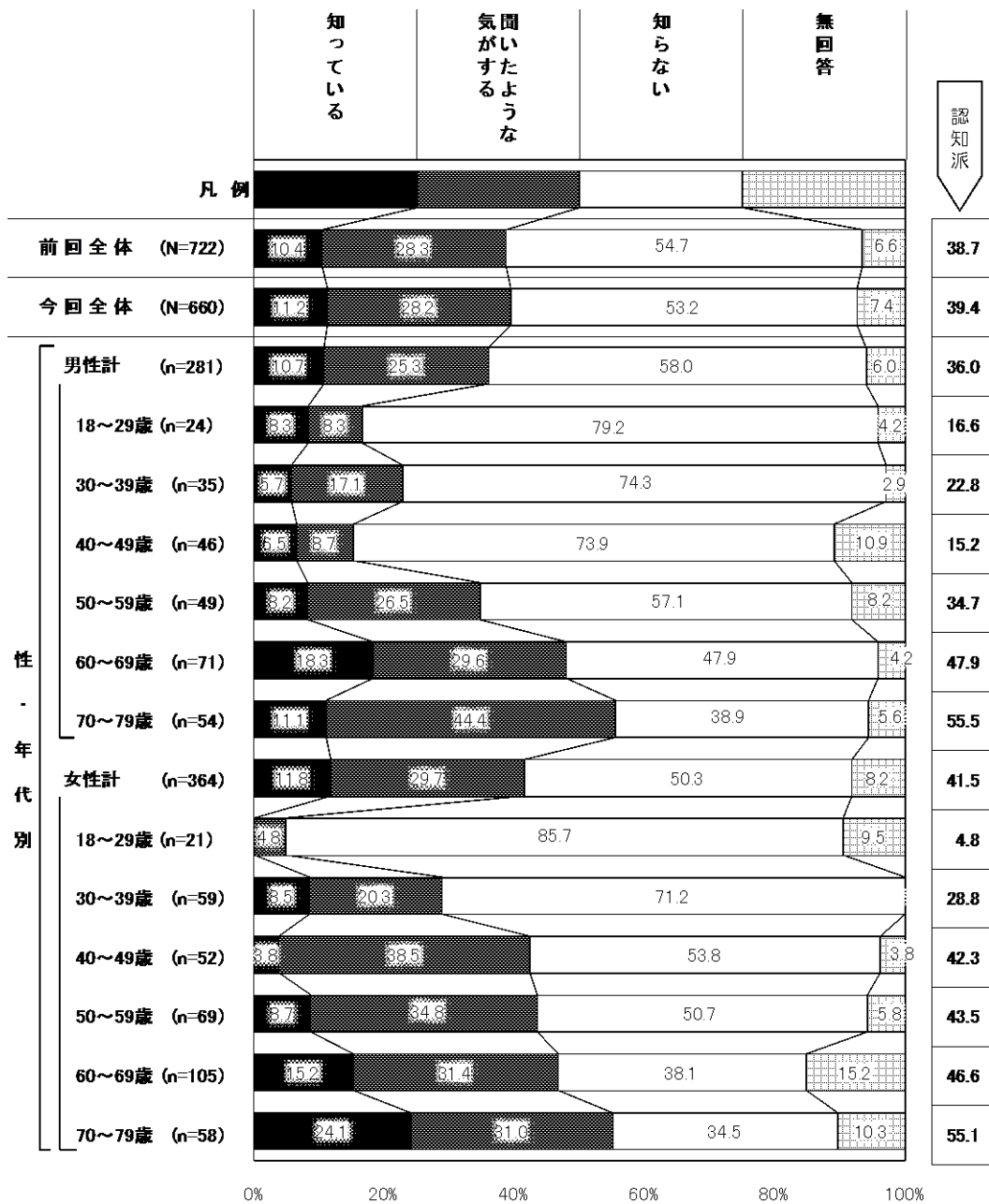
**～岡垣町男女共同参画条例の『認知派』は約4割～**

岡垣町男女共同参画条例の認知状況をみると、「知っている」(11.2%)は1割強と低く、「聞いたような気がする」(28.2%)を合わせた『認知状況』でも4割弱にとどまっており、「知らない」(53.2%)と回答した人が半数以上みられる。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

性・年代別でみると、女性が男性に比べ『認知状況』は高く、男女とも年齢があがるにつれその傾向が高くなっている。

<岡垣町男女共同参画条例制定の認知状況 (図表 6-1) >



※【認知派】=「知っている」、「聞いたような気がする」の合計

## (2) 岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況

問 27. あなたは岡垣町が実施している以下の事業を知っていますか。また、参加（利用）したことはありますか。（ア）～（カ）の認知状況、参加（利用）状況のそれぞれについて、1 つだけ選んでください。

### ～各事業の認知率は高まっているが、参加（利用）率は数パーセント～

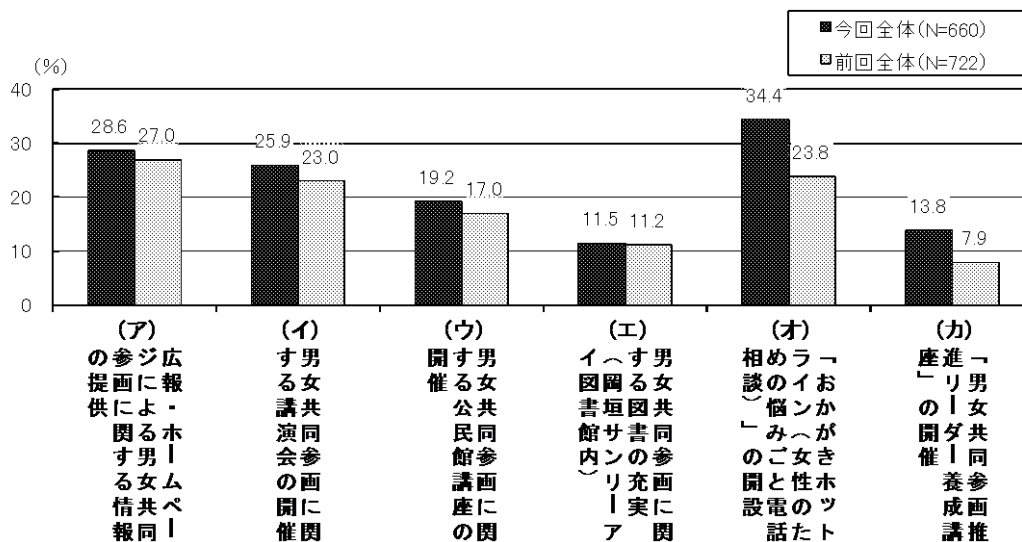
岡垣町が実施している男女共同参画に関する事業の認知状況をみると、「おかがきホットラインの開設」が34.4%で最も高く、以下、「広報・HPによる男女共同参画に関する情報の提供」（28.6%）、「男女共同参画に関する講演会の開催」（25.9%）、「男女共同参画に関する公民館講座の開催」（19.2%）と続いている。「男女共同参画推進リーダー養成講座・女性懇話会の開催」（13.8%）、「男女共同参画に関する図書の実充」（11.5%）についての認知率は、1割程度にとどまっている。

前回の調査結果と比較すると、すべての事業とも認知率は高くなっており、中でも「おかがきホットラインの開設」の認知率は10ポイント以上増加している。

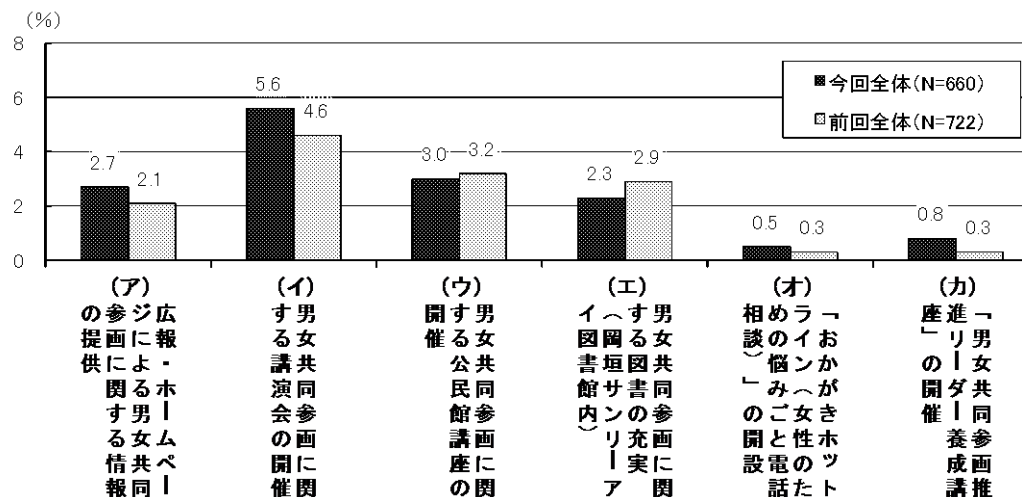
一方、岡垣町が実施している男女共同参画に関する事業の参加（利用）状況をみると、「男女共同参画に関する講演会」（5.6%）、「男女共同参画に関する公民館講座」（3.0%）、「広報・HPによる男女共同参画に関する情報」（2.7%）、「男女共同参画に関する図書」（2.3%）、「男女共同参画推進リーダー養成講座・女性懇話会」（0.8%）、「おかがきホットライン」（0.5%）となっており、すべての事業とも参加（利用率）は1割にも満たない。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

<岡垣町が実施している事業の認知状況（図表 6-2）>



<岡垣町が実施している事業の参加（利用）状況（図表 6-3）>



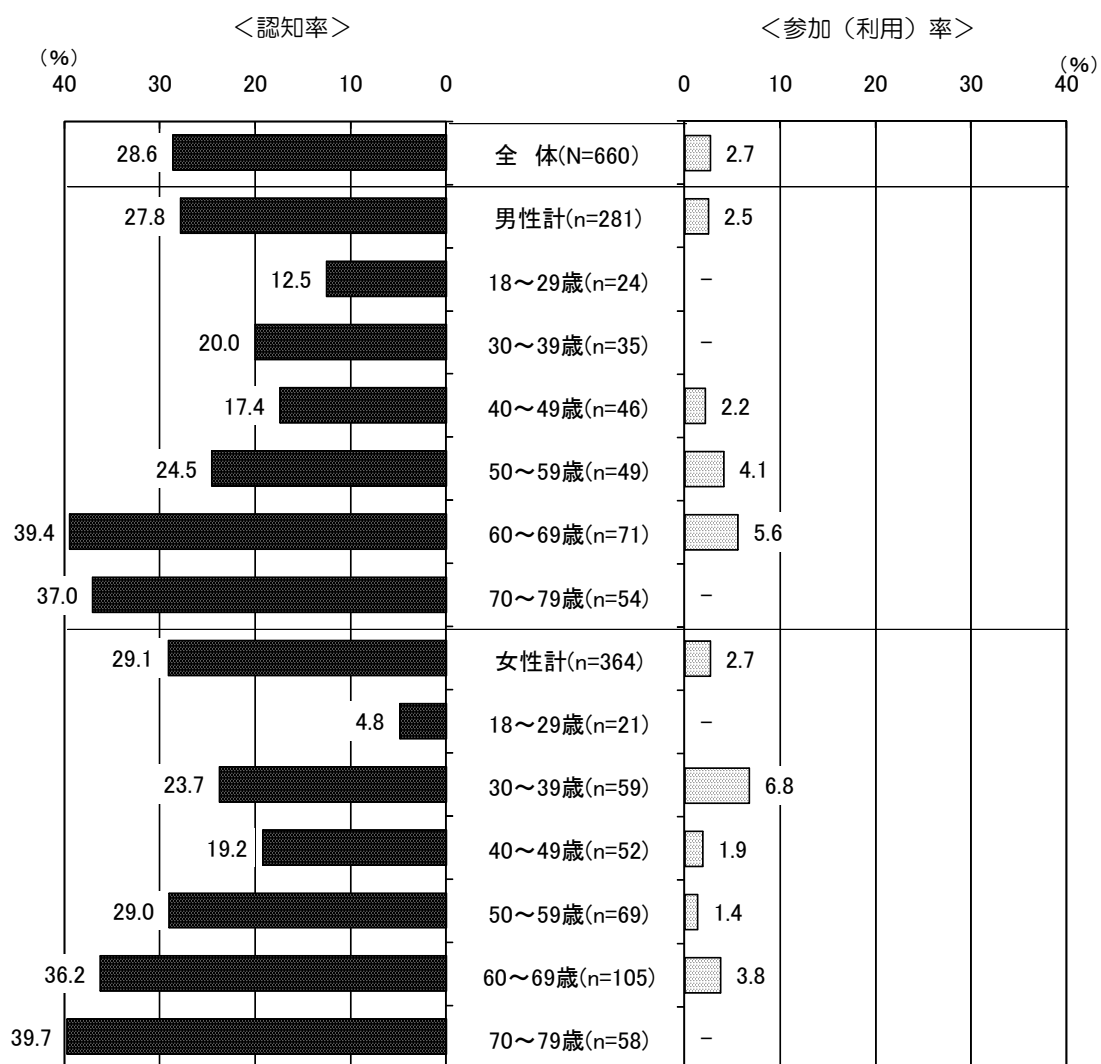
ア. 広報・ホームページによる男女共同参画に関する情報の提供

**～認知率は3割弱を占めるが、利用率は数パーセント～**

「広報・ホームページによる男女共同参画に関する情報の提供」に対する認知率は28.6%、参加（利用）率は2.7%であり、認知者に占める参加（利用）率は9.5%となっている。  
 性・年代別にみると、男女とも年齢が上がるほど認知率は高くものの、参加（利用）率は極めて低い。

＜岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-4）＞

ア. 広報・ホームページによる男女共同参画に関する情報の提供



イ. 男女共同参画に関する講演会の開催

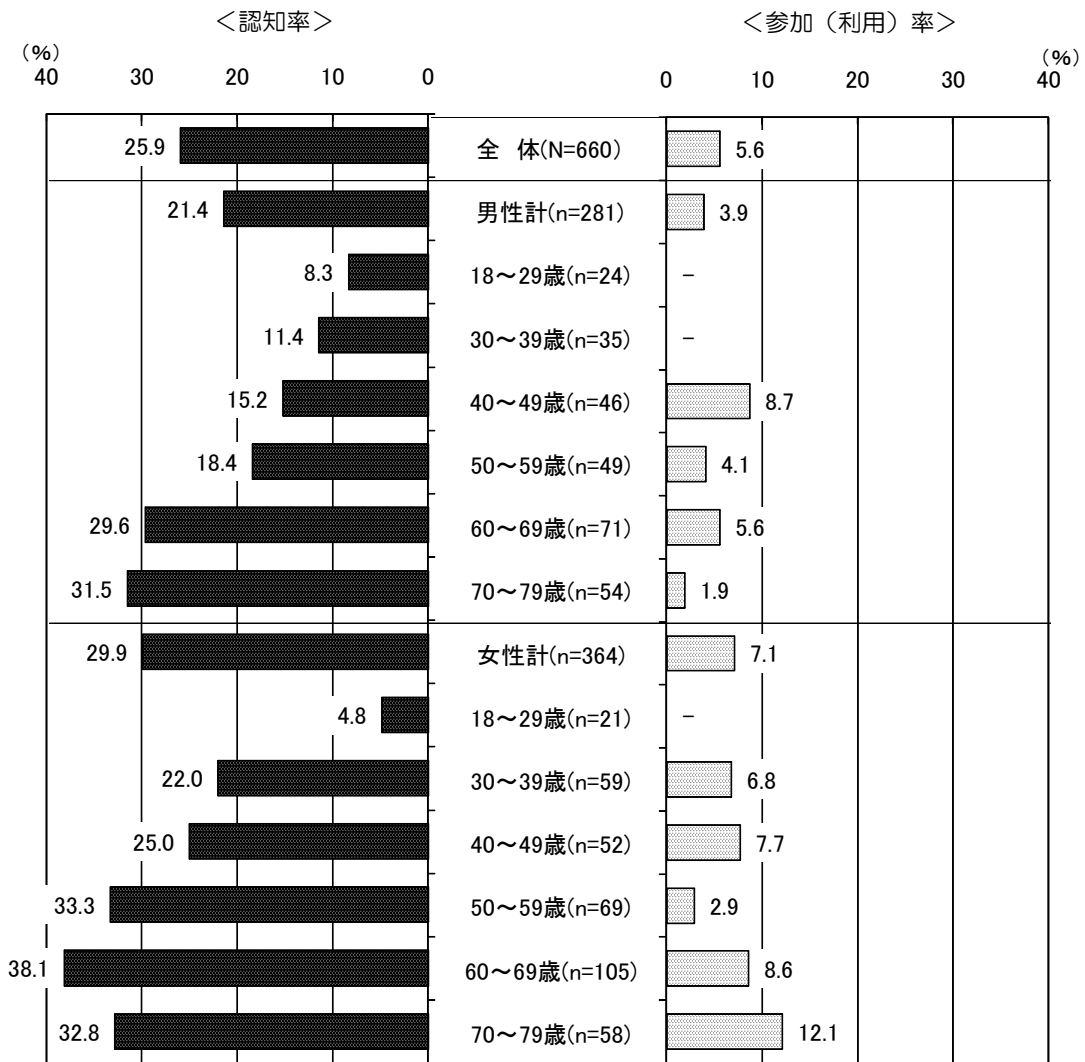
**～認知率は2割強を占めるが、参加率は数パーセント～**

「男女共同参画に関する講演会の開催」に対する認知率は25.9%、参加（利用）率は5.6%であり、認知者に占める参加（利用）率は21.6%となっている。

性・年代別にみると、男女とも年齢が上がるほど認知率は高く、女性70～79歳の参加（利用）率は12.1%となっている。

＜岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-5）＞

イ. 男女共同参画に関する講演会の開催



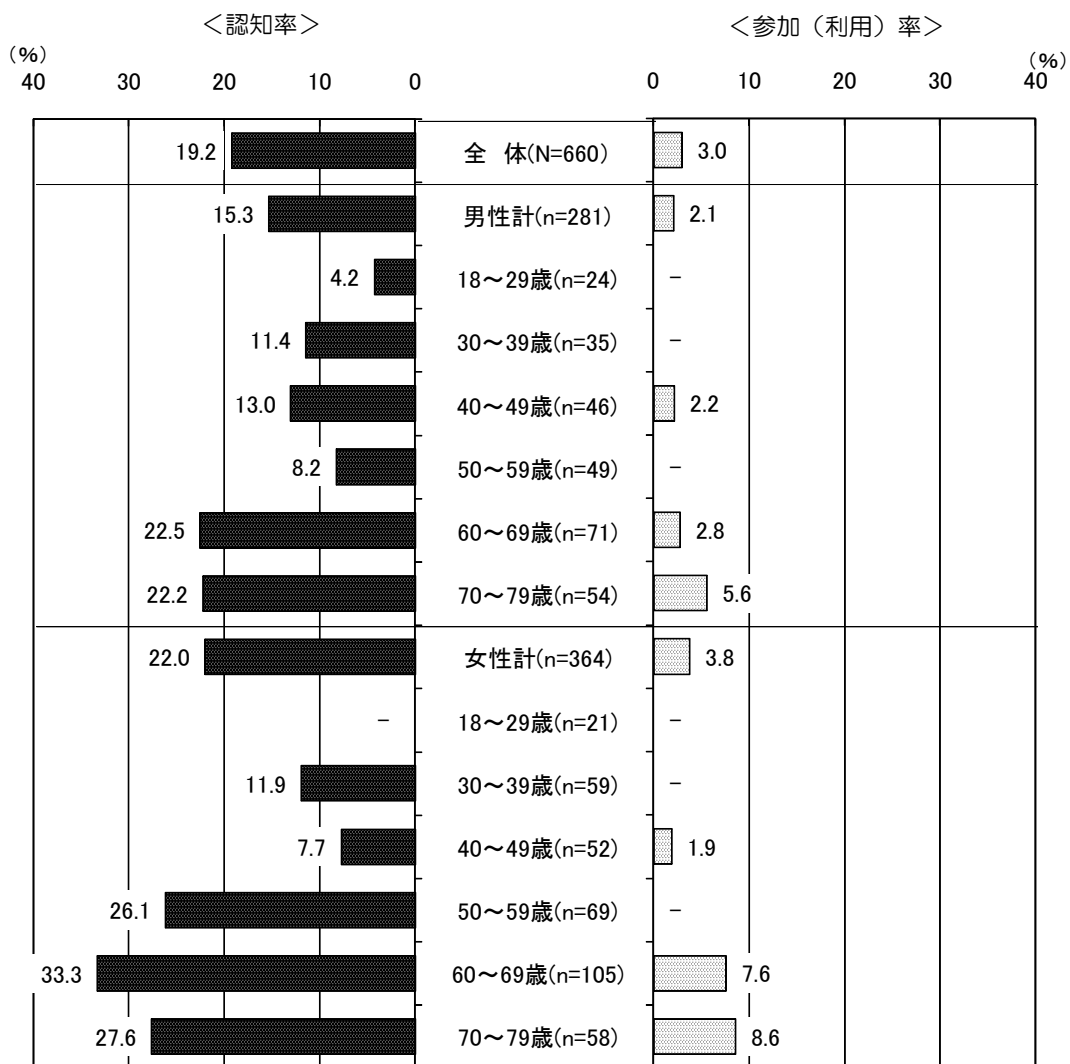
ウ. 男女共同参画に関する公民館講座の開催

**～認知率は約 2 割を占めるが、参加率は数パーセント～**

「男女共同参画に関する公民館講座の開催」に対する認知率は 19.2%、参加（利用）率は 3.0%であり、認知者に占める参加（利用）率は 15.7%となっている。  
 性・年代別にみると、男女とも年齢が上がるほど認知率は高く、どの年代とも参加（利用）率は極めて低い。

＜岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-6）＞

ウ. 男女共同参画に関する公民館講座の開催



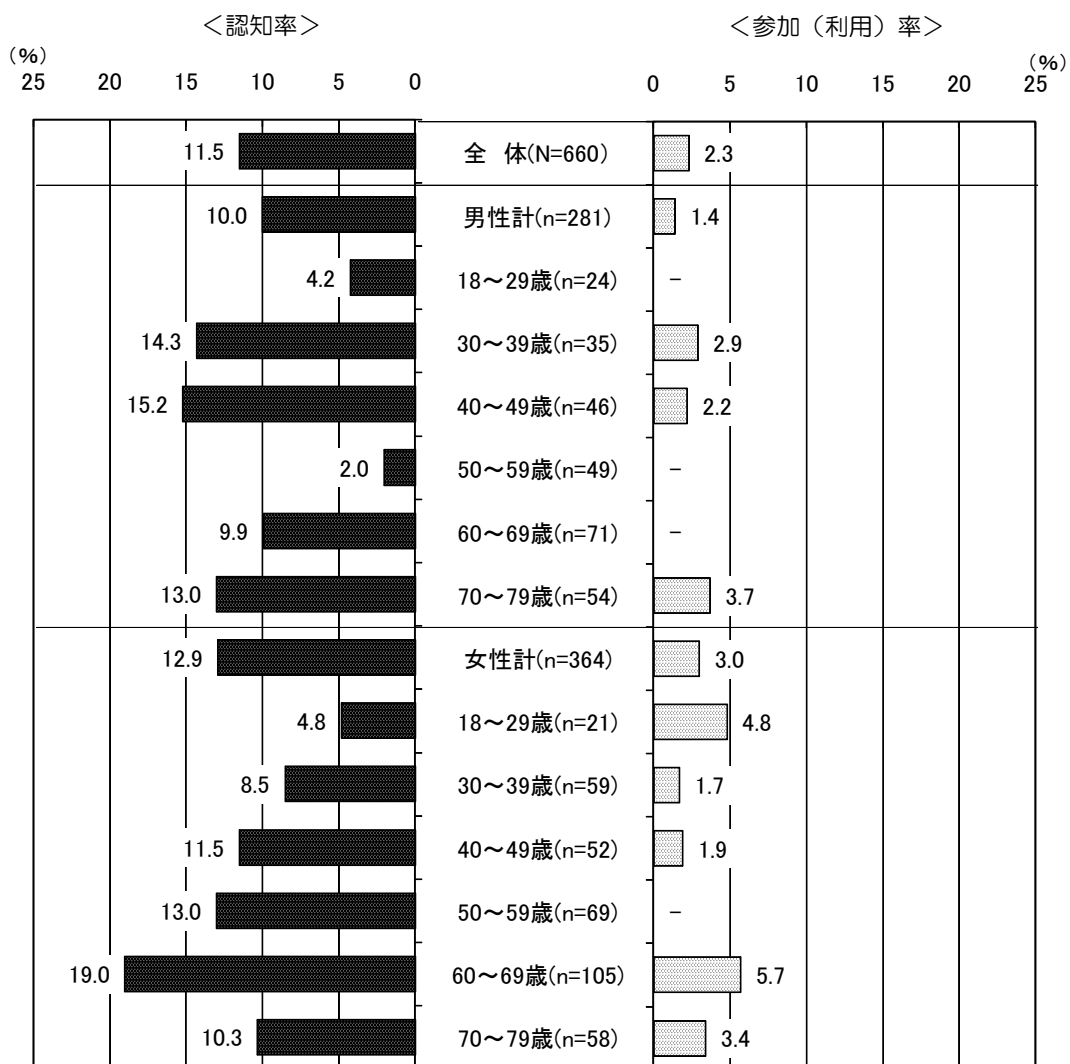
エ. 男女共同参画に関する図書の充実（岡垣サンリーアイ図書館内）

**～認知率は1割にとどまり、参加率は数パーセント～**

「男女共同参画に関する図書の充実」に対する認知率は11.5%、参加（利用）率は2.3%であり、認知者に占める参加（利用）率は19.7%となっている。  
 性・年代別にみると、男女全体での認知率はほぼ同様であり、どの年代とも参加（利用）率は極めて低い。

＜岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-7）＞

エ. 男女共同参画に関する図書の充実（岡垣サンリーアイ図書館内）



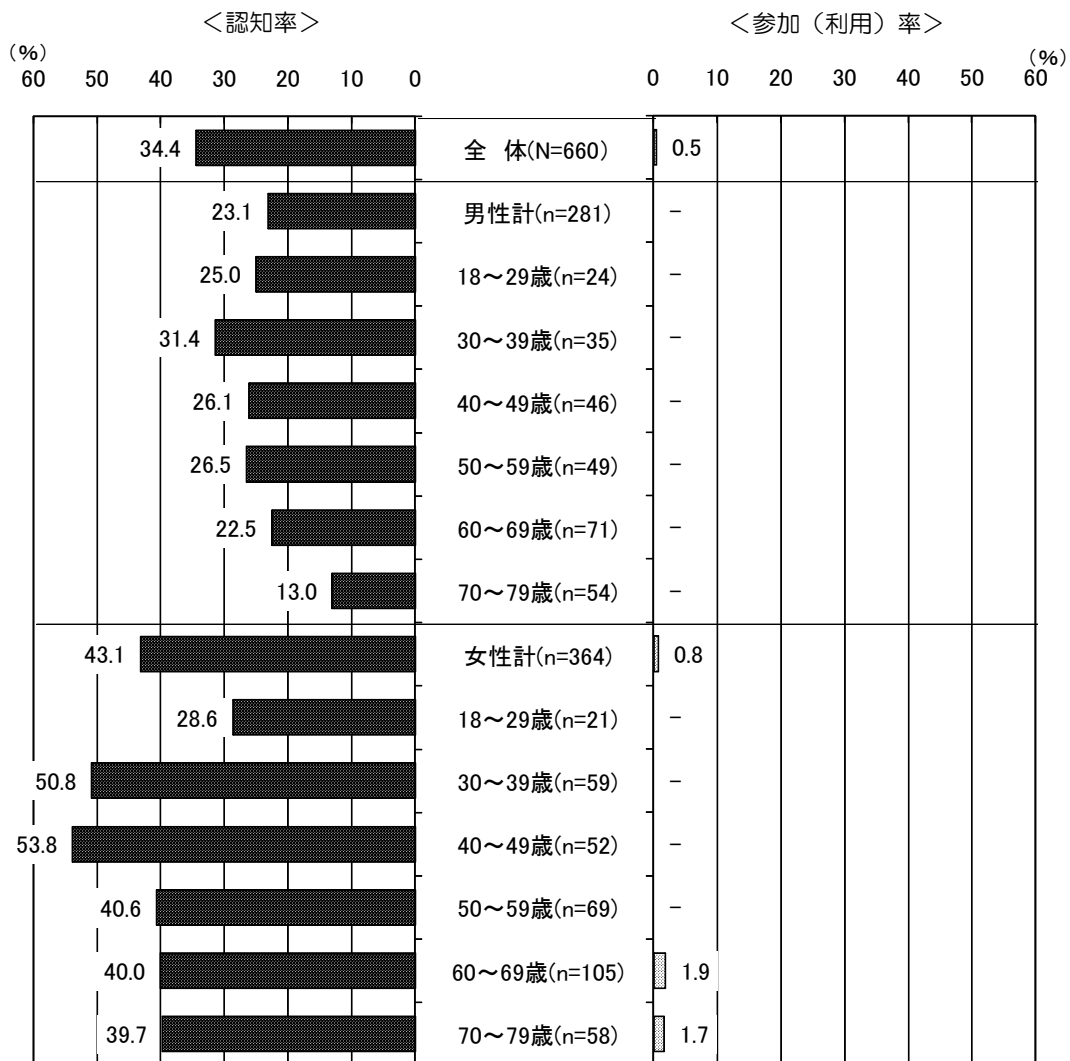


オ.「おかがきホットライン（女性のための悩みごと電話相談）」の開設

**～認知率は3割強を占めるが、参加率はほぼ皆無～**

「おかがきホットラインの開設」に対する認知率は34.4%を占めるものの、参加（利用）率はきわめて低くなっている。  
 性・年代別にみると、女性30歳代～女性40歳代の認知率は5割を占める。

＜岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-8）＞  
 オ.「おかがきホットライン（女性のための悩みごと電話相談）」の開設



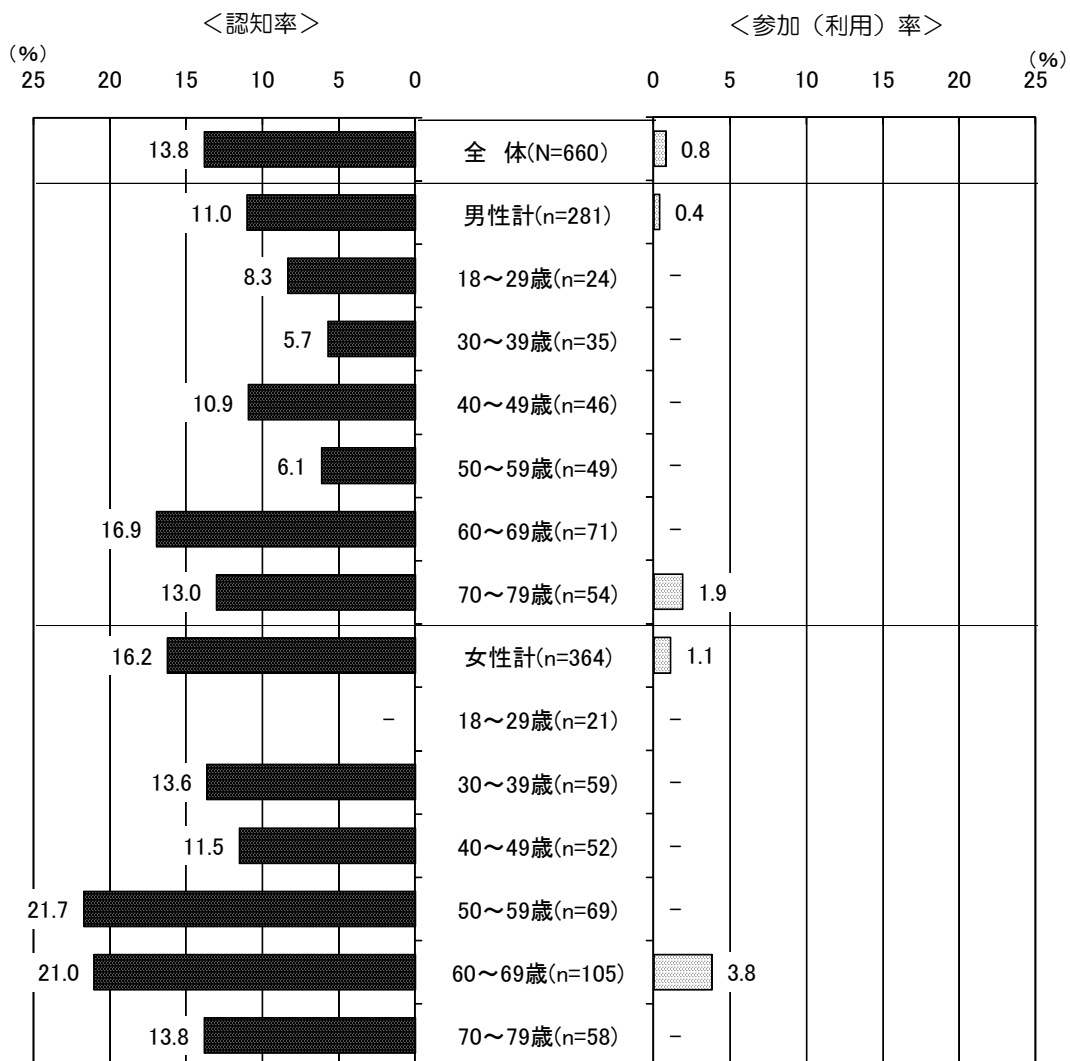
カ. 「男女共同参画推進リーダー養成講座」の開催

**～認知率は1割程度にとどまり、参加率はほぼ皆無～**

「男女共同参画推進リーダー養成講座・女性懇話会の開催」に対する認知率は13.8%であるが、参加（利用）率はきわめて低くなっている。  
 性・年代別にみると、男女全体での認知率はほぼ同様であり、どの年代とも参加（利用）率は極めて低い。

<岡垣町が実施している事業の認知・参加（利用）状況（図表 6-9）>

カ. 「男女共同参画推進リーダー養成講座」の開催



### (3) 男女の意見を平等に施策へ反映させていくために一番重要なこと

問 28. 男女の意見を平等に施策へ反映させていくために、何が一番重要だと思われますか。1つだけ選んでください。

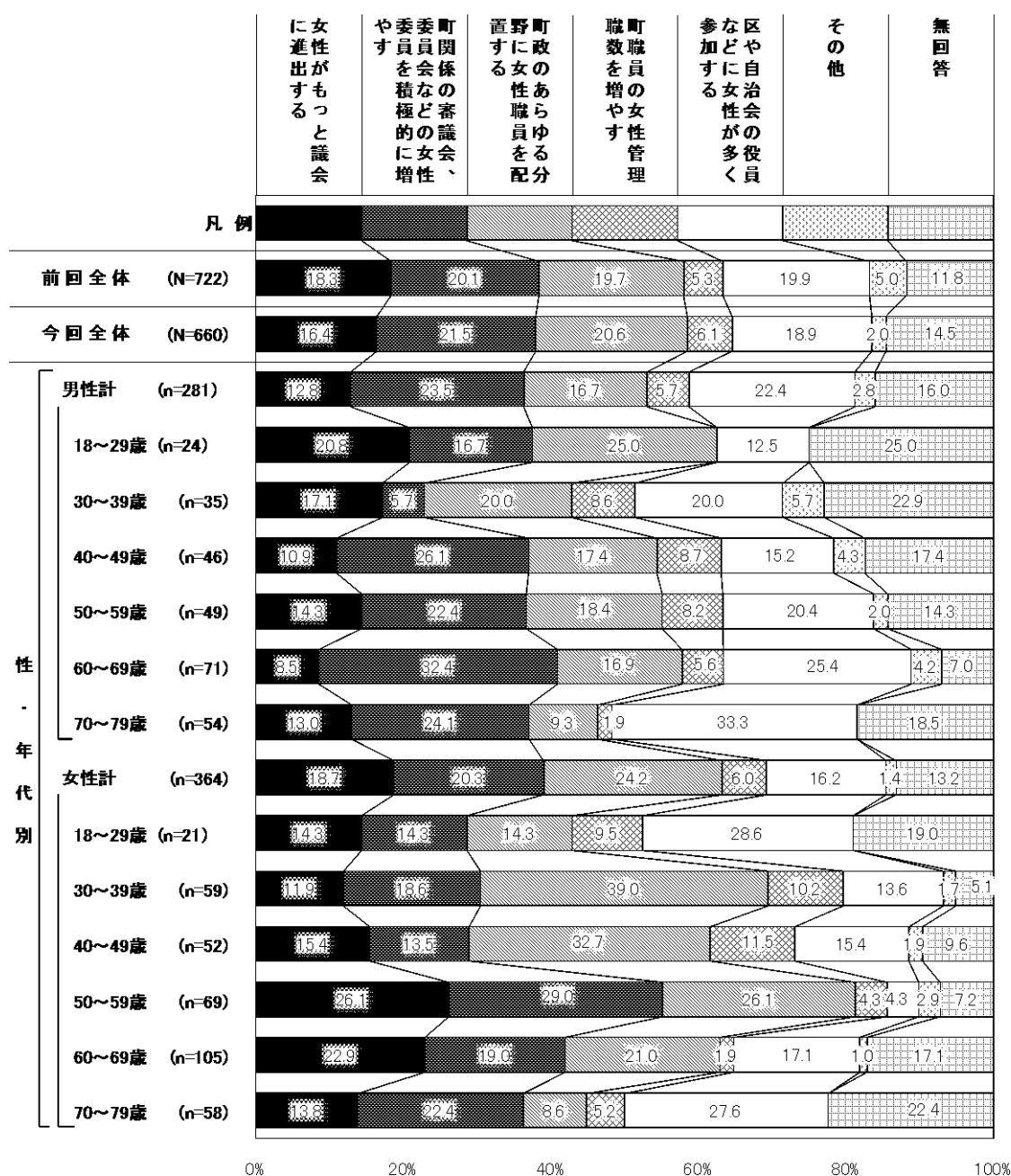
～「女性委員の増員」など、回答内容が多岐にわたる～

町政に男女の意見を平等に反映させていくための方策を尋ねたところ、「町関係の審議会、委員会などの女性委員を積極的に増やす」(20.1%)、「区や自治会の役員などに女性がよく参加する」(19.9%)、「町政のあらゆる分野に女性職員を配置する」(19.7%)、「女性がもっと議会に進出する」(18.3%)など、回答内容がかなり分散している。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

性・年代別に見ると、男女全体ではほぼ同様の回答傾向を示しているが、女性30～39歳と女性40～49歳では「町政のあらゆる分野に女性職員を配置する」という回答傾向が強い。

<男女の意見を平等に施策へ反映させていくために一番重要なこと (図表 6-10) >



#### (4) 男女共同参画をより一層推進するための方策

問 29. あなたは男女共同参画をより一層進めるために、町に対してどのような施策を望みますか。3つまで選んでください。

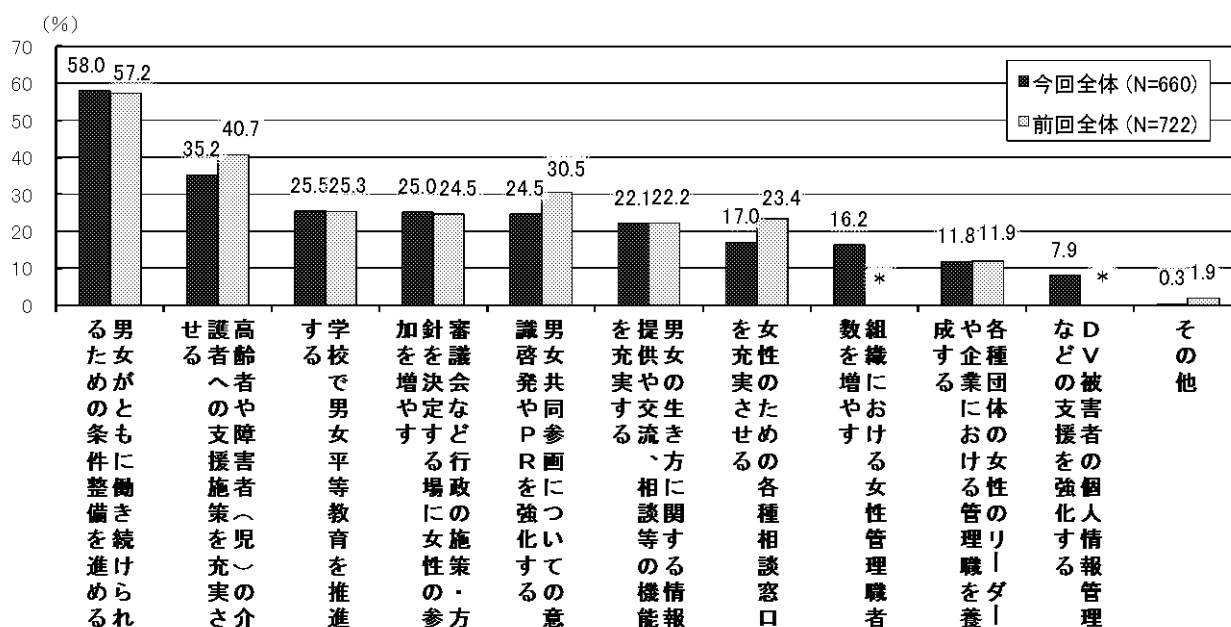
##### ～「男女がともに働き続けるための条件整備」が要望内容の第1位～

男女共同参画を推進するために町に対して望む施策を尋ねたところ、「男女がともに働き続けられるための条件整備を進める」が58.0%で最も高く、以下、「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援策を充実させる」（35.2%）、「学校で男女平等教育を推進する」（25.5%）、「審議会など行政の施策・方針を決定する場に女性の参加を増やす」（25.0%）、「男女共同参画についての意識啓発やPRを強化する」（24.5%）と続いている。

前回の調査結果と比較すると、今回の調査結果とほぼ同様の傾向である。

性・年代別にみると、男女とも「男女がともに働き続けられるための条件整備を進める」と回答する人が最も多いものの、男性は女性に比べ「男女共同参画についての意識啓発やPRを強化する」、女性は男性に比べ「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援策を充実させる」の割合が高くなっている。また、男女とも70～79歳では「高齢者や障がい者（児）の介護者への支援策を充実させる」と答える人が最も多い。

<男女共同参画を推進するための方策（図表 6-11）>



＜男女共同参画を推進するための方策（図表 6-12）＞

（単位：％）

	サンプル数	めれる男女がとも の条件整備を 進	高年齢者や障 害者への支 援策（児） の充	学校で男女平 等教育を推 進	方針を決定す る行政の場 に女性・	審議会など の強化す	意識啓発や PRを強化 す	男女共同参 画に関する 情報提供や 交流、相談 等の情	男女の生き 方に関する 相談窓	女性のため の各種相 談窓	組織におけ る女性管理 職	各種団体の 女性リ ー	DV被害者 の個人情 報管	その他	無 回 答
全 体	660	58.0	35.2	25.5	25.0	24.5	22.1	17.0	16.2	11.8	7.9	0.3	7.6		
性・年代別	男性計	281	50.9	30.2	28.1	29.9	29.5	23.5	14.6	16.4	11.7	9.3	0.4	8.2	
	18～29歳	24	41.7	20.8	25.0	29.2	16.7	37.5	12.5	25.0	8.3	12.5	4.2	-	
	30～39歳	35	74.3	42.9	28.6	14.3	31.4	5.7	14.3	8.6	-	20.0	-	8.6	
	40～49歳	46	45.7	23.9	21.7	23.9	17.4	28.3	15.2	21.7	8.7	8.7	-	10.9	
	50～59歳	49	57.1	16.3	26.5	24.5	24.5	30.6	20.4	16.3	18.4	6.1	-	8.2	
	60～69歳	71	49.3	26.8	35.2	39.4	33.8	15.5	21.1	14.1	12.7	11.3	-	9.9	
	70～79歳	54	40.7	46.3	27.8	37.0	42.6	29.6	1.9	16.7	16.7	1.9	-	7.4	
	男性年齢無回答	2	50.0	100.0	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	
	女性計	364	63.7	38.5	23.4	22.0	20.3	20.9	19.2	16.2	11.5	6.6	0.3	7.1	
	18～29歳	21	57.1	19.0	38.1	9.5	19.0	23.8	14.3	23.8	23.8	9.5	-	4.8	
	30～39歳	59	81.4	22.0	15.3	28.8	3.4	18.6	18.6	28.8	22.0	5.1	1.7	-	
	40～49歳	52	78.8	38.5	30.8	19.2	11.5	17.3	28.8	19.2	7.7	9.6	-	1.9	
	50～59歳	69	62.3	46.4	24.6	29.0	23.2	23.2	24.6	13.0	5.8	8.7	-	5.8	
	60～69歳	105	59.0	39.0	23.8	20.0	29.5	19.0	15.2	10.5	9.5	4.8	-	11.4	
70～79歳	58	44.8	51.7	17.2	17.2	25.9	25.9	13.8	12.1	10.3	5.2	-	13.8		
無回答	15	53.3	46.7	26.7	6.7	33.3	26.7	6.7	13.3	20.0	13.3	-	6.7		

## (5) 男女共同参画社会の実現に向けた意見・要望

問 30. 岡垣町では、男女共同参画社会の実現に向けた取組みを進めるにあたり、男女共同参画実行計画の見直しを進めていますが、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。

性別	年齢	内容
男 性	18・19歳	国から自治体への男女共同参画に関する条例改正・施策の指導を鵜呑みにするのではなく、視点を変え視野を広げることが重要だと思います。このようなアンケートもその一例であると思います。実現を成功させた他の自治体の施策を参考にし取り入れたり、国外の男女の社会進出が活発な国（オランダなど）の制度を同じく導入したりすることもよい方法ではないでしょうか。また、ちょっとした条例の改正では実現につながりにくいということは、この国の多くの自治体の失敗例を考えればわかります。思い切って可能な限りの予算を男女共同参画社会実現計画に配当し、岡垣町の共同参画社会の実現を成功させ、よき日本の見本となってください。
	20～24歳	女性の権利を主張する風潮になった昨今ですが、私は必ずしも女性の方が立場が弱いとは思いません。現代社会において女性が差別を受けるということを、私の身の回りではそこまで感じません。逆に夫が家事をするのは当たり前のことであるという主張者（夫の職場が激務だったらどうするのですか？）や、今や大卒の女性ですら専業主婦志向が増えていることを踏まえていただいて議論していただきたいです。物事は何でも一辺倒の考えだけではダメだと思います。
	30～34歳	アンケート、質問、選択肢のレベルが低いような気がする。意識調査をするならもう少し煮詰めてほしい。アンケートで男女平等の問があるのに、選択肢は女性寄りのものが多い。総じて本アンケートに問題あり、改善が必要。
	35～39歳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女共同参画社会の実現のためには、社会的常識を持った女性を積極的に計画の管理職に置くべきだと思います。</li> <li>・「男女が機会均等な社会」とありますが、男性は男性にしかできない、女性は女性にしかできない事もある。人間の本能（父性や母性）にはそれぞれの役割があり、大事なことです。共稼ぎの家庭が、特に女性が、子育てをやりやすく地域で助け合う町にしてもらいたいと願います。</li> <li>・病児保育の、町からの支援・補助を願います。</li> </ul>
		計画自体の存在を知らなかったので、広報をもっと周知できるように工夫すれば活性化していくと思う。
		この言葉自体知らなかった。このような活動、取組みへの意識調査が必要ということで、関心が高いのだと初めて知った。自分を含め、個々の意識を高めることが優先だと思う。まずは家庭から職場から、身近な所からの意識改革が必要だ。
	40～44歳	女性を始めとした社会的弱者に対する支援がより必要だと感じています。特に会社に対する働きかけが不十分だと思います。サービス残業や低賃金での労働が、より女性の機会均等を悪化させる要因ではないでしょうか。保育施設の増設など、女性が働きやすい社会的環境、女性がより労働できる環境を整えていくべき。逆に女性が働ける時間にのみ働いてもらい、育児に対する周囲の理解を少しずつ増してもらおうようにし、女性の立場を考えてもらうきっかけ作りをしてはどうか。
		企業の意識を変えられたら良いと思います。
	45～49歳	もっと、セクハラ、モラハラ等の内容をみんなが周知することから始めなければいけない。そうすれば、おのずと男女共同参画の取組みも成果を出せると思う。
	50～54歳	問28、問29で、「男女共同参画＝女性の管理職等への登用」との選択肢が既に間違っている。特別扱いするのではなく自然と参画できるように考えるべきでは。
	55～59歳	少子高齢化がますます強まる今後のわが国で、男女共同参画社会は必須と思われます。岡垣町で住民のニーズに合致した実効的な制度を確立し、運用していただきたいです。まずは女性の意見を多く取り入れるため、女性の管理職を増やしてはどうでしょうか。
	65～69歳	PR活動の充実を図ってほしい。
		どんな制度を作ってもお金がかかり過ぎてはうまくいかないの、色々な制度が安く受けられることが大切だと思います。お金がかかり過ぎてはどうしても仕事中心に考えなければならない。そうすると結局何も参加できないのではないかと思います。
人間何人であろうとも全て「平等」という考え方が家庭、社会に広がるのが最も重要。		
私を含め中高年の人は古い考えの人がまだまだ多いようです。もっと若い人たちが取組みに参加してもらいたいです。		
男と女は根本的に異なる生き物です。男らしい男性や女らしい女性は大好きです。男性は男性が得意とする分野で能力を発揮し、女性は女性が得意とする分野で能力を発揮し、夫婦が互いに協力することで、幸せな家庭や充実した社会ができるとおもいます。最も男っぽい女性（能力的にです）は、どんどん男性の分野に進出して頑張ってもらいたいです。		
各区会の会議に積極的に町からの推進担当者等が出席し、意識を高める活動を常に行うことが必要だと思う。		

性別	年齢	内容
男性	65～69歳	少子化が続く日本は人口減少が確実に進むので、男女を問わず皆が持つ能力を十分に発揮し社会に貢献できる環境を整える必要があり、そうでなければ豊かで安心、安全な社会の維持は難しくなると思います。この問題で重要なのは、幼児期、少年期の教育であると考えており、おおよそ義務教育までの期間に規範意識と社会に貢献する基礎的な能力を育成することが大切です。就学前は幼児の養育と生活のしつけに重要な時期で、そのために子を持った夫婦の一方が一時期職を離れて子育てに専念することもあって良いでしょう。もっともその後の復職が不利にならないように仕組みを整えておくことは必要条件です。また義務教育の期間は、男女はもちろん皆が平等で、それぞれの能力に応じて社会的な役割を果たしていくとの意識を身に付けさせ、折に触れできればカリキュラム化して教える必要があります。女性の社会進出を更に進めたいため、そのことを多少協調する内容にすることになると思います。これらは時間がかかり、やや回りくどいやり方ですが、より確かにあるべき状態に近づくことができると思うので、重点的に取り組んでいただきたい。現状は、男性側に責任がある一方、責任ある立場に就くことを避ける女性がまだいるので、行政や教育などの職場で女性を積極的に登用し立派に活躍する姿をより一層、特に子どもたちに見えるかたちにすることも必要だと思えます。
		女性が家事に専念することに偏見があるように感じる。人間は太古の昔から、基本的には男性は狩りに出て女性は子どもを守る役割を作った。逆になってもよいと考えますが、なぜ、男女が同じ役割に固執するのでしょうか。
		男女共同参画事業の趣旨には賛同はできるが、子どもを出産後2ヶ月くらいで保育園等に預けて、子どもとの触れ合いの時間も短く、母親の愛情が受けられていないケースが見かけられる。父親から受ける愛情と母親では違うと思っている。現在の若い女性は母親から家事（料理、掃除、洗濯等）を教わっていないため家事のできない者も多く、子どもへの愛情の注ぎ方、善悪のしつけ方も知らず、学校等へ人任せになっている。よって子どもが非行に走っても注意できず、いじめや犯罪を行っても善悪が分かっていない。昔は子どもが学校から帰った時、祖父母がお帰りなさいと迎えていたが、今は核家族で鍵っ子のため不満を持っていると思われる。せめて子どもが小3位までは母親が家に居るべきと思慮する。なお、仕事もせず無職の男性が多く、DV等の行為を起こしていると思われる。世の中も乱れている。
		町での男女共同参画の知識、実態について今まで全く興味がなかったので知らない事ばかり。今は女性の時代になったから、良いことだと思います。
	宮内町長以下、幹部の意識向上の一層の努力を願う。	
	70～74歳	条例のスローガンはすばらしいと思う。具体的にまず何を、事案をどうしたか。課・係の講演会の開催のみでなく、見えるものがほしい。
		女性の活動参加は家族の協力（家事、育児、介護等）がなければならない。催しの内容が魅力（興味）があるものでなければならない。もし好評であれば口コミで輪が広がり参加者も増えると思う。家族の協力＜催しの内容
		男女平等、男女共同参画の意識は皆持っている。徐々に改善されていくであろう。あわてることはない。
		まだまだ女性に対する人権が尊重されていない。
	女性	20～24歳
30～34歳		「女性が被害者面して」などと勘違いをされないように進めて頂きたいです。町民として素直に女性の活動を喜ぶことができるような下地を作ってください。
		渥美由喜さん、小室淑恵さんなど、現在第一線で活動している方をよんで講演してほしい。
		女性が、出産・育児で一時的に職を退くのは当たり前だと思っている。継続して働ける男性が優遇されるのは当たり前。女性と男性は身体づくりからして違うのに、平等ではないと思う。ただ、DVは許されないと思うので、何かしらの対策はあってしかるべき。
		女性が出産するとなるとどうしても仕事を辞めるという選択になってしまう。子育てが落ち着いて子育て中に資格を取得しても経験がないと言われて就職活動を行ってもなかなか採用されない。子どもが急病の時や保育所からの電話で早退せざるを得ないことを面接で伝えると、まず採用されない。子育てをしながら正社員として働きたくても、子どもの病気の時の預け先がないのでパートでしか働けない。病気の時にサポートしてくれる施設をぜひ岡垣町には充実させてもらいたい。子育てしやすい町づくり、親が働きやすい環境づくりをしてほしい。子どもをたくさん産んでも安心して暮らせる町であってほしいです。3人子育てしていますが、病気をすると仕事も休まないといけなくて、なかなか思うように働きません。他の町が岡垣町を手本にしたいと思うような子育て支援をしてほしい。そうすると、女性も同じように働くことができます。
そもそも男女では身体づくりからして違うので、むやみに男女平等をふりかざすのではなく、男女の違いを理解した上での取組みを期待します。男性は男性の、女性は女性の役割をきちんと果たせる町になってほしいと思います。		

性別	年齢	内容
女性	30～34歳	私は結婚を機に東京より岡垣町へ来ましたが、男性・女性共に、男は外で働き、女は家を守るという意識がとても強い。女性が家を守り、しっかり家事・育児をこなす事を美徳とする女性が多く、社会進出、職場復帰等、職に就くということへの意欲が感じられない。子どものおむつ替えをしないと自慢気に話す若い男性がいることにも驚いた。女性の管理職を増やすことももちろん大切なことだが、職場における社員の配置や仕事内容に差別が根強く残っていることは、地方・都市部に限らず働く上でぶつかる壁である。その第一の壁をなくすことがまず先決で、管理職を急に増やしても失敗する。男性と女性、同じスタートラインに立ててこそ話ができるわけで、そこから働く意欲をどう生み出していくかは現代の男女共通の課題である。子育てのバックアップ、仕事内容等の差別をなくす、給与面の見直し、女性自身の意識を変える、男性の子育てへの参加等。
	35～39歳	「女性のための～」とか「女性のために～」と、女性が社会に出やすくなるのはとても良いことですが、制度化することで逆に女性が苦しい思いをすることも出てくると思う。自然の男女の性の違いも受け入れて、男女がうまく地域社会をつくっていきける計画にしていってほしいです。
		男女平等はもちろんですが、男性ならではの、または女性ならではの物の見え方や考え方があるのではないのでしょうか。2年くらい前でしたが、つわりのつらさ等、男性には体験できないせいか社内では理解されず、男性上司から病気ではないのだからと出勤するように言われた人がいます。男女の違いを知り、認め合い、何かあった時はお互いに助け合える柔軟さが必要だと思います。理想論かもしれませんが…。
		若い人が参加しやすい場がもっとあったらいいと思う。
	40～44歳	私は、今、社会福祉の勉強をしており、住み良い町づくりにこれから少しずつでも参加し、サポートしていきたいと思っています。私の力は微力ですが、その力が集まれば大きなものになると思います。まずは、パートナー、家族、友だち、そして近隣の人々との関係を大切にす、支え合うことが大切なことだと思います。
		今の取組みでどのようなことをしたいのかよくわかりません。男女の役割は違うところもあるので、平等だけを唱っても仕方ないと思います。男女それぞれに困っていることも違うと思うので、女性のための相談だけでなく男性の悩みを聞くことで女性の問題も減ると思います。また、女性が仕事を持つか持たないかも個人の問題であるので、どちらが良いかを問うても仕方がないのでは？どのような状況にも対応できるような形を取るべきだと思います。
		子どもが5歳の時に仕事復帰し、幸い、子育てにも理解のあるとても恵まれた職場で働いていますが、それでも実家の存在がなければとても難しかったと感じています。子どもが病気の際（例えばインフルエンザ、おたふくなど）、1日2日ならば休むことが可能でも、それ以上はとて無理です。難しい問題ですが、実家が頼れない若いお母さんが働く気が起こるような状況が必要だと思います。あと、個人的にはよく税金の控除内で働きたいために給料を制限するというのを聞きます。その上限を上げると（例えば103万円を150万円に）各家庭の総収入が少し上がるのではと思います。
		自分自身、夫が何事にも協力的で、家庭環境において特に男女平等という考えがあまり頭に浮かぶことはないのですが、社会に目を向けますと、一昔前に比べるとかなり男女平等の意識が根付いてきたように思いますが、やはり理想と現実の開きはまだまだある様に思います。結婚や出産で退いた女性の再就職支援や情報の充実等。また、学童保育の夏休み等、長期休暇のみの利用可能など。普段は子どもの帰宅時には帰宅できるけれど、長期休暇になると子どもだけの留守番になってしまうことを思うと、なかなか勤めに出る踏ん切りがつかないのでは。
		そもそも「男だから」「女だから」という理由で社会運営を区別すること自体がおかしいと思っています。1人の人間として、出来る人、やりたい人がやれる事をしていけば良いのでは？それが理想です。なかなかそううまくはいかないのが現状ですが…。
		町内の行事内容等も長年の年功序列の考えがある。こんな状態では若い世代は入りこめない。全ての事において若手の考えや意見を取り入れ、町全体を変えないとますます活気のない町になっていくと思う。古き良きものは残しつつ常に新しいことを取り入れるべきだ。そうすることにより老若男女全てにおいて参加しやすくなると思う。政治家のように権力ばかりふるわれても誰も何も興味は持たない。
45～49歳	子どもの頃から学校や家庭での男女平等の教育を充実させることが大事だと思います。	
50～54歳	男性と女性とは、生物学的差があるので、あまり平等平等と言ってもできること、できないことがある。意味はわかるが、職場の仕事内容によっては女性が中心で、男手が必要な時は頼んだりしている。全く平等ではないと思うので、やっきになってする必要はないと思う。ただ、女性は知識を得るように努力するべきではある。また、教育を充実させる方が良いと思う。小さい時から家庭では男の子にも家事をさせ、偏見を持たないように育てるようにしている。	
	社会においてまだまだ男女差別があるので少しずつ減らしていけばいいと思います。	



性別	年齢	内容
女性	50～54歳	男女の差があるのはあたりまえで、それぞれに助け合えれば一番だと思うのですが、仕事はできてやはり育児や家事は女性で、時間をとられます。それが幸福なばかりではないのに世間では当然とされる親世代の考えをまず変えられないと、しぼりがきついです。保育施設が充実し時には息抜きできるそんな世間であれば仕事もやりやすくなるのですが、現実は大変です。シニア世代のお手伝いが役場の指導のもとにできればよいのかも。おばあちゃんシステムはいいような気がします。それとシェルターが必要だと思います。昔のかけこみ寺みたいな場所があちこちにあれば救われる人も多くなるのではと思います。お寺や神社、介護施設の利用はできないものでしょうか。良い考えはないのですが、そう思っています。
		問27の（ア）について。広報紙はきちんと読んでいますが、印象に残っていません。「何か役所が行っている事業なんだ」程度で、一般の人には関係ないと思っている人が多いのではないのでしょうか。
		最近、料理男子とかイクメンとって、料理や育児に積極的に関わる男性が多くなってきているそうです。学生時代、家庭科が楽しかったから全く苦に感じていないようです。学校教育の重要性を実感しています。
		役場の住民票などを受け取る窓口で若い女の人たちが何人もいて、後ろで男性がふんぞり返っている状態を見ると、「男女共同参画って？」と思います。
	55～59歳	世の中の流れというだけで無理に不要な役職を増やすことは全体に対する悪影響だと思います。議会に女性を増やすのであれば、現議員の何割かを割り振る等、工夫をしていただきたいと思います。女性を尊重する以上、男性も同等に尊重すべきだと思いますので、女性の社会進出を推進するのであれば、全体の雇用状況や条件、勤務時間の見直しが必要であり、男女すべてに適応すべきだと思います。今回のアンケートは女性のために他に条件をおしつけようとしているように思いました。適材適所です。
		計画の見直しについては賛成ですが、設問によってはアンケートの結果を特定の方向へ導いてしまう危険を感じました。
		男女共同参画を進めるとしても、個人個人が意識して自分も参加しようと思わないとだめだと思います。共同参画の学習する場所がわからなかったり、自分が学習の場所に参加して場違いにならないかなと思っている人が多いのではないのでしょうか。
	60～64歳	男女の扱いが平等であることには賛成ですが、女性は生理など体調に変化が出やすいので、全てを平等にするのは良くないのかなと思います。特に体力面など。むしろ女性をサポート・フォローするような社会になると、女性としては嬉しく思います。精神論として男女平等教育を進めていくといいかもしれません。
		地域には、特に高齢な男性ほど男尊女卑の意識が根強く残っている気がします。そのような方が地域の主な役を担っていらっしやって、なかなか慣習が変えられないような雰囲気もあります。意識改革はまず地域の意識一新からだと考えます。
		・情報プラザは作らなくてもよかったのでは？あまり利用されていない。 ・町営住宅をたくさん造り、若い人が集まるように、また働けるように。 ・保育所も増やしてほしい。
		8年前に北九州市より移住してきました。自由時間も公民館のボランティアに参加してみようとしたが、私のように外から移住した人のことは全く配慮されておらず、地元の人たちが取り仕切り自己紹介もなく進んでいくのに驚き、止めました。もう少し若い人や外から来た人が参加しやすいように考えてもらいたいと思います。
	65～69歳	今まで男女共同参画等に関心はなかったが、これを機会に少し関心を持った。時間のゆとりもできてきたので、参加していきたいと思う。
		こちらに越して来てまだ浅いので、男女共同参画の件は存じませんでした。（ともに支えあい、ともに輝く、まちづくり条例～）、施策へ反映させていくために何が一番重要か、これから私も少しずつ勉強させて頂きたいと思います。ということで、あまり参考にならなくてすみません。
		社会、家庭両面からの意識改革を更に進めると共に、男女共同参画の場を拡充する。例えば、家庭生活では従来より女性の仕事とされてきた料理（食事）、洗濯、掃除等、できる所から徐々に。一部でも男性も共にするかが当たり前というような状況が更に生まれるとよいのでは。子どもであっても、現役世代、退職世代、今でいう老々介護の世代であっても、自立の面から健康維持の面から男女共に担っていくという、共に支え合う社会を目指す前向きな考えが広まっていけばと思います。まずは身近なところから。
	65～69歳	男女関係なく能力のある人が自分の今の立場で頑張っていけば、周りの人も協力するし成果もついてくると思う。
この調査をもって少しは男女共同参画を認識しました。		
65～69歳	女性の社会進出を進めるためには、家庭環境が重要。結婚後もその能力を発揮させるため、男性の意識を変える。共に創る社会の重要な一員として女性を観るべきである。家庭（家事など）においては共に気づくという意識を持つ（意識改革）。	

性別	年齢	内容
女  性	65～69歳	男女共同参画を声高くいうことがそれほど大切だとは思いません。男性であれ女性であれ、それぞれの立場でできることを精一杯成し遂げることが大事であると思います。つまり一番大切なのは、家庭と学校教育の充実です。 結婚適齢期の若者の未婚率が高過ぎると思います。役場主導での地域社会の取組みの必要を感じます。
		小さな子どもさんをお持ちのお母さんから、働く場所があっても子どもを預ける保育所がないという話を聞きます。今の若いお父さんはとても育児・家事に協力的です。しかし、その仕事場が非協力的で、父親が子育てのために会社を休むのはまだまだ難しいようです。家庭や学校では男女共同参画社会が進んでいるのに、社会、会社、行政、一番がんばって改革を推進している所が足踏みしているように感じるのは私だけでしょうか。今後の岡垣町に期待いたします。
		幼児の頃から父母が自ら行動で教え、さらに学校で男女平等教育を推進すべきだと思います。
	70～74歳	各種審議会、区長会、農業委員、防災会議など、女性参画率は年々上がっていると思いますが、まだまだ低いと思います。人口の半分は女性。全国に先がけて女性参画率が上がるよう、今までの社会通念を変革させるべく啓発できればと思います。一方で、女性の社会進出だけが男女共同参画社会づくりの方策ではなく、主婦も育児・介護など社会の重要な役割を担っていると思います。それぞれが認め合って支え合って生きる地域、国になればと思います。 男性だから女性だからという意識しなくて良い時代、あるいは地域になるといいなとも思っています。私は関東の方から移り住んで30年程になりますが、岡垣は海と山に囲まれた、住むにはとても環境の良いところですが、男女平等、男女共同という点では随分保守的だと感じています。地域づくりや男女共同参画等の働きかけもやっているのですが、何事に対してもPRや啓蒙が足りないとも感じています。我が家は夫婦とも70歳代ですが、亭主関白だった夫に買い物をお願いしたり、お風呂の掃除、ごみだし等少しずつですがしてもらって覚えてもらうことに取り組んでいます。女の仕事と決めていた人が、やればできるのです。昼ごはんも簡単ですが作ります。小さいことですが、こんな啓蒙が入口ではないでしょうか。

<付属資料：調査票>



## 男女共同参画に関する意識調査

### ◆男女共同参画社会とは・・・

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」（男女共同参画社会基本法第2条）をいいます。

### 【調査ご協力をお願い】

住民の皆さまには、日ごろから町政に対しご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

男女共同参画社会の形成は、21世紀の我が国の最重要課題に位置づけられています。岡垣町においても、男女共同参画に向けた取り組みを進めるため、平成16年に「岡垣町男女共同参画～ともに支えあい、ともに輝く～まちづくり条例」を施行し、平成20年に策定した「岡垣町第2次男女共同参画基本計画」に基づき、様々な事業を進めているところです。

さて、基本計画では、5年目の年に住民意識調査を実施することとなっています。

この調査は、町民の皆さまの現状やご意見をおうかがいし、前期（平成21年度～平成25年度）の事業内容の総括と後期（平成26年度～平成30年度）の新規施策に反映させるために町内にお住まいの18歳以上の男女1,300人を対象に実施するものです。

対象となる方から無作為に抽出した結果、あなたへ調査をお願いすることになりました。

お答えいただきました内容は、すべて統計的に処理し、個々のアンケート内容の公表や調査の目的以外には一切使用いたしません。

調査の趣旨をご理解の上、＜記入上のお願い＞をお読みいただきご記入ください。

お手数ですが、皆さまのご協力をお願いいたします。

平成26年1月

岡垣町長 宮内 實生  
(地域づくり課人権・男女共同参画係)

### ＜記入上のお願い＞

1. 回答は、調査票をお送りした宛名のご本人がお答えください。
2. 回答は、質問文に「1つだけ選んでください」「3つまで選んでください」と記載していますので、記載に従って、番号に○印をつけてください。
3. 記入は、鉛筆、ボールペンなどではっきりとご記入ください。
4. 各質問で「その他」にお答えいただいた方は、その内容をなるべく具体的にご記入ください。
5. 調査票、返信用封筒とも名前や住所を記入する必要はありません。
6. 調査票は、記入漏れがないか確認した上で、同封の返信用封筒に入れて1月24日(金)までに必ず投函をお願いします。※切手は不要です。

内容などについて、不明な点や疑問な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ先】 岡垣町役場地域づくり課人権・男女共同参画係 (TEL 282-1211)





問4. 現在、次の各分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア)から(ク)の分野について、それぞれ1つだけ選んでください。

		男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている
(ア) 家庭生活上で	⇒	1	2	3	4	5
(イ) 職場で	⇒	1	2	3	4	5
(ウ) 学校教育の場で	⇒	1	2	3	4	5
(エ) 地域で	⇒	1	2	3	4	5
(オ) 社会通念、慣習、しきたりなどで	⇒	1	2	3	4	5
(カ) 法律や制度のうえで	⇒	1	2	3	4	5
(キ) 政治の場で	⇒	1	2	3	4	5
(ク) 社会全体で	⇒	1	2	3	4	5

問5. あなたは「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。1つだけ選んでください。

1. 同感する	3. あまり同感しない
2. ある程度同感する	4. 同感しない





＜あなたの家庭、地域活動についておたずねします＞

問6. 家事についておたずねします。

(1) あなたは家事を男女で分担することについてどう思いますか。1つだけ選んでください。

<p>1. 男女とも同じように家事を行うのがよい</p> <p>2. どちらでも手のあいている方が家事をすればよい</p> <p>3. 家事は主として女性が行い、男性は女性を手伝う程度でよい</p> <p>4. 男性は家事をしなくてよい</p> <p>5. その他（具体的に： _____ )</p>
--

(2) あなたの家庭では、次にあげるようなことを、主にどなたがされていますか。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでください。ただし、未婚の方は、育ってきた家庭など、あなたのまわりのことを考えてお答えください。

	主に妻	主に妻、夫が一部を負担	同じ程度に分担	主に夫、妻が一部を負担	主に夫	その他
(ア) 家計を支える（生活費を稼ぐ） ⇒	1	2	3	4	5	6
(イ) 掃除、洗濯、食事の支度などの家事 ⇒	1	2	3	4	5	6
(ウ) 家計の管理 ⇒	1	2	3	4	5	6
(エ) 育児、子どものしつけ ⇒	1	2	3	4	5	6
(オ) 親の世話（介護） ⇒	1	2	3	4	5	6
(カ) 自治区などの地域活動 ⇒	1	2	3	4	5	6
(キ) 子どもの教育方針決定 ⇒	1	2	3	4	5	6
(ク) 高額の商品や土地、家屋の購入決定 ⇒	1	2	3	4	5	6

問7. 生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度についておたずねします。それぞれについてあてはまるものを1つだけ選んでください。ただし、未婚の方は、育ってきた家庭などあなたのまわりのことを考えてお答えください。

	「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	優先 「地域・個人の生活」を	「仕事」と「家庭生活」をともに優先	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先
(ア) あなたの希望	1	2	3	4	5	6
(イ) あなたの現実（現状）	1	2	3	4	5	6
(ウ) あなたのパートナーの現実（現状）	1	2	3	4	5	6

問8. 今後、男性が家事・子育て・介護に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。3つまで選んでください。

1. 男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす
2. 夫婦や家族間でのコミュニケーションを図る
3. 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重する
4. 社会の中で、男性による家事・子育て・介護についても、その評価を高める
5. 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする
6. 男性が家事・子育て・介護に関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
7. 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て・介護等の技能を高める
8. 男性が子育てや介護を行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめる
9. 家庭と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設ける
10. 特に必要なことはない
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問9. あなたは現在、地域づくりにかかわる活動に何か参加していますか。該当するものをいくつでも選んでください。

1. 子どもの育成に関する活動（育成会、PTA、子ども会など）
2. 自治区活動・校区コミュニティ活動
3. 清掃・リサイクル活動
4. 安全・防犯活動
5. 相互援助活動（高齢者支援、介護、育児、給食サービスなど）
6. 国際交流・国際貢献活動
7. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問10. (1) もし、あなたが地域づくり活動の代表や役職への就任を依頼されたらどうしますか。1つだけ選んでください。

- |              |           |
|--------------|-----------|
| 1. 積極的に引き受ける | 3. なるべく断る |
| 2. なるべく引き受ける | 4. 絶対に断る  |

(2) (1) で「3. なるべく断る」または「4. 絶対に断る」を選んだ方におたずねします。

それはなぜでしょうか。あなたがそう思う理由を1つだけ選んでください。

- |                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1. 子育てや介護などで忙しいから | 5. 今までの慣習から男性が就任しているから |
| 2. 仕事をしているから      | 6. その他                 |
| 3. 自分には荷が重いから     | [ _____ ]              |
| 4. 興味がないから        |                        |

問11. 地域活動において、女性の「参画」を進めるためには、あなたはどのようなことが最も必要だと思いますか。1つだけ選んでください。

1. 家族が家事・育児の分担をする
2. 男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する
3. 女性のリーダーを養成するための講座やセミナーを開催する
4. 育児や介護を支援するための施設を充実させる
5. さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する
6. 女性自身が積極的に参加する意識を持つ
7. 男性向けの育児や料理の講座、セミナーを開催する
8. 女性の参画は必要と思わない
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問 1 2. 地域活動に多くの人に参加していくためには、どのような環境や条件が必要だと思いますか。3つまで選んでください。

1. 地域活動に参加できる時間のゆとりがある
2. 地域活動をする経済的なゆとりがある
3. 地域活動が仕事や家庭生活と両立できる曜日や時間で設定されている
4. 一緒に活動できる仲間がいる
5. 地域に興味のある活動団体がある
6. 地域に活動に使える場所や施設がある
7. 地域の活動について情報を得ることができる
8. 地域活動をすることについて家族など周囲の理解がある
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問 1 3. 東日本大震災では災害直後や避難所運営に女性が参画していないことや、日ごろの防災や震災対応に女性の視点がないことなどの問題が指摘されました。災害に備えるために、これからどのようなことが必要だと思いますか。該当するものをいくつでも選んでください。

1. 町の防災会議や災害対策本部に女性の委員・職員を増やす
2. 避難所の運営に女性も参画できるようにする
3. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
4. 備蓄品について女性や介護者、障害者の視点を入れる
5. 避難所運営の基準などをつくり女性や子どもが安全に過ごせるようにする
6. 防災や災害現場で活動する女性のリーダーを育成する
7. 日頃からのコミュニケーション・地域でのつながりを大切にする
8. 日頃からの男女平等、男女共同参画意識を高める
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

### <子どもの教育についておたずねします>

問 1 4. 男女共同参画社会を築いていくために、小・中学校の教育の中で重要と思われるものは何ですか。3つまで選んでください。

1. 男女平等の意識を育てる授業を増やす
2. 男女が協力して物事を進める必要性を学ぶ
3. 一人ひとりの個性や人権を尊重することを学ぶ
4. 教職員を対象とした男女共同参画に関する研修会を開催する
5. 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう指導する
6. 性暴力やセクシュアル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する
7. 校長・教頭等の管理職に女性を増やす
8. 日常生活の中で男女平等の意識を育てる
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

<あなたの就業状況・職業観などについておたずねします>

問15. 女性が働くことについて、あなたはどのように思いますか。1つだけ選んでください。

1. 結婚するまでは、働いた方がよい
2. 子どもができるまでは、働いた方がよい
3. 子どもができて、ずっと働き続ける方がよい
4. 子どもができたら働くことをやめ、大きくなったら再び働く方がよい
5. 女性は働かない方がよい
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問16. 「働いている」方におたずねします。

あなたが現在勤めている職場は、育児休業や介護休業が取りやすいと思いますか。1つだけ選んでください。

1. 大変取りやすい
2. ある程度取りやすい
3. あまり取りやすいとは思わない
4. 取りやすいとは思わない

問17. 「働いていない」方におたずねします。

現在、働いていない理由は何ですか。3つまで選んでください。

1. 学生だから
2. 健康や体力の面で不安があるから
3. 家事・育児・介護に専念したいから
4. 家事・育児・介護の役目を自分が担わざるを得ないから
5. 家族が働くことを望まないから
6. 勤務場所、勤務時間、賃金などの勤務条件にあう仕事がないから
7. 自分が働かなくても、他の家族の収入で十分だから
8. 働かない方が自由に生きられるから
9. 働くつもりがない
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )





問23. パートナー（夫婦・恋人）との間で、一方が他方から身体的・心理的な暴力を受けるといことが問題視されていますが、あなたはパートナーからの暴力について身近で見聞きしたり、自分が受けたりしたことがありますか。該当するものをいくつでも選んでください。

1. 身近に暴力を受けた人がいる
2. 身近に言葉の暴力を受けた人がいる
3. 実際、暴力を受けたことがある
4. 実際、言葉の暴力を受けたことがある  →
5. 身近な人から相談を受けたことがある
6. 暴力についてうわさを耳にしたことがある
7. テレビや新聞などで問題になっていることを知っている
8. まったく知らない
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

問24. 問23で「3. 実際、暴力を受けたことがある」または「4. 実際、言葉の暴力を受けたことがある」を選んだ方におたずねします。

暴力を受けた後、あなたはどのように対応しましたか。該当するものをいくつでも選んでください。

1. 身内や友人・知人に相談した
2. 身内や友人・知人以外の相談窓口（行政機関、カウンセラーなど）に相談した
3. 身内や友人・知人の家に一時的に避難した
4. 身内や友人・知人以外の保護施設（行政機関、シェルターなど）に一時的に避難した
5. パートナーと別居した
6. 病院に行った
7. 警察に通報した
8. 何もしなかった
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )



問25. あなたは女性に対する暴力（性犯罪・売買春・パートナーからの暴力・セクハラなど）をなくすためにはどのようにすればよいと思いますか。該当するものをいくつでも選んでください。

1. 法律・制度の制定や見直しを行う
2. 加害者の処分を厳しくする
3. 捜査や裁判での担当者に女性を増やし、被害者が届けやすいようにする
4. 被害女性を支援し、暴力に対する住民運動を盛り上げる
5. 被害女性が安心して相談できる窓口を確保する
6. 被害女性を保護するための施設を整備する
7. 家庭・学校における男女平等や性についての教育を充実させる
8. 地域における男女平等意識の啓発を充実させる
9. 職場における男女平等意識を徹底させる
10. 過激で暴力的な内容の映像や、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する
11. テレビや新聞などのメディアが自主的な規制をする
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

**☆DVやセクハラ、生き方、家庭のことなど様々な悩みで  
相談したい場合は・・・**

**「おかがきホットライン」をご利用ください。（秘密厳守）**

**☎093-561-5737（毎週水曜日 午前10時～午後5時）**

**※祝日・年末年始を除く**

**女性の相談員が電話で応じます。**

＜男女共同参画関連施策などについておたずねします＞

問26. あなたは岡垣町が男女の人権の尊重などの6つの基本理念を基にした、「岡垣町男女共同参画条例～ともに支えあい、ともに輝く、まちづくり条例～」を制定していることを知っていますか。1つだけ選んでください。

1. 知っている                      2. 聞いたような気がする                      3. 知らない

問27. あなたは岡垣町が実施している以下の事業を知っていますか。また、参加（利用）したことはありますか。（ア）～（カ）の認知状況、参加（利用）状況のそれぞれについて、1つだけ選んでください。

	認知状況		参加（利用）状況	
	知っている	知らない	参加（利用）したことがある	参加（利用）したことはない
（ア） 広報・ホームページによる男女共同参画に関する情報の提供 ⇒	1	2	1	2
（イ） 男女共同参画に関する講演会の開催 ⇒	1	2	1	2
（ウ） 男女共同参画に関する公民館講座の開催 ⇒	1	2	1	2
（エ） 男女共同参画に関する図書の充実（岡垣サンリーアイ図書館内） ⇒	1	2	1	2
（オ） 「おかがきホットライン（女性のための悩みごと電話相談）」の開設 ⇒	1	2	1	2
（カ） 「男女共同参画推進リーダー養成講座」の開催 ⇒	1	2	1	2

問28. 男女の意見を平等に施策へ反映させていくために、何が一番重要だと思われるか。1つだけ選んでください。

1. 女性がもっと議会に進出する  
 2. 町関係の審議会、委員会などの女性委員を積極的に増やす  
 3. 町政のあらゆる分野に女性職員を配置する  
 4. 町職員の女性管理職数を増やす  
 5. 区や自治会の役員などに女性が多く参加する  
 6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問29. あなたは男女共同参画をより一層進めるために、町に対してどのような施策を望みますか。3つまで選んでください。

1. 組織における女性管理職者数を増やす
2. 女性・男性の生き方に関する情報提供や交流、相談、研修などの機能を充実させる
3. 審議会など行政の施策・方針を決定する場に女性の参加を増やす
4. 各種団体の女性のリーダーや企業における管理職を養成する
5. 男女共同参画についての意識啓発やPRを強化する
6. 学校で男女平等教育を推進する
7. 保育所・学童保育所の整備、育児休業・介護休暇（休業）制度の普及など、男女がともに働き続けられるための条件整備を進める
8. 高齢者や障害者（児）の介護者への支援施策を充実させる
9. 女性のための各種相談窓口を充実させる
10. DV被害者の個人情報管理などの支援を強化する
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問30. 岡垣町では、男女共同参画社会の実現に向けた取組みを進めるにあたり、男女共同参画実行計画の見直しを進めていますが、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。

～引き続き、次ページの「町の防災に関するアンケート」にご協力ください。～

町の防災に関するアンケートにご協力ください。

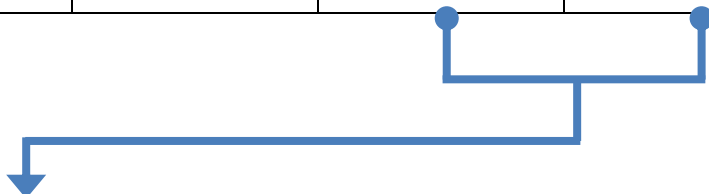
問. 火災や自然災害時の安全性についてお尋ねします。

岡垣町では、火災や自然災害などから住民の安全を守る取り組みとして、避難所入口にハイブリット表示灯の設置や緊急防災無線の設置、防火水槽の設置、避難経路となる道路の整備などの様々な事業を実施しています。

また災害時には国の全国瞬時警報システム（J-アラート）、県の防災メールまもる君、町の緊急防災無線、有線放送、携帯電話エリアメール、ホームページ、広報車などあらゆる手段で情報伝達を行うこととしており、26年度には地震や津波、土砂災害、洪水に関する防災マップを全戸に配布する予定です。

現在の岡垣町の防災対策に対する考えについて、あてはまる欄に『○』をつけてください。

満足	やや満足	やや不満足	不満足



「やや不満足」又は「不満足」に ○ をつけられた方におたずねします。その理由をお聞かせください。

【理由】

